茨城県教育財団文化財調査報告第224集

当向遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下　　巻

平成16年3月

日本道路公団
財団法人　茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第224集

当向遺跡 1

北関東自動車道（協和～友部）建設
事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ

下　　巻

平成16年3月

日本道路公団
財団法人　茨城県教育財団

目　　次

－下　巻－

4　奈良・平安時代の遺構と遺物……323
(1)　竪穴住居跡……323
(2)　掘立柱建物跡……378
(3)　溝跡……407
(4)　柵跡……408
(5)　土坑……411
(6)　遺構外出土遺物……425
5　中・近世の遺構と遺物……428
(1)　竪穴住居跡……428
(2)　掘立柱建物跡……430
(3)　地下式壙……431
(4)　墓壙……440
(5)　火葬施設……441
(6)　溝跡……442
(7)　井戸跡……446
(8)　柵跡……449
(9)　道路跡……451
(10)　土坑……453
(11)　ピット群……459
(12)　その他の遺構（段切り遺構）……461
(13)　遺構外出土遺物……463
6　その他の遺構と遺物……464
(1)　方形竪穴状遺構……464
(2)　溝跡……465
(3)　柵跡……466
(4)　土坑……466
(5)　遺構外出土遺物……489
第4節　まとめ……509
付章……528
写真図版

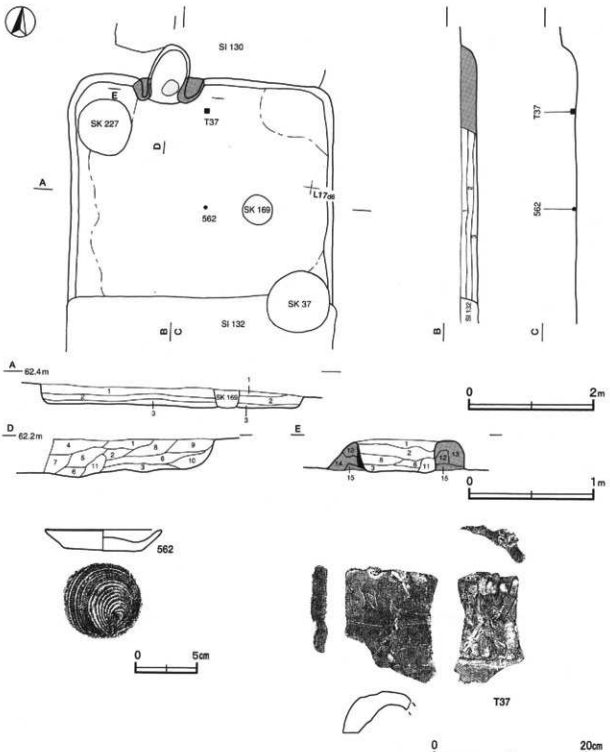
4　奈良・平安時代の遺構と遺物

(1)　竪穴住居跡

第131号住居跡（第272図）

位置　調査区中央部のL17c5区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第130号住居跡，第226号土坑を掘り込み，第132号住居，第37・169・227号土坑に掘り込まれて



第272図　第131号住居跡・出土遺物実測図

いる。

規模と形状　確認できたのは長軸4.2m，短軸3.5mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－8°－Wである。壁高は18～30cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，壁際を除き踏み固められている。

竈　北壁のやや西寄りに位置している。規模は焚き口部から煙道部先端まで100cm，袖部幅は110cmである。煙道部は壁外へ50cmほど平坦に掘り込み，外傾して立ち上がっている。天井部は崩落し，構築材と考えられる砂質粘土や石材が覆土中に見られる。袖部はローム土を基部とし，その上に粘土を芯材，石材を補強材とし砂質粘土を盛り上げて構築されている。火床部は赤変硬化し，焼土が厚く堆積している。

竈土層解説

1	灰黄褐色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック・焼土粒子微量	8	褐色	焼土ブロック少量，炭化物微量
2	暗褐色	焼土ブロック・炭化粒子微量	9	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	10	暗褐色	焼土粒子少量，ローム粒子微量
4	暗褐色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量	11	褐灰色	砂質粘土粒子多量
5	にぶい黒色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量	12	褐灰色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量
6	暗赤褐色	炭化粒子少量，焼土ブロック微量	13	にぶい黄褐色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子・炭化物微量
7	暗赤褐色	焼土ブロック少量，炭化粒子微量	14	灰黄褐色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子・炭化粒子微量
			15	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　3層からなる。水平な堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	3	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量			

遺物出土状況　土師器片242点（坏類113，甕類129），灰釉陶器片1点（瓶），鉄滓12点，瓦2点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片1点，須恵器片17点（坏類4，甕類13）が出土している。562は中央部の床面から正位で，T37は竈石袖前面の床面から逆位で，それぞれ出土している。

所見　時期は，重複関係と出土土器から10世紀末から11世紀初めごろと考えられる。

第131号住居跡出土遺物観察表（第272図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
562	土師器	小皿	9.2	1.8	5.4	石英・長石・雲母	橙	普通	ロクロナデ，底部回転糸切り	床面	85% PL99

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T37	丸瓦	(14.5)	(8.9)	3.2	(440.0)	土	凸面ヘラ削り，凹面上部布目痕，ヘラナデ，摺漏板	床面	

第132号住居跡（第273図）

位置　調査区中央部のL17d5区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第104・120・131・133号住居跡，第32・33号土坑を掘り込み，第37号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.3m，短軸2.8mの長方形で，主軸方向はN－86°－Eである。壁高は20～25cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，東部から中央部の広範囲が踏み固められている。

竈　東壁の中央部に位置している。規模は焚き口部から煙道部先端まで120cm，焚き口部の幅は60cmである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込み緩やかに外傾して立ち上がり，袖山が赤変硬化している。天井部と袖部は住居廃絶時に破壊されたと推定され，火床部上に砂質粘土主体の構築材が大量に堆積している。第6～8層がこれに該当する。右袖部は僅かに壁際のみ残存している。火床部は皿状に10cmほどくぼみ，赤変硬化している。

覆土層解説

1	暗赤褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量
2	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
3	にぶい赤褐色	焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
4	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
5	橙　　色	焼土粒子多量
6	暗　褐　色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
7	黒　褐　色	砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
8	褐　灰　色	砂質粘土粒子中量
9	黒　褐　色	焼土粒子微量
10	暗赤褐色	焼土粒子少量

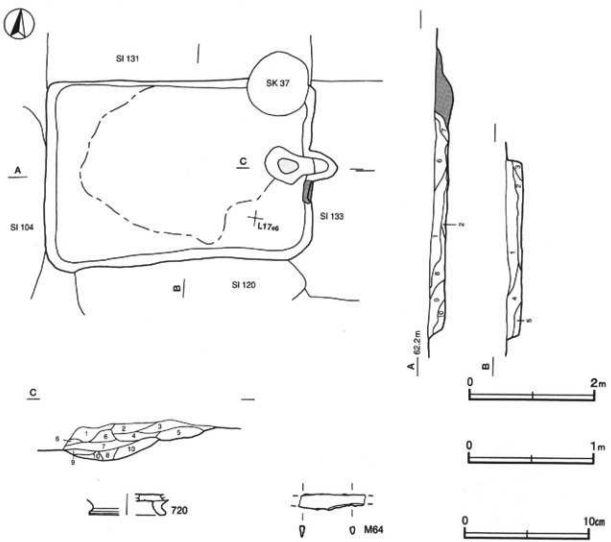
覆土　10層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐　　色	ロームブロック中量
2	暗　褐　色	ローム粒子中量
3	黒　褐　色	ローム粒子少量
4	褐　　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
5	暗　褐　色	ローム粒子中量，焼土粒子少量
6	暗　褐　色	ロームブロック微量
7	褐　　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
8	暗　褐　色	ロームブロック少量
9	にぶい黄褐色	ローム粒子少量
10	黒　褐　色	ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片89点（坏類44，甕類45），灰釉陶器片１点（瓶），鉄製品１点（刀子），鉄滓２点の他，埋没時に混入したと考えられる須恵器片14点（坏類８，甕類５，高盤１）が出土している。720は南東部の覆土中から，M64は，南西部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，重複する第131号住居跡が10世紀末ごろと推定されることと出土土器から，11世紀前半ごろと考えられる。



第273図　第132号住居跡・出土遺物実測図

第132号住居跡出土遺物観察表（第273図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
720	土師器	高台付椀	－	(1.2)	[6.0]	長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ，内面ヘラ磨き	覆土中層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M64	刀子	(5.3)	1.3	0.4	(5.9)	鉄	刀身断面三角形，先端部・茎部欠損	覆土下層	

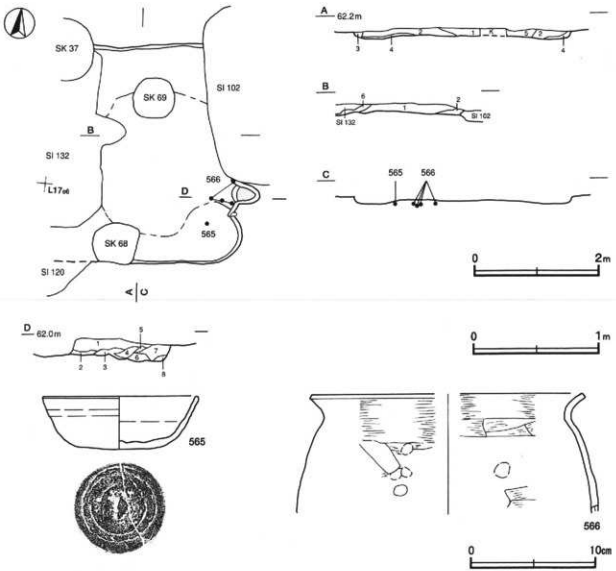
第133号住居跡（第274図）

位置　調査区中央部のL17d6区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第120号住居跡を掘り込み，第102・132号住居，第37・68・69号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認できたのは長軸3.5m，短軸2.1mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－84°－Eである。壁高は10～15cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前面から中央部が踏み固められている。



第274図　第133号住居跡・出土遺物実測図

竈　東壁のやや南寄りに位置しているが，上部は削平されている。規模は，焚き口部から煙道部先端まで50cm，焚き口部の幅は40cmで袖部は確認されなかった。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込み，わずかに外傾して立ち上がっている。覆土中に砂質粘土がわずかしか見られないことから，天井部・袖部が破壊された後，構築材は取り除かれたと考えられる。石袖と想定される位置からは石材が出土しており，補強材と考えられる。火床部はわずかにくぼみ赤変硬化しており，上部に焼土が堆積している。

竈土層解説

1　黒　褐　色　焼土ブロック・ローム粒子・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子微量
4　暗 赤 褐 色　焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
5　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
6　暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・炭化粒子微量
7　黒　褐　色　焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
8　暗　褐　色　ローム ブロック微量

覆土　5層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。第6層は，第132号住居の竈の熱を受けた層である。

土層解説

1　暗　褐　色　ローム粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子微量
3　褐　　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ローム粒子多量
5　黒　褐　色　ローム粒子少量
6　暗 赤 褐 色　ローム粒子・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片71点（坏類23，甕類48），陶器片1点（擂鉢），石材6点の他，埋没時に混入したと考えられる須恵器片8点（坏類）が出土している。566は竈前面の床面から出土している。

所見　時期は，住居の規模・形状と出土土器から10世紀後半ごろと考えられる。

第133号住居跡出土遺物観察表（第274図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
565	土師器	坏	12.2	4.2	7.0	石英・赤色粒子・雲母	橙	普通	ロクロナデ，底部回転ヘラ切り	床面	65%	PL94
566	土師器	甕	[21.6]	(9.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部内外面ナデ	床面	5%	

第134号住居跡（第275・276図）

位置　調査区西部のK16b3区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第40号住居跡・第125号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　北側が撹乱により破壊されていることから，確認できたのは長軸3.4m，短軸3.3mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－90°－Eである。壁高は22～25cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で竈前面から中央部が踏み固められている。

竈　東壁の中央部やや南寄りに位置しているが，撹乱により煙道部付近が破壊されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで140cm，焚き口部の幅は70cmで，袖部は原形をとどめない。煙道部は壁外へ80cmほど掘り込まれ外傾して立ち上がっている。天井部は崩落し，第1・2層に構築材の砂質粘土が見られる。袖部付近には石材や土師器甕の破片が見られ，袖部や煙道部の補強材として使用された可能性がある。火床部は皿状にわずかにくぼみ，焼土が堆積している。

竈土層解説

1　褐 灰 色　砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量
2　灰 黄 褐 色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　赤　褐　色　焼土粒子・炭化粒子少量，砂質粘土粒子微量

灰溜　中央部に位置している。確認状況では長径80cm，短径40cmの長楕円形で，掘り込みは見られない。堆積物下の床面は硬化しておらず，性格は不明である。

灰溜土層解説

1	灰	褐	色	炭化粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量

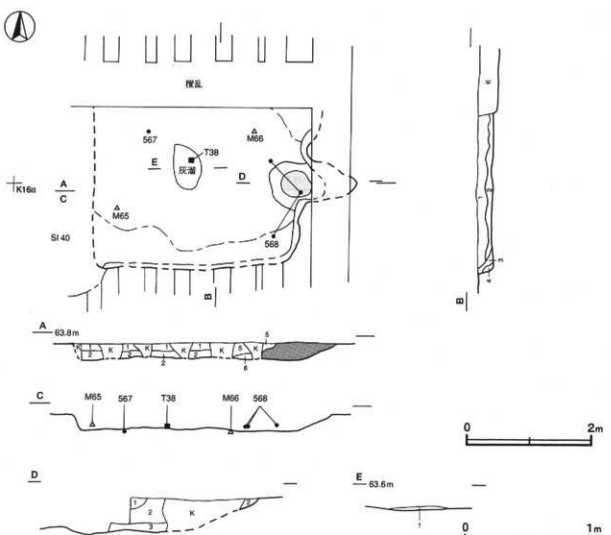
覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。第5・6層は竈の覆土が流れ出したものである。

土層解説

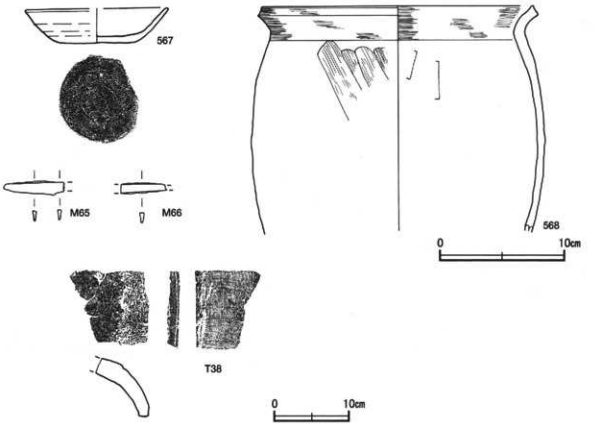
1	褐	色	ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	4	明	褐	色	ローム粒子多量，砂質粘土粒子微量
2	褐	色	ローム粒子・焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量	5	褐		色	ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	6	暗	褐	色	焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ロームブロック炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片155点（坏類67，甕類88），灰釉陶器片1点（瓶），鉄製品2点（刀子），石材17点，鉄滓4点，瓦5点，粘土塊6点の他，埋没時に混入したと考えられる須恵器片5点（坏類3，甕類2）が出土している。568は竈内及び周辺の覆土下層から破片の状態で出土しており，撹乱によって破壊されたものと考えられる。T38は中央部の灰溜上から正位で出土している。これらは，廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第275図　第134号住居跡実測図



第276図　第134号住居跡出土遺物実測図

第134号住居跡出土遺物観察表（第276図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
567	土師器	坏	[11.4]	2.7	5.8	石英・長石	橙	普通	ロクロナデ，底部糸切り後ヘラ削り	床面	25%
568	土師器	甕	21.6	(18.0)	－	石英・長石	にぶい黄橙	普通	体部外面ナデ	竈・覆土下層	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M65	刀子	(4.8)	1.0	0.25～0.30	(3.88)	鉄	刀身断面三角形，茎部欠損	覆土中層	
M66	刀子	(4.7)	0.8	0.36	(3.22)	鉄	刀身両端欠損	床面	
T38	丸瓦	(10.4)	(7.0)	2.4	(240.0)	土	凸面ヘラ削り，凹面布目痕，吊紐痕	灰溜上	被熱痕有り

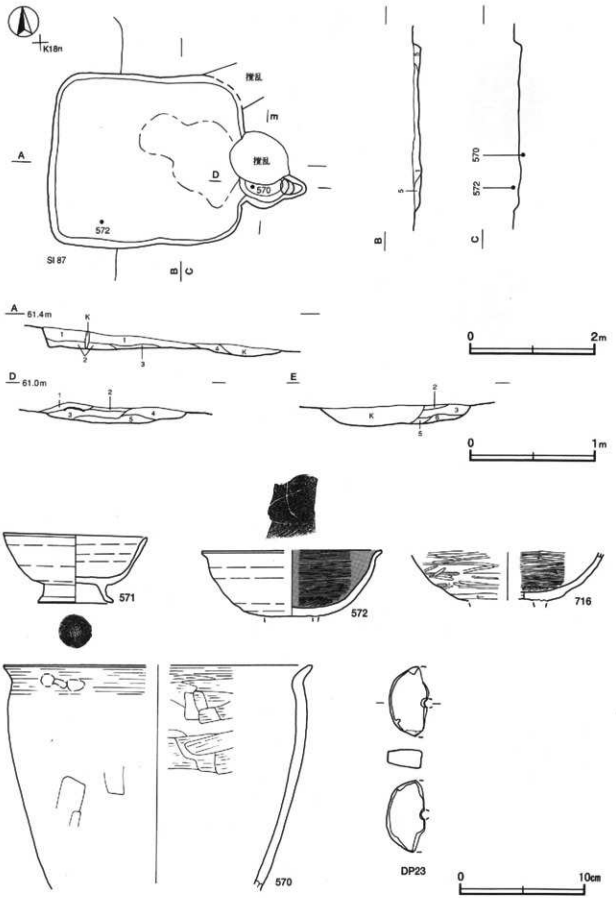
第135号住居跡（第277図）

位置　調査区中央部のK18f1区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第87号住居跡，第53・61・62・507号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.1m，短軸2.7mの長方形で，主軸方向はN－97°－Eである。壁高は8～25cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，竈前から中央部にかけて踏み固められている。



第277図　第135号住居跡・出土遺物実測図

竈　東壁の南寄りに位置しているが北側は攪乱により破壊されている。残存部の規模は焚き口部から煙道部先端まで110cm，焚き口部の幅は推定で50cmほどある。壁外へ100cmほど掘り込んで構築されており，煙道部は緩やかに外傾して立ち上がっている。削平により上部は失われているが覆土上層に砂質粘土がわずかに含まれており，天井部が崩落したものと考えられる。覆土には多量の焼土が含まれ，火床部は赤変硬化している。焚き口付近から土師器甕が横位で出土している。

竈土層解説

1	褐灰色	ローム粒子中量，焼土粒子・砂質粘土粒子微量	4	赤褐色	焼土粒子中量
2	暗赤褐色	焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量	5	暗赤褐色	焼土粒子中量，ローム粒子少量
3	暗赤褐色	焼土ブロック少量	6	極暗赤褐色	焼土粒子少量，炭化粒子微量

覆土　5層からなる。西側の斜面上部より土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子・炭化物・焼土粒子微量	4	暗褐色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	5	黒色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
3	暗褐色	ローム粒子少量			

遺物出土状況　土師器片76点（坏類40，甕類36），灰釉陶器片2点（瓶），土製品1点（紡錘車），粘土塊9点の他，埋没時に混入したと考えられる須恵器片14点（坏類8，甕類6）が出土している。570は竈内から横位で出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。572は南壁際から破片で出土しており，廃絶直後に混入したものと考えられる。571・716は竈脇の攪乱から出土しているが，本跡に伴う遺物が混入したものと推測される。

所見　時期は，出土土器から10世紀末ごろと考えられる。

第135号住居跡出土遺物観察表（第277図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
570	土師器	甕	[24.4]	(17.9)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	竈	20%
571	土師器	高台付椀	11.4	5.5	5.8	長石・石英	にぶい橙	普通	ロクロナデ，高台貼り付け	覆土中	60%　PL95
572	土師器	高台付椀	[14.2]	5.3	－	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土下層	20%　ヘラ記号[×]
716	土師器	高台付椀	－	(3.9)	－	石英・赤色粒子	にぶい橙	普通	体部内外面ヘラ磨き	覆土中	20%　焼土付着

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP23	紡錘車	(3.6)	(3.1)	1.5	(22.7)	土	ナデ，孔径0.7，1/2欠損	覆土中	

第136号住居跡（第278図）

位置　調査区中央部のK16i0区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第131・132号土坑を掘り込み，第95号住居，第118号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認できたのは長軸2.6m，短軸2.5mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－5°－Wである。壁高は12～20cmで，各壁とも直立している。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁中央に位置している。規模は焚き口部から煙道部先端まで70cm，焚き口部の幅は30cmで，袖部は残存していない。煙道部は壁外に20cmほど掘り込み，途中に段を持ちながら外傾して立ち上がっている。上部は削平されているが，第1層が崩落した天井部と考えられる。火床部は目立った硬化面や赤変箇所は見られなかった。

覆土層解説

1 灰黄褐色　砂質粘土粒子多量，ロームブロック微量
2 黒　褐　色　ローム粒子微量
3 暗　褐　色　ロームブロック・砂質粘土粒子微量
4 にぶい黄褐色　ローム粒子少量
5 灰　褐　色　焼土粒子・砂質粘土粒子微量
6 黒　褐　色　焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 にぶい黄褐色　ローム粒子多量
8 黒　褐　色　砂質粘土粒子微量

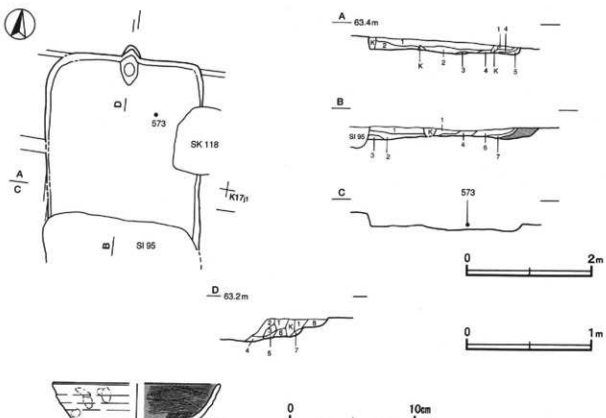
覆土　7層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

1 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・焼土粒子微量
3 褐　色　ローム粒子微量
4 褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 褐　色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6 暗　褐　色　ローム粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
7 暗　褐　色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片35点（坏類26，甕類9），須恵器片13点（坏類10，甕類3），粘土塊1点が出土している。573は中央部の覆土下層から破片の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後半ごろと考えられる。



第278図　第136号住居跡・出土遺物実測図

第136号住居跡出土遺物観察表（第278図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
573	土師器	坏	[13.4]	3.3	[7.8]	石英・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土下層	20%

第137号住居跡（第279図）

位置　調査区中央部のK16g0区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第2号掘立柱建物跡を掘り込み，第5号住居，第126号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認されたのは長軸4.2m，短軸2.6mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－4°－Eである。壁高は19～34cmで，各壁ともほぼ直立している。

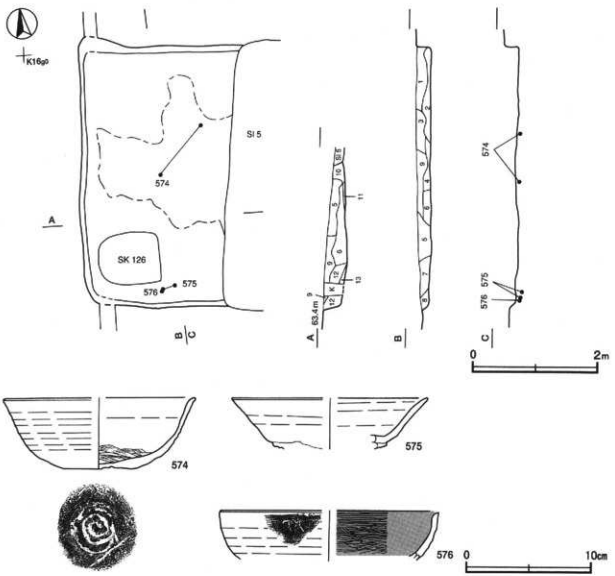
床　やや起伏があり，中央部は踏み固められている。

覆土　13層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量	7	黒　褐　色	ロームブロック・炭化物微量
2	にぶい黄褐色	ローム粒子・炭化粒子微量	8	黒　褐　色	ローム粒子微量
3	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量	9	黒　褐　色	ロームブロック中量，焼土粒子微量
4	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化物微量	10	黒　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
5	暗　褐　色	ロームブロック中量，焼土ブロック・砂質粘土粒子微量	11	にぶい黄褐色	ロームブロック少量
			12	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量
6	黒　褐　色	ロームブロック微量	13	にぶい黄褐色	ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片67点（坏類38，甕類29），石材10点の他，埋没時に混入した弥生土器片３点，須恵器片15点（坏類６，甕類９）が出土している。575・576は南壁際の床面から，574は中央部の床面からいずれも破片で出土している。住居廃絶直後に混入したものと考えられる。



第279図　第137号住居跡・出土遺物実測図

所見　時期は，出土土器から10世紀前半ごろと考えられる。

第137号住居跡出土遺物観察表（第279図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
574	土師器	椀	[15.0]	5.6	5.5	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ，内底面ナデ，底部回転ヘラ切り	床面	30%
575	土師器	高台付椀	[15.6]	(4.0)	－	長石・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ	床面	20%
576	土師器	椀	[17.4]	(3.9)	－	石英・白色粒子	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	床面	5% ヘラ記号 □ 内外

第138号住居跡（第280図）

位置　調査区中央部のK16的区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

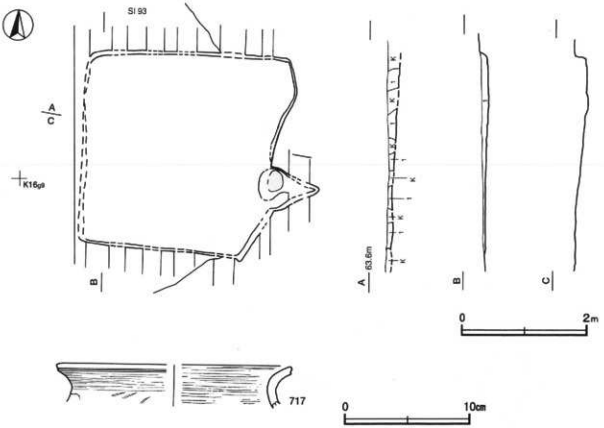
重複関係　第93号住居跡，第２号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸3.4m，短軸3.3mの方形と推定され，主軸方向はN－84°－Wである。壁高は７～20cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，東へわずかに傾斜している。

竈　東壁の南東コーナー寄りに位置しているが，撹乱によりほとんど破壊されている。残存部の規模は焚き口部から煙道部先端まで100cm，焚き口部の幅は80cmである。壁外へ100cmほど掘り込んで構築されており，煙道部は直立している。火床部は赤変硬化し，大量の焼土が堆積している。

覆土　単一層である。覆土が薄く堆積状況は不明である。



第280図　第138号住居跡・出土遺物実測図

土層解説
1　黒　褐　色　　ロームブロック・炭化物・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片28点（坏類７，甕類21），須恵器片１点（坏類）の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片１点が出土している。717は覆土下層から出土している。

所見　時期は，当遺跡における東竈を持つ住居の年代と出土土器から10世紀代と考えられる。

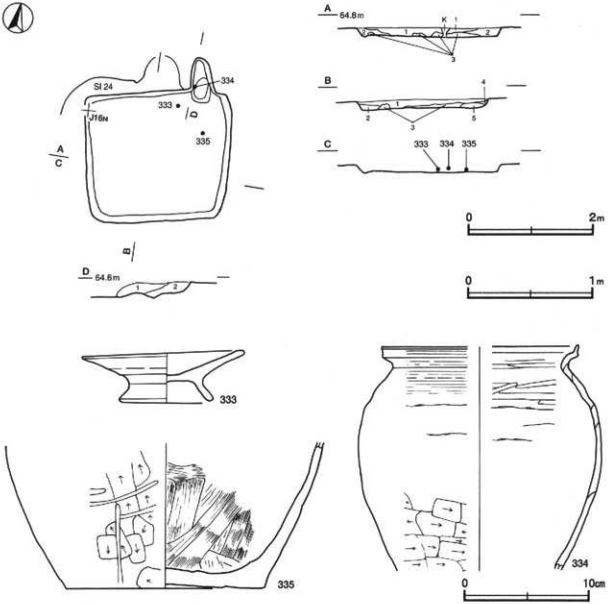
第138号住居跡出土遺物観察表（第280図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
717	土師器	甕	［18.5］	(3.3)	－	石英・長石・赤色粒子・雲母	明赤褐	普通	横ナデ	覆土下層	5%

第139号住居跡（第281図）

位置　調査区中央部のＪ16f4区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第24号住居跡を掘り込んでいる。



第281図　第139号住居跡・出土遺物実測図

規模と形状　長軸2.3m，短軸2.1mの方形で，主軸方向はN－3°－Wである。壁高は14cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁の東寄りに位置しているが，上部は削平されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで70cm，焚き口部の幅30cmで，袖部は確認できなかった。煙道部は壁外へ60cmほど平坦に掘り込まれ直立している。火床部は目立った硬化面や赤変箇所は見られず，特定できなかった。

竈土層解説

1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2　暗赤褐色　焼土粒子少量

覆土　5層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　色　ローム粒子中量
4　黒　色　ローム粒子微量
5　暗暗褐色　焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片132点（坏類36，甕類96），須恵器片30点（坏類10，甕類20）が出土している。333は北部の床面から正位で，334は竈内から横位で出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。335は竈前面の床面から破片で出土しており，廃絶直後に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半ごろと考えられる。

第139号住居跡出土遺物観察表（第281図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
333	土師器	高台付椀	12.7	5.1	7.5	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	ロクロナデ	床面	95%　PL100
334	土師器	甕	(15.6)	(17.9)	－	石英・長石・雲母	褐	普通	体部外面ナデ，内面一部棒状工具によるナデ	火床部上	20%
335	土師器	甕	－	(11.5)	15.8	石英・長石	にぶい褐	普通	体部外面削り後ナデ，底部ヘラ削り	床面	25%

第140号住居跡（第282図）

位置　調査区西部のK15h0区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第16・17・18号住居，第84・180号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.4m，短軸3.9mの長方形で，主軸方向はN－5°－Eである。壁高は24～34cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，南壁際から竈前面まで踏み固められている。

竈　北壁の中央部に位置しているが，上部は第18号住居に破壊されている。規模は焚き口部から残存する煙道部まで90cm，焚き口部の幅は70cmである。煙道部は壁に沿って直立している。右袖は地山を掘り残した土台部が残存している。

覆土　11層からなる。ブロック状の人為堆積と考えられる。第8～11層は竈からの流出である。

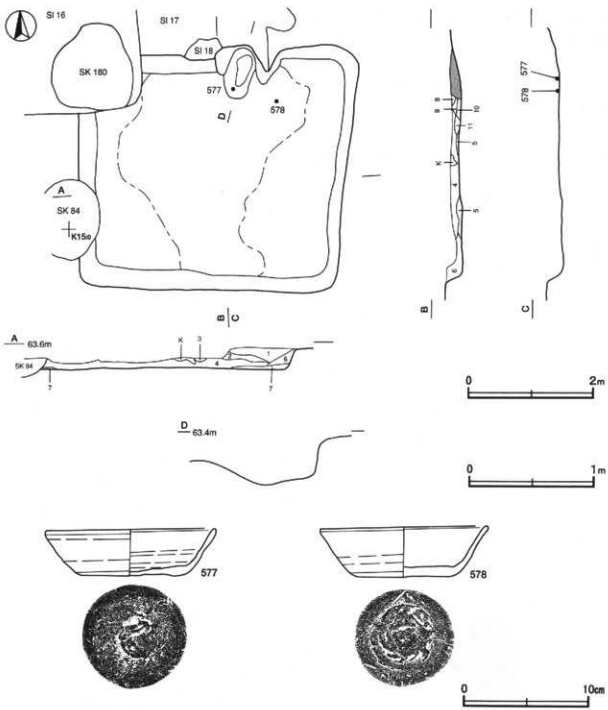
土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土粒子微量
4　暗　褐　色　ロームブロック・焼土ブロック微量
5　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量
7　褐　色　ロームブロック少量
8　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量，焼土粒子微量

9　にぶい黄褐色　砂質粘土粒子中量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
10　褐　色　砂質粘土粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
11　暗 褐 色　砂質粘土粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片93点（坏類20，甕類73），須恵器片16点（坏類11，甕類５），石材５点，粘土塊３点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片４点が出土している。577は竈の焚き口から逆位で，578は北東部の床面から正位で出土している。これらは，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第282図　第140号住居跡・出土遺物実測図

第140号住居跡出土遺物観察表（第282図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
577	須恵器	坏	13.4	3.8	8.0	石英・長石・雲母	灰	普通	ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後ナデ	竈焚き口	10% 最子ヵ PL86
578	須恵器	坏	13.3	4.2	7.5	石英・長石・雲母	灰	普通	ロクロナデ，底部回転ヘラ切り後ナデ	床面	80% 最子ヵ PL86

第142号住居跡（第283図）

位置　調査区西部のK16f2区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第45号住居に掘り込まれている。

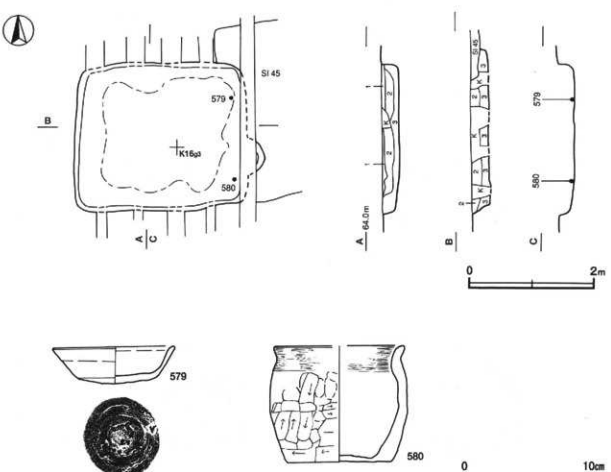
規模と形状　長軸3.0m，短軸2.4mの方形で，主軸方向はN－90°－Eである。壁高は17～29cmで，各壁とも直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。

竈　東壁上にある攪乱内に見られる焼土の範囲が竈の痕跡と考えられるが，攪乱によってほとんど破壊されている。

覆土　3層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子微量
2　褐　　色　　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量



第283図　第142号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片65点（坏類20，甕類45），石材２点，鉄滓１点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片１点，須恵器片４点（甕類）が出土している。579は北東部の床面から正位で出土している。580は竈付近の床面から破片で出土しているが，これは撹乱によって破壊されたものと推定される。いずれも住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

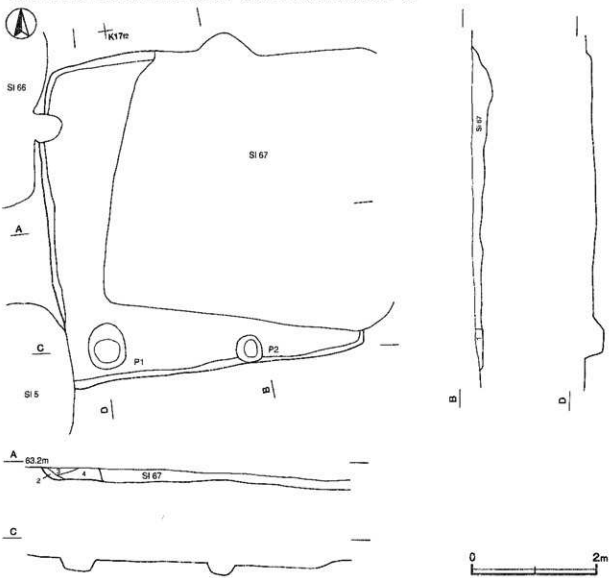
所見　時期は，出土土器から第45号住居に先行する10世紀前半と考えられる。

第142号住居跡出土遺物観察表（第283図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
579	土師器	坏	9.6	3.0	6.3	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ	床面	95%	PL99
580	土師器	小形甕	(10.2)	9.2	8.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	床面	30%	

第145号住居跡（第284図）

位置　調査区中央部のK17f2区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。



第284図　第145号住居跡実測図

重複関係　第５・66・67号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸5.0m，短軸4.6mの長方形で，主軸方向はＮ－１°－Ｅである。壁高は11～17cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。

ピット　２か所。Ｐ１は深さ18cmで，主柱穴と考えられる。Ｐ２は深さ18cmで，南壁の中央部に位置することから，出入口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　４層からなる。壁際から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

1	黒 褐 色	ロームブロック微量	3	暗 褐 色	ロームブロック微量
2	暗 褐 色	ローム粒子少量	4	暗 褐 色	ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片17点（坏類９，甕類８），須恵器片１点（甕類）の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片１点が出土している。土器片はいずれも細片で図化できるものはなかったが，ロクロ整形された土師器椀が出土している。

所見　時期は，重複する第66号住居の時期が９世紀後葉であることと出土土器から，９世紀前葉から中葉と考えられる。

第147号住居跡（第285図）

位置　調査区西部のＪ16h5区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

規模と形状　削平により床面が露出しており，硬化面・竈のみ確認できた。主軸方向は特定できない。

床　ほぼ平坦である。

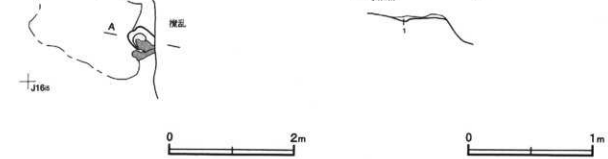
竈　硬化面の東側に粘土・焼土が見られ，竈の基部と推定される。

竈土層解説

1	暗 赤 褐 色	焼土粒子中量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片５点（坏類３，甕類２）が出土している。土器片はいずれも小片で図化できるものは無かった。

所見　時期を決定する土器はないが，当遺跡における東竈を持つ住居の年代から，10世紀代と推定される。



第285図　第147号住居跡実測図

第150号住居跡（第286図）

位置　調査区中央部のＪ16h4区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第30号住居跡を掘り込み，第28号住居に掘り込まれている。

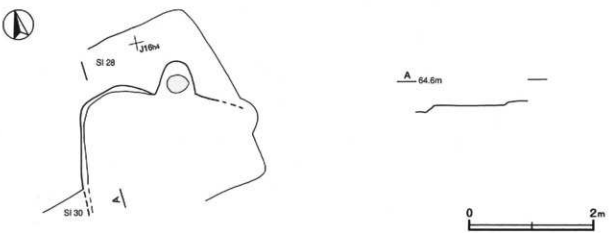
規模と形状　確認できたのは長辺2.1m，短辺1.3mで方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－12°－Ｅである。残存する壁高は４cmほどである。

床　ほぼ平坦である。

竈　北壁の中央部に位置しているが，第28号住居に破壊されているため構築材は全て失われ，火床部のみ残存している。

遺物出土状況　遺物は認められなかった。

所見　時期は，重複する第28号住居の時期が10世紀後半ごろと推定されることから，10世紀後半以前と考えられる。



第286図　第150号住居跡実測図

第151号住居跡（第287図）

位置　調査区東部のＬ18i9区に位置し，東へ傾斜する斜面上に立地している。

重複関係　第169号住居跡を掘り込み，第26・27号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.5m，短軸2.1mの長方形で，主軸方向はＮ－22°－Ｗである。壁高は10cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　起伏があり軟弱である。壁溝は西壁下と北東及び南西コーナー部に見られ，断面Ｕ字形である。

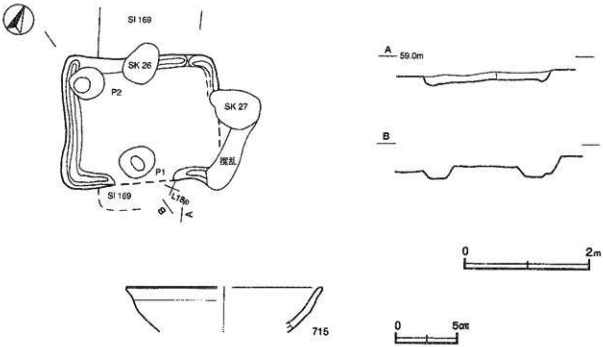
ピット　２か所。性格は不明である。

覆土　単一層である。覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片64点（坏類42，甕類22），鉄滓２点の他，埋没時に混入したと考えられる土師器片４点（高坏），須恵器片１点（坏類）が出土している。土器片はいずれも小片で全域に散在して出土している。715は覆土下層から出土している。

所見　竈の痕跡は認められなかったが，第26号土坑または第27号土坑に破壊された可能性がある。住居として扱ったが生活の場としては小規模であり，わずかながら鉄滓が出土していることなどから，工房あるいは倉庫と推測される。時期は，出土土器から10世紀ごろと考えられる。



第287図　第151号住居跡・出土遺物実測図

第151号住居跡出土遺物観察表（第287図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
715	土師器	椀	(15.7)	(3.1)	－	石英・長石	褐	普通	ロクロナデ	覆土中	5%

第152号住居跡（第288・289図）

位置　調査区中央部の J 16j0区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第51・52号住居跡を掘り込み，第59号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸3.9m，短軸3.5mの長方形で，主軸方向はN－90°－Eである。壁高は22～36cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦で，北東部が踏み固められている。

竈　東壁の北東コーナー部寄りに位置している。規模は焚き口部から煙道部先端まで70cm，袖部幅100cmである。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ外傾して立ち上がっている。天井部は崩落し左袖は破壊されているが，瓦が左袖付近と竈の覆土上部から出土しており，被熱痕があることから，補強材として利用されたと考えられる。火床部は掘り込まれておらず，火床面は直径15cmほどの円形に赤変硬化している。

竈土層解説

1　暗褐色　砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量
3　灰褐色　砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量
4　灰褐色　砂質粘土粒子中量，炭化粒子少量
5　暗褐色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量，炭化粒子微量
6　極暗褐色　焼土粒子少量，炭化粒子微量
7　暗褐色　焼土粒子少量

ピット　2か所。P 1は深さ15cmで，柱穴と考えられる。P 2は深さ18cmで，性格は不明である。

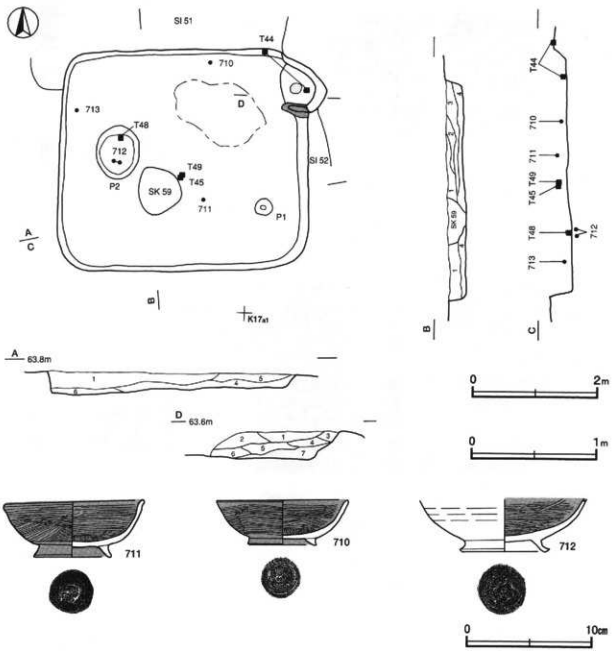
覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

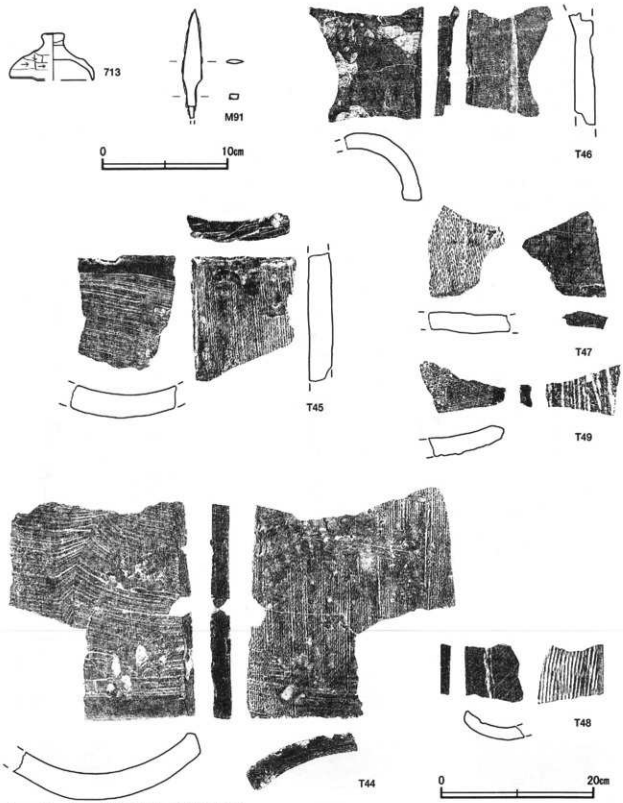
1	暗　褐　色	ローム粒子少量		4	褐　　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	
2	褐　　色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量		5	暗　褐　色	ロームブロック少量	
3	褐　　色	ローム粒子中量，炭化粒子微量		6	にぶい褐色	ローム粒子多量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片20点（坏類17，甕類3），鉄製品1点（刀子），瓦10点が出土している。710・713は壁寄りの，711は中央部の，それぞれ覆土下層から出土している。712は，P 2の底面から出土している。またT44は竈付近から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀末から11世紀初めごろと考えられる。



第288図　第152号住居跡・出土遺物実測図



第289図　第152号住居跡出土遺物実測図

第152号住居跡出土遺物観察表（第288・289図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
710	土師器	高台付椀	10.4	3.6	5.4	石英・長石・雲母	灰	普通	内外面ヘラ磨き，底部回転ヘラ切り	覆土下層	60%　PL95

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
711	土師器	高台付椀	11.0	4.6	6.2	白色粒子・雲母	黒	普通	内外面ヘラ磨き，底部ロクロナデ	覆土下層	50% PL95
712	土師器	高台付椀	−	(4.2)	6.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	体部外面ロクロナデ，ヘラ磨き	P 2 底部	25%
713	土師器	蓋	[6.4]	3.8	−	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	外面ヘラ削り，内面ナデ	覆土下層	20%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M91	鏃	(8.6)	1.5	0.47	(12.5)	鉄	柳葉式鏃身，台状関，茎部後端欠損	覆土中	PL105
T44	平瓦	(29.0)	(24.8)	3.4	(3150.0)	土	凸面平行叩き，ヘラ削り，凹面布目痕，粘土痕	覆土中	
T45	平瓦	(16.2)	(13.7)	3.0	(1030.0)	土	凸面縄叩き，凹面布目痕，端部ヘラ削り	覆土中層	
T46	丸瓦	(14.8)	(10.2)	2.2	(530.0)	土	玉縁式，凸面ヘラ削り，凹面布目痕，縁部ヘラ削り	覆土中	須恵質
T47	桟瓦ヵ	(12.1)	(10.7)	2.4	(300.0)	土	凸面縄叩き，凹面布目痕，側面一部研磨	覆土中	
T48	平瓦	(7.5)	(7.8)	1.6	(160.0)	土	凸面平行叩き，凹面布目痕，凸縁痕，端部ヘラ削り	覆土下層	
T49	平瓦	(6.7)	(9.9)	2.4	(180.0)	土	凸面平行叩き，凹面布目痕	覆土中層	

第163号住居跡（第290図）

位置　調査区東部のL18e5区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第162号住居跡を掘り込み，第164号住居に掘り込まれている。

規模と形状　一辺3.5mのほぼ方形で，主軸方向はN－77°－Eである。壁高は12～22cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。北東コーナーから竈の左袖にかけて40cmほど張り出している。

床　ほぼ平坦で，中央部から南部が踏み固められている。壁溝は竈部を除き巡っており，断面はU字形である。

竈　東壁の中央部に位置し，上部を削平されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで70cm，両袖幅100cmである。煙道部は壁外へ10cmほど掘り込み，わずかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落したと考えられ，第1層がこれに該当する。袖部は地山にローム土を盛り，その上に砂質粘土を貼り付けて構築されている。火床部は赤変硬化し，焼土が厚く堆積している。

竈土層解説

1　灰褐色　砂質粘土粒子多量
2　暗赤褐色　焼土粒子中量
3　暗赤褐色　焼土粒子少量
4　暗赤褐色　焼土粒子微量
5　にぶい赤褐色　焼土粒子中量
6　褐灰色　砂質粘土粒子多量
7　暗褐色　ロームブロック・砂質粘土粒子微量
8　暗褐色　ロームブロック微量
9　暗褐色　ロームブロック・炭化粒子微量

ピット　3か所。P2・P3は深さ35～70cmで，主柱穴と考えられる。P1は深さは10cmで，南壁際の中央部に位置することから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

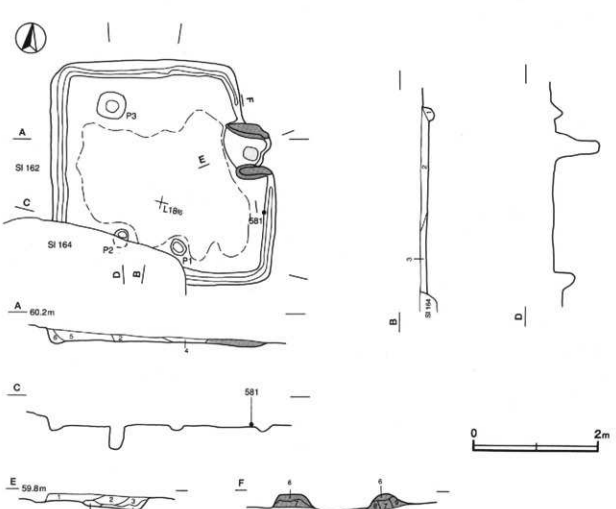
覆土　6層からなる。西側の斜面上部から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック微量
2　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
3　黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
4　灰褐色　ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
5　暗褐色　ローム粒子・炭化粒子微量
6　褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片46点（坏類10，甕類36），須恵器片5点（坏類），石材3点，鉄滓3点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片4点が出土している。581は東壁際の床面から正位で出土している。住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　北東部に見られる張り出しは，形状と位置から竈脇の棚状施設として利用された可能性がある。時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第290図　第163号住居跡・出土遺物実測図

第163号住居跡出土遺物観察表（第290図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
581	須恵器	蓋	[16.8]	3.8	－	石英・長石	にぶい黄	普通	ロクロナデ，天井部回転ヘラ削り	床面	50%

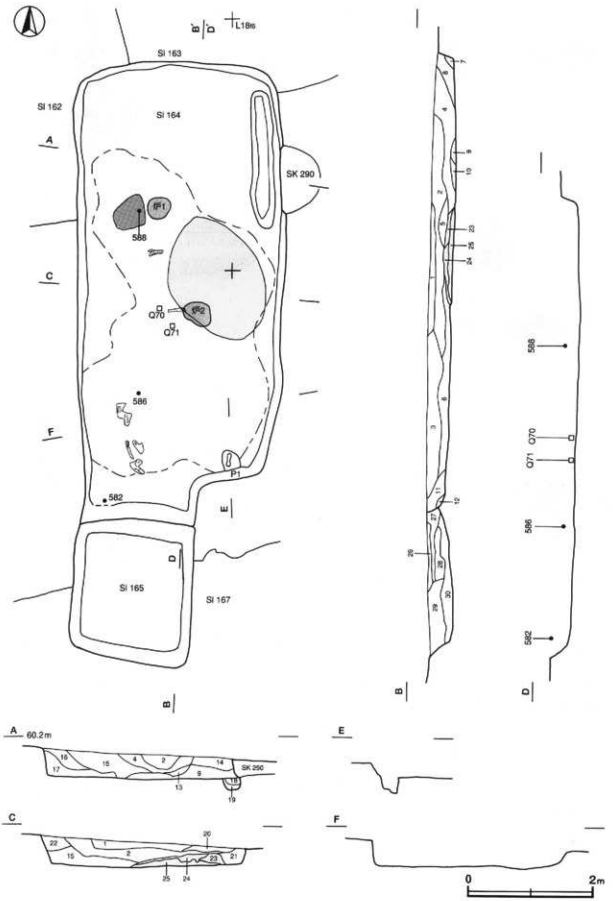
第164号住居跡（第291～293図）

位置　調査区東部のL18i5区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

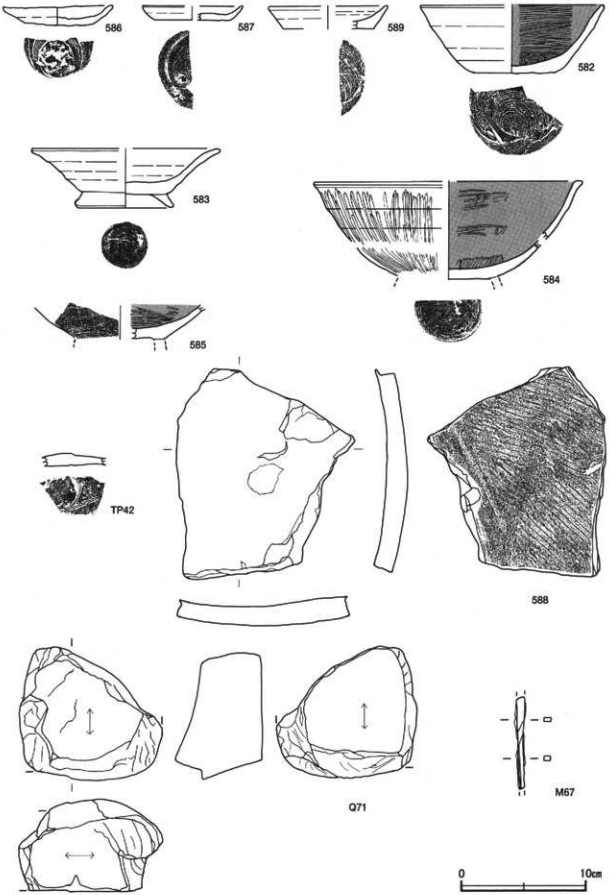
重複関係　第162・163・165号住居跡，第292・310号土坑を掘り込み，第290号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸6.7m，短軸3.2mの長方形で，主軸方向はN－0°である。南西部に東西1.8m，南北0.7mの長方形の張り出しを持っている。壁高は25～42cmで，南壁はやや外傾しているが，他は直立している。

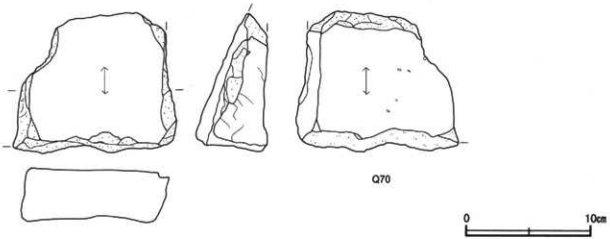
床　ほぼ平坦で，南部から中央部が踏み固められている。東壁下の東北コーナー寄りに，比較的しっかりと掘り込まれた溝が見られ，断面は逆台形である。用途は不明である。



第291図　第164・165号住居跡実測図



第292図　第164・165号住居跡出土遺物実測図



第293図　第164号住居跡出土遺物実測図

炉　2か所。炉1は中央部やや北寄り，炉2はほぼ中央部に位置し，共に火床面が被熱のため硬化し，わずかに赤変している。掘り込みは無く，焼土も堆積していない。炉1の西側には床面上に極めて薄い炭化物の層が見られ，灰溜りと考えられる。

ピット　P1は深さ25cmで，南東コーナー部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。

覆土　25層からなる（第1～25層）。ロームブロックが多く含まれることから，人為堆積と考えられる。中央部のやや東寄りの床面には，長径200cm，短径150cmほどの楕円形に焼土が厚く堆積しており，第23～25層が該当する。固化できなかったが，第24層と第25層の間には厚さ2mmほどの薄い炭化粒子の層がある。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック微量，粘性弱
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
3	暗	褐	色	ロームブロック・炭化物微量
4	黒	褐	色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
5	黒	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量
6	黒	褐	色	ロームブロック・炭化物微量
7	暗	褐	色	ローム粒子微量
8	黒	褐	色	ローム粒子・炭化物微量
9	暗	褐	色	ロームブロック少量
10	極	暗 褐	色	ロームブロック微量
11	暗	褐	色	ロームブロック微量
12	褐		色	ローム粒子少量
13	灰	褐	色	ロームブロック少量
14	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
15	暗	褐	色	ロームブロック・炭化粒子中量
16	黒	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量
17	黒	褐	色	ロームブロック微量
18	黒	褐	色	ロームブロック少量
19	にぶい黄褐色			ローム粒子中量
20	黒	褐	色	ロームブロック微量，しまり強
21	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
22	暗	褐	色	ロームブロック少量，粘性弱，しまり強
23	暗	赤 褐	色	ローム粒子・焼土ブロック微量
24	にぶい赤褐色			焼土粒子多量，ローム粒子微量
25	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片718点（坏類533，甕類185），石器4点（砥石），鉄製品2点（釘），鉄滓14点，粘土塊1点，瓦1点，獣骨の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片23点，須恵器片36点（坏類21，甕類15）が出土している。588は覆土下層から出土しており，須恵器甕の体部を整形し硯に転用したものと考えられる。Q70は中央部の床面から出土しており，住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。獣骨は，馬の顎部と推定されるものが中央部付近から，種不明のものが西壁際から出土しているが，個体数は不明である。さらに10～20cm前後の石が50点以上も全域から出土しており，これらは床面から覆土上層まで散在している。

所見　形状が長方形であることや2か所の炉の様子，砥石・鉄滓が出土していることなどから，製鉄に関連した工房として利用されていたと推測される。大量に出土した石は屋根の部材と考えられ，厚く堆積した焼土の存在から焼失住居の可能性があるが，炭化材が出土していないことから，これらは廃絶時に投げ込まれたと考

えることもできる。また，馬と推測される獣骨が出土していることから，廃絶に伴い何らかの祭祀が行われた可能性がある。時期は，出土土器から11世紀初めごろと考えられる。

第164号住居跡出土遺物観察表（第292・293図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
582	土師器	坏	[14.4]	5.4	6.5	石英・白色粒子・雲母	明褐黄	普通	内面ヘラ磨き，底部回転糸切り	覆土中層	30%
583	土師器	高台付椀	[14.9]	4.8	7.6	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	覆土中	55%
584	土師器	高台付椀	[21.3]	[7.7]	－	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ，内面ヘラ磨き	覆土中	5%
585	土師器	灯明具	－	(2.7)	－	雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	焼土中	5%　ヘラ記号「×」
586	土師器	皿	8.7	1.6	3.4	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	50%
587	土師器	甕	[8.0]	1.0	[6.0]	長石・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土中層	40%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	特徴	出土位置	備考
588	須恵器	硯ヵ	(16.7)	(14.2)	1.8	石英・長石	灰	普通	胴体部転用，内面磨滅	覆土下層	

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP42	須恵器	坏	石英	灰白	普通	底部回転ヘラ切り	覆土中	ヘラ記号「×」

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q70	砥石	(11.2)	13.0	3.7	(901.0)	砂岩	砥面1面	床面	
Q71	砥石	(10.5)	(11.3)	(7.4)	(1040.0)	ホルンフェルス	砥面3面	床面	
M67	釘	(7.4)	0.7	0.43	(4.66)	鉄	断面長方形，両端欠損	覆土中	

第165号住居跡（第291・292図）

位置　調査区東部のL 18h5区に位置し，東へ傾斜する斜面上に立地している。

重複関係　第167号住居跡を掘り込み，第164号住居に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.2m，短軸1.9mの長方形で，主軸方向はN－5°－Eである。壁高は40cmで外傾して立ち上がっている。

床　起伏があり，軟弱である。

覆土　5層からなる（第26～30層）。ロームブロックを多く含んでいることから人為堆積と考えられる。

土層解説

26 黒褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
27 暗褐色　ロームブロック微量
28 暗褐色　ロームブロック中量
29 黒褐色　ロームブロック微量
30 暗褐色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片42点（坏類19，甕類23）の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片1点，弥生土器片3点，須恵器片6点（坏類2，甕類4）が出土している。土器はすべて小片で，覆土全体に散在している。589は北部の覆土中から出土している。

所見　住居として扱ったが，規模が小さく床面が軟弱なこと，竈や炉などが認められないことから，倉庫と考えられる。時期は，重複する住居跡の時期と出土土器から10世紀末ごろと考えられる。

第165号住居跡出土遺物観察表（第292図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
589	土師器	甕	[9.4]	1.8	7.2	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土中	20%

第166号住居跡（第294図）

位置　調査区東部のM19c8区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第202号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南部は調査区域外へ延びており，北部・東部は削平と攪乱を受けているため全容は不明である。西壁が1.2mのみ確認でき，主軸方向はN－12°－Wである。壁高は4～8cmで直立している。

床　ほぼ平坦で，軟弱である。

竈　北部に径30cmほどの円形の赤変硬化した範囲が見られ，竈の火床部の残存と考えられる。

ピット　P1は深さ36cmで，主柱穴と考えられる。

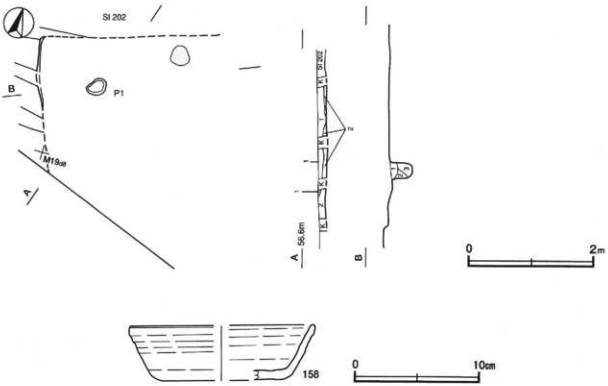
ピット土層解説
1　黒　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
2　暗　褐　色　ロームブロック微量
3　褐　　色　炭化粒子微量

覆土　2層からなる。堆積状況は不明である。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
2　黒　褐　色　ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片27点（坏類3，甕類19，高坏5），須恵器片2点（坏類）が出土している。158は覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から8世紀中葉ごろと考えられる。



第294図　第166号住居跡・出土遺物実測図

第166号住居跡出土遺物観察表（第294図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
158	須恵器	坏	[14.6]	4.3	[10.0]	石英・長石	灰黄	普通	ロクロナデ，底部回転ヘラ削り	覆土中	25%

第171号住居跡（第295・296図）

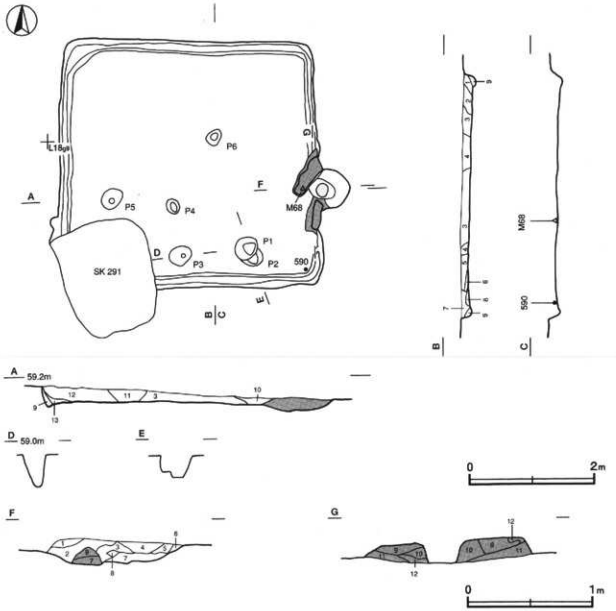
位置　調査区東部のL18g9区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第291号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸4.1m，短軸3.9mの方形で，主軸方向はN－86°－Eである。壁高は15～20cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦である。壁溝は竈部を除き巡っており，断面はU字形である。

竈　東壁の南東コーナー寄りに位置し，上部は削平されている。規模は焚き口部から煙道部先端まで70cm，両袖幅130cmである。煙道部は壁外へ60cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は崩落し，構築材の粘土塊が第9層に見られる。袖部は地山にローム土を盛り，その上に砂質粘土を盛り上げて構築されているが，つぶれて原形をとどめていない。火床部はわずかにくぼみ赤変しており，焼土が厚く堆積している。



第295図　第171号住居跡実測図

竈土層解説

1	褐　色	ロームブロック少量
2	暗 褐 色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量
3	褐 灰 色	砂質粘土粒子多量
4	灰 褐 色	砂質粘土粒子中量
5	暗赤褐色	焼土粒子中量，ロームブロック少量
6	暗赤褐色	焼土粒子少量
7	赤 褐 色	焼土粒子中量
8	暗赤褐色	焼土粒子少量，砂質粘土粒子微量
9	青 灰 色	粘土粒子多量
10	灰 褐 色	ロームブロック・焼土粒子中量，炭化物微量
11	暗 褐 色	ロームブロック中量
12	暗 褐 色	ロームブロック微量

ピット　6か所。P１は深さ33cm，P２は深さ26cmで主柱穴である。P１はP２の作り替えと考えられる。P３は深さ50cmで南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットの性格は不明である。

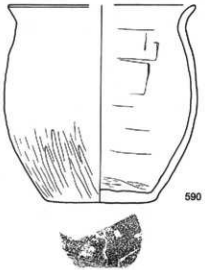
覆土　13層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ローム粒子少量
2	暗 褐 色	ローム粒子少量
3	暗 褐 色	ロームブロック微量
4	褐　色	ロームブロック中量，炭化粒子微量
5	黒 褐 色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
6	褐　色	ロームブロック少量
7	褐 灰 色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量
8	灰 褐 色	ローム粒子中量，砂質粘土粒子微量
9	褐　色	ローム粒子中量
10	褐 灰 色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
11	黒 褐 色	ロームブロック少量
12	黒 褐 色	ローム粒子少量
13	暗 褐 色	ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片114点（坏類36，甕類78），須恵器片６点（坏類４，甕類２），鉄製品１点（刀子），石材１点，鉄滓２点，粘土塊１点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片３点，土師器片２点（高坏）が出土している。590は南東コーナー際の床面から，M68は竈左袖部から出土している。これらは住居廃絶時に遺棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀後葉と考えられる。



第296図　第171号住居跡出土遺物実測図

第171号住居跡出土遺物観察表（第296図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
590	土師器	甕	[14.8]	15.7	8.8	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面下部ヘラ磨き，内面下部ナデ，底部木葉痕	床面	40%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴		出土位置	備考
M68	刀子	(4.5)	1.2	0.31～0.42	(7.15)	鉄	関部木片付着，刀身先端，茎後端欠損		竈袖部	

第173号住居跡（第297・298図）

位置 調査区東部のL19h1区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係 第170・174号住居跡，第493号土坑を掘り込み，第498号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長軸4.7m，短軸3.8mの長方形で，主軸方向はN－12°－Wである。壁高は20～32cmで，東壁は外傾して立ち上がり，他はほぼ直立している。

床 わずかに東側へ傾斜し，竈前面から中心部が踏み固められている。壁溝は竈部を除き巡っており，断面は逆台形である。

竈 北壁の中央部に位置している。規模は，焚き口部から煙道部先端まで110cm，袖部幅は100cmである。煙道部は壁外へ30cmほど掘り込まれ，直に立ち上がっている。天井部は砂質粘土で構築され，内側は被熱により赤変している。第2・10・19層がこれに該当する。袖部はローム土上に粘土を盛り上げて構築されており，内側は被熱により赤変硬化している。火床部は硬化しており，上部に焼土が厚く堆積している。火床部前面が長径40cm，短径20cm，深さ35cmほどの楕円形に掘り込まれており，覆土中に焼土や炭化粒子が見られることから，掻き出した灰を処理するための施設と考えられる。第7～9層がこれに該当する。

竈土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック・焼土粒子少量
2	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量，ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3	灰	褐	色	焼土粒子多量
4	暗	褐	色	焼土ブロック微量
5	暗	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子微量
6	灰	褐	色	焼土粒子多量，ロームブロック・炭化粒子少量
7	褐		色	ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
9	褐		色	ローム粒子微量
10	暗	赤	褐色	焼土粒子多量，砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量
11	灰	褐	色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量
12	褐		色	ローム粒子多量
13	黒	褐	色	焼土ブロック少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
14	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・砂質粘土粒子微量
15	暗	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子微量
16	灰	褐	色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
17	褐	灰	色	砂質粘土粒子多量，ローム粒子・焼土粒子微量
18	にぶい赤褐色			焼土粒子多量，ローム粒子微量
19	褐	灰	色	砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
20	灰	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量
21	灰	褐	色	ローム粒子少量，砂質粘土粒子微量
22	褐		色	ローム粒子・炭化粒子微量
23	灰	褐	色	砂質粘土粒子中量，ロームブロック・焼土ブロック微量

ピット 5か所。P1～P4は，深さ30～60cmの主柱穴で，底面が柱を受けて硬化している。P5の性格は不明である。

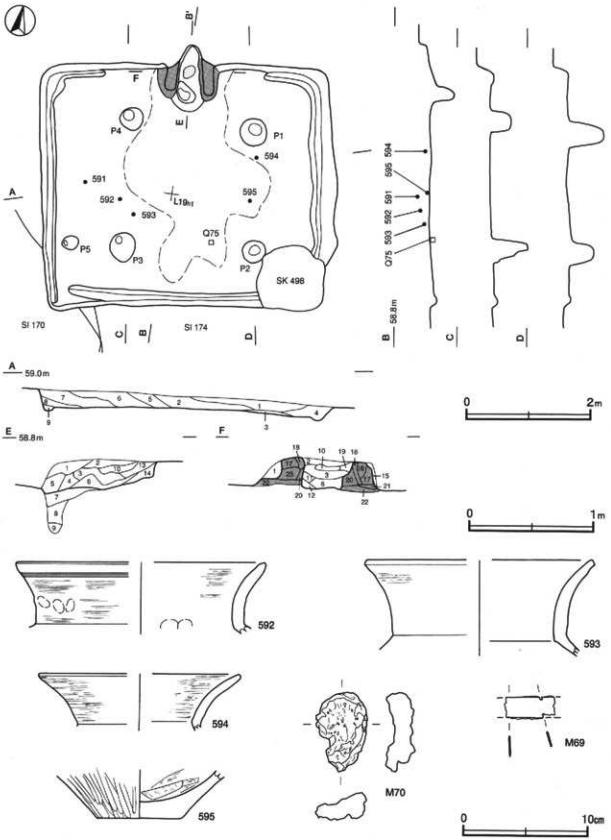
覆土 9層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

土層解説

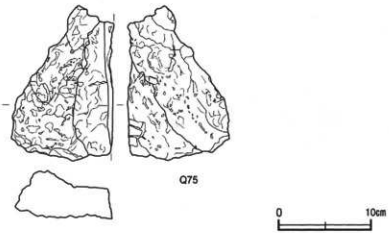
1	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量
2	褐		色	ローム粒子・炭化粒子少量，焼土粒子微量
3	褐		色	ローム粒子多量
4	黒	褐	色	ローム粒子微量
5	暗	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
6	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
7	暗	褐	色	ローム粒子中量
8	褐		色	ロームブロック少量
9	褐		色	ローム粒子中量

遺物出土状況 土師器片286点（坏類50，甕類236），須恵器片1点（坏類），鉄製品1点（不明），磨製石1点，鉄滓5点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片7点，土師器片2点（高坏）が出土している。土器はいずれも小片で，595・Q75は床面から出土している。592・593・594は破断面の摩滅が顕著で，住居廃絶後に混入したものと考えられる。

所見　窯壁片や鉄滓が出土していることから，本跡またはその周囲で鍛冶作業が行われた可能性がある。時期は，規模・形状の類似した周辺住居の時期と出土土器から，８世紀後半ごろと考えられる。



第297図　第173号住居跡・出土遺物実測図



第298図　第173号住居跡出土遺物実測図

第173号住居跡出土遺物観察表（第297・298図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
592	土師器	甕	[20.0]	(5.8)	－	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	5%
593	土師器	甕	[18.0]	(7.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	横ナデ	覆土下層	5%
594	土師器	甕	[16.0]	(4.5)	－	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	横ナデ	覆土下層	5%
595	土師器	甕	－	(3.8)	6.7	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	体部外面下部ヘラ磨き，底部ナデ	床面	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q75	窯壁	(16.5)	(11.0)	(5.1)	(504.0)	砂岩ヵ	下部鉄滓付着	床面	PL.104
M69	不明	(4.0)	1.6	0.1	(2.82)	鉄	両端欠損	覆土中	
M70	椀状滓	6.4	4.1	2.3	74.4	砂鉄他	着磁性有り，外面焼土付着	覆土中	

第186号住居跡（第299・300図）

位置　調査区東部のＬ19f3区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第184・185号住居跡，第315号土坑を掘り込み，第188号住居，第305・500・501・512・513・517号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　確認できたのは西壁4.6m，南壁2.5mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－２°－Ｅである。壁高は17～30cmで，各壁ともほぼ直立している。

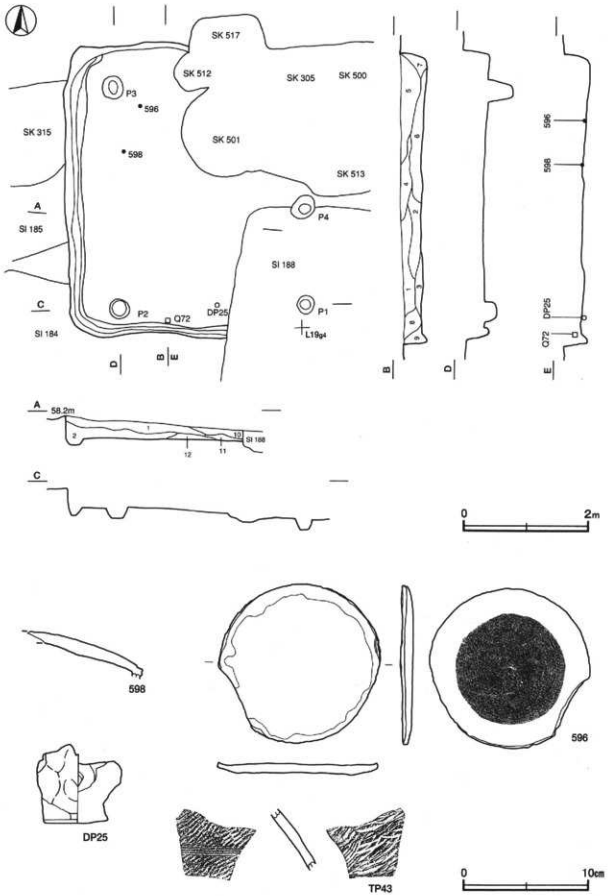
床　ほぼ平坦である。壁溝は西壁から南壁にかけて巡っており，断面はＵ字形である。

ピット　４か所。Ｐ１～Ｐ３は深さ16～37cmで主柱穴である。Ｐ４の性格は不明である。

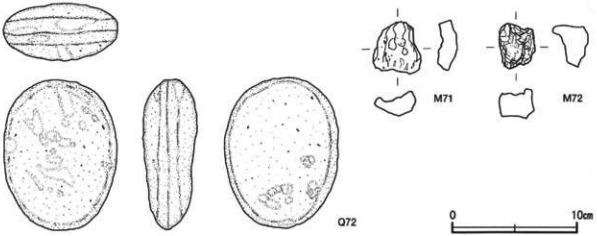
覆土　12層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック微量
2　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
4　黒褐色　ローム粒子中量
5　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
6　褐色　ロームブロック少量
7　暗褐色　ロームブロック少量
8　黒褐色　ローム粒子・炭化物少量
9　黒褐色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
10　黒褐色　ローム粒子少量，焼土ブロック微量
11　褐色　ローム粒子少量
12　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量



第299図　第186号住居跡・出土遺物実測図



第300図　第186号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片125点（坏類32，甕類89，高坏４），須恵器片14点（坏類10，甕類３，瓶１），石器１点（敲石），土製品１点（坩堝か），石材５点，鉄滓５点，粘土塊２点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片２点や後世の耕作などで混入したと考えられる土師質土器片１点（内耳鍋）が出土している。596・598はいずれも床面から出土している。ＤＰ25・Ｑ72は南壁際の床面から出土している。これらは廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から８世紀前半と考えられる。

第186号住居跡出土遺物観察表（第299・300図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
596	土師器	椀ヵ	12.9	1.0	9.0	石英・長石・赤色粒子・雲母	明赤褐	普通	風板用，外周研磨整形	床面	30%　土師器転用
598	須恵器	瓶	－	(3.5)	－	黒色粒子	灰	普通	上面端部に沈線	床面	5%　自然釉

番号	種別	器種	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP43	須恵器	甕	長石・黒色粒子	灰	普通	外面斜位平行叩き，内面同心円状の当て具痕	覆土中	

番号	器種	口径	器高	底径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP25	坩堝ヵ	6.0	6.2	5.1	204.0	土	ナデ，指頭痕有り	床面	PL103

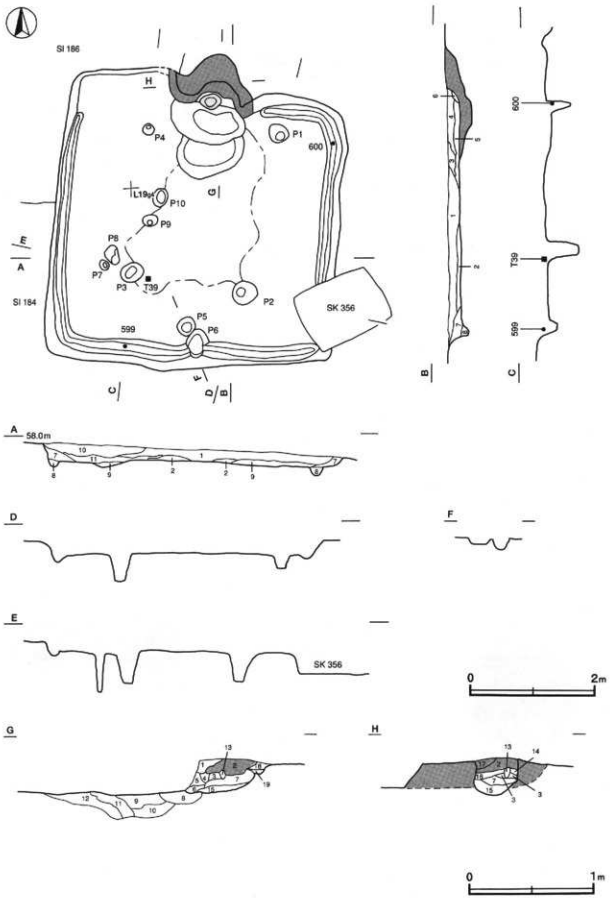
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q72	敲石	11.9	9.1	4.4	603.0	安山岩	両面縁辺部赤変	床面	
M71	楕状滓	4.2	3.8	1.9	27.7	砂鉄他	著磁性有り，外面焼土付着	覆土中	
M72	楕状滓	3.5	2.9	2.9	37.4	砂鉄他	著磁性有り，外面粘土付着	覆土中	

第188号住居跡（第301・302図）

位置　調査区東部のＬ19g4区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第184・186号住居跡を掘り込み，第356号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　一辺4.8mの方形で，主軸方向はＮ－８°－Ｅである。壁高は10～28cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。



第301図　第188号住居跡実測図

床　やや起伏があり，竈前面から中央部が踏み固められている。壁溝は竈部と北西コーナー部を除き巡っており，断面は逆台形である。

竈　北壁の中央部に位置している。規模は焚き口部から煙道部先端まで100cm，袖部幅150cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっており，焼土が堆積している。天井部は煙道部上に構築材の砂質粘土が良く残存して形状を保っており，内面は被熱で赤変硬化している。袖部の先端部は破壊され失われているが，構築材の砂質粘土は良く残存し，火床部付近は被熱で内部まで赤変している。また，火床部は赤変し焼土が堆積している。竈前面は竈に向かって徐々に深く掘り込まれ，最深部では20cmほどである。そのあとで砂質粘土混じりのローム土で埋め戻されている。灰を掻き出した際にくぼんでいった部分を，埋めて補修したものと考えられる。

竈土層解説

1	灰	褐	色	ローム粒子・砂質粘土粒子中量，炭化粒子微量	11	褐	色	砂質粘土粒子少量，ロームブロック微量
2	灰	褐	色	砂質粘土粒子多量，焼土粒子少量	12	褐	色	ローム粒子中量
3	にぶい赤褐色			砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	13	赤	褐	色 焼土粒子多量
4	赤	褐	色	焼土粒子多量，炭化粒子微量	14	暗	褐	色 焼土粒子・砂質粘土粒子少量
5	暗	赤	褐色	焼土ブロック中量	15	灰	褐	色 焼土粒子少量
6	暗	赤	褐色	焼土ブロック微量	16	灰	赤	色 焼土粒子・砂質粘土粒子中量
7	暗	赤	褐色	焼土粒子少量	17	灰	褐	色 砂質粘土粒子中量，焼土粒子微量
8	暗	褐	色	ロームブロック少量	18	にぶい赤褐色		砂質粘土粒子中量，焼土粒子少量
9	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子・砂質粘土粒子微量	19	灰	褐	色 ローム粒子多量
10	褐		色	ローム粒子少量				

ピット　10か所。P１～P４は深さ20～50cmで，主柱穴である。P５は深さ18cm，P６は深さ11cmで，南壁際の中央部に位置していることから，出入り口施設に伴うピットと考えられる。その他のピットの性格は不明である。

覆土　11層からなる。壁際から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック微量	7	黒	褐	色 ローム粒子少量
2	暗	褐	色 ローム粒子少量，炭化粒子微量	8	暗	褐	色 ローム粒子少量
3	暗	褐	色 ローム粒子少量，焼土粒子微量	9	褐		色 ローム粒子少量，炭化物微量
4	暗	褐	色 ローム粒子・砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量	10	暗	褐	色 ロームブロック少量，炭化物微量
5	黒	褐	色 ローム粒子・炭化物微量	11	にぶい黄褐色		ローム粒子中量
6	褐	灰	色 砂質粘土粒子少量，焼土粒子微量				

第302図　第188号住居跡出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片127点（坏類47，甕類80），須恵器片48点（坏類35，甕類13），鉄滓10点，塼１点，粘土塊８点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片１点，弥生土器片３点や後世の耕作などで混入したと考えられる土師質土器片１点（鍋）が出土している。599は南壁際から正位で，600は北東コーナー部から出土している。T39はP３脇の床面から出土している。これらは住居廃絶直後に投棄されたものと考えられる。

601は後世の混入と考えられる。

所見　時期は，出土した須恵器から8世紀後葉と考えられる。

第188号住居跡出土遺物観察表（第302図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
599	須恵器	坏	13.1	3.3	9.0	石英・長石	褐灰	普通	体部下端回転ヘラ削り，底部回転ヘラ切り後ナデ	壁溝上	90% 墨子ヵ PL98
600	須恵器	坏	[14.4]	3.1	[9.6]	石英・長石・黒色粒子	灰白	普通	ロクロナデ，底部回転ヘラ切り	壁溝上	20% 屋ノ内ヵ
601	土師器	高台付椀	－	(3.0)	[10.6]	赤色粒子・雲母	明赤褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T39	埴	(8.5)	(8.8)	2.5	(320.0)	土	上下面ヘラ削り後ナデ	床面	PL109

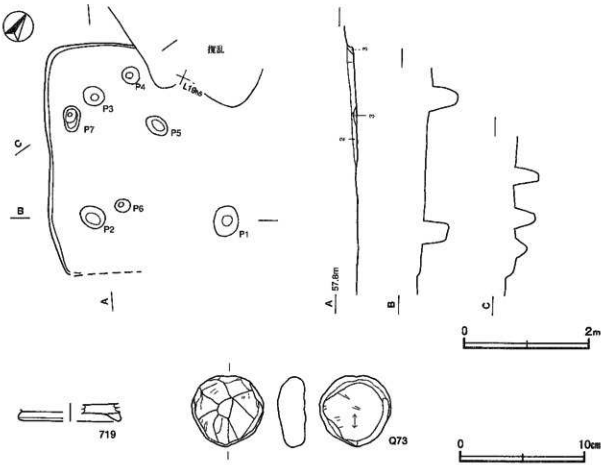
第190号住居跡（第303図）

位置　調査区東部のＬ19h4区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

規模と形状　確認できたのは長辺3.7m，短辺1.5mで，ピットの位置関係から方形または長方形と推定され，主軸方向はＮ－29°－Ｗである。壁高は5～13cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。

ピット　7か所。Ｐ1～Ｐ3は深さ36～44cmで，主柱穴である。対応する他の主柱穴は確認できなかった。その他のピットの性格は不明である。



第303図　第190号住居跡・出土遺物実測図

覆土　3層からなる。覆土が薄く堆積状況は不明である。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子少量，炭化物・微質粘土粒子微量　　3　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物微量

遺物出土状況　土師器片39点（坏類12，甕類27），石器1点（砥石），鉄滓2点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片2点，土師器片2点（高坏），須恵器片1点（坏類）が出土している。719は南部の覆土下層から，Q73は北東部の覆土中から出土している。

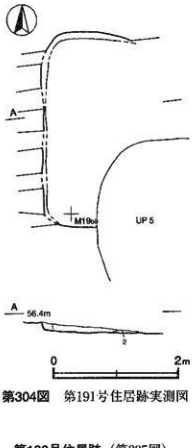
所見　時期は，出土土器から10世紀末ごろと考えられる。

第190号住居跡出土遺物観察表（第303図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
719	土師器	高台付椀	－	(1.4)	[8.0]	石英・赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q73	砥石	(5.8)	(5.7)	(2.2)	(88.4)	結板岩	砥面1面	覆土中	

第191号住居跡（第304図）



第304図　第191号住居跡実測図

位置　調査区東部のM19a9区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第5号地下式壙に掘り込まれている。

規模と形状　撹乱と削平のため，確認できたのは西壁が2.9m，北壁が1.1mで，方形または長方形と推定される。西壁に合わせた主軸方向はN－0°である。壁高は11cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。

覆土　2層からなる。しまりがあることから自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ロームブロック微量　　2　暗　褐　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片12点（坏類2，甕類10），須恵器片1点（甕類）の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片2点が出土している。土器片はいずれも小片で図化できるものはなかったが，内外面にヘラ磨きの見られる土師器坏片が出土している。

所見　時期は，規模と出土土器から平安時代と考えられる。

第193号住居跡（第305図）

位置　調査区東部のM19a3区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第192・198号住居跡を掘り込み，第16号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　南部は調査区域外へ延びており全容は不明である。確認できたのは長軸が3.7m，短軸が3.5mで

方形または長方形と推定され，主軸方向はN－7°－Eである。壁高は28～38cmで，外傾して立ち上がっている。

床　全体にやや起伏がある。

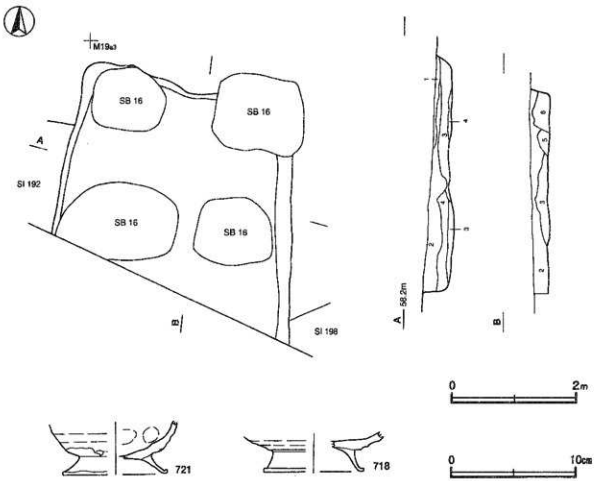
覆土　6層からなる。ブロック状の堆積状況から人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子微量	4	黒褐色	ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子	5	褐色	ロームブロック少量，焼土粒子微量
		砂質粘土ブロック微量	6	褐色	ロームブロック多量
3	黒褐色	ローム粒子中量，焼土ブロック・炭化粒子少量			

遺物出土状況　土師器片256点（坏類118，甕類138），上製品1点（紡錘車），鉄滓76点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片27点，土師器片2点（高坏），須恵器片16点（坏類12，甕類4），石製品1点（双孔円板）が出土している。718は南東部の覆土下層から出土している。

所見　時期は，重複する第16号掘立柱建物が10世紀末ごろと推定されることと出土土器から，10世紀後半と考えられる。



第305図　第193号住居跡・出土遺物実測図

第193号住居跡出土遺物観察表（第305図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
718	土師器	高台付椀	－	(3.1)	[4.0]	赤色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	覆土下層	15%
721	土師器	高台付椀	－	(4.2)	[8.4]	赤色粒子・雲母	褐灰	普通	ロクロナデ、高台貼り付け	覆土中	10%

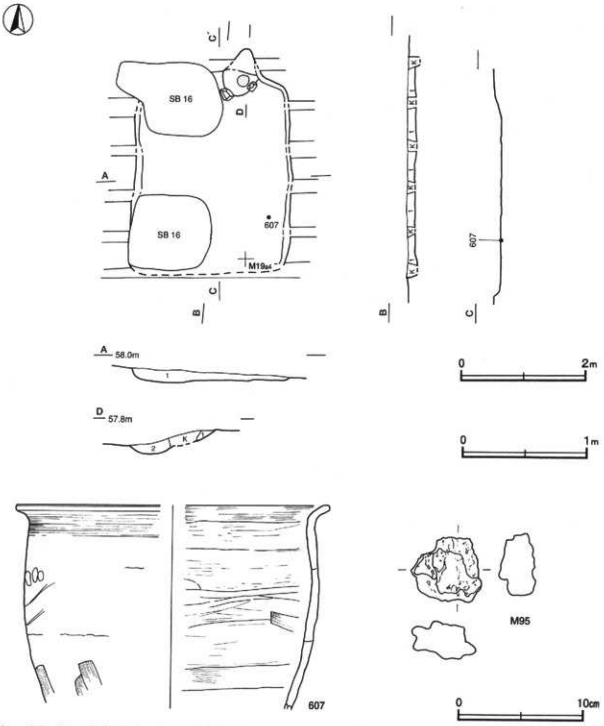
第195号住居跡（第306図）

位置　調査区東部のＬ19j3区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第16号掘立柱建物に掘り込まれている。

規模と形状　撹乱のため南壁が失われているが，長軸3.4m，短軸2.5mの長方形と推定され，主軸方向はＮ－０°である。壁高は７～18cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦である。



第306図　第195号住居跡・出土遺物実測図

竈　北壁の東寄りに位置しているが，攪乱により破壊されている。残存部の規模は，焚き口部から煙道部先端まで76cm，焚き口部の幅が60cmである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込まれ緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は失われているが，覆土中に構築材の砂質粘土が見られる。袖部は破壊されているが，補強材と考えられる筏無した石材が，火床部の左右に見られる。火床部はわずかにくぼみ赤変硬化している。

竈土層解説

1　灰　褐　色　　砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量　　2　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化物・砂質粘土粒子少量，焼土ブロック微量

覆土　単一層である。堆積状況は不明である。

土層解説

1　暗　褐　色　　ロームブロック中量，焼土ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片115点（坏類29，甕類86），石材6点，鉄滓3点，粘土塊2点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片2点，弥生土器片1点，土師器片2点（高坏），須恵器片9点（坏類4，甕類5）が出土している。607は南東部の床面から出土していることから，住居廃絶直後に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀前半ごろと考えられる。

第195号住居跡出土遺物観察表（第306図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
607	土師器	甕	[24.8]	[16.3]	－	石英・長石・雲母	橙	普通	体部内外面ナデ	床面	10%

番号	器　種	長さ	幅	厚さ	重量	材　質	特　徴	出土位置	備　考
M95	鉄滓	5.2	2.9	5.2	86.9	砂鉄他	強磁性剥，焼土付着	覆土中	

第196号住居跡（第307図）

位置　調査区東部のL19h6区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

規模と形状　東側を削平されているため，確認できたのは西壁5.1m，北壁2.0mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－5°－Wである。壁高は9～19cmで，ほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，地山を床面としている。北部の中央付近に，地山が赤変し焼土が僅かに堆積した部分が認められ，その周辺から中央部に至る範囲が踏み固められていることから，炉が存在した可能性がある。

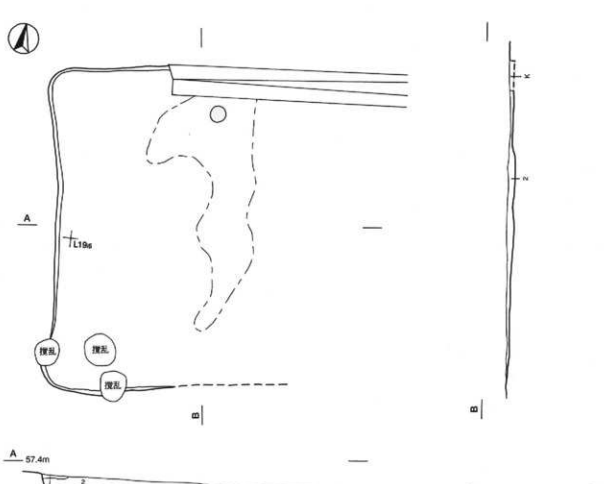
覆土　2層からなる。ロームブロックが多く含まれており人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，炭化物微量　　2　暗　褐　色　　ロームブロック多量

遺物出土状況　土師器片75点（坏類17，甕類58），須恵器片5点（坏類3，甕類2），鉄製品1点（釘），銅製品1点（不明），鉄滓4点，粘土塊3点，瓦片1点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片2点，弥生土器片3点が出土している。土器片は全て小片で，622は北部の覆土中から出土している。

所見　規模が大きく，床面に被熱痕があり鉄滓が出土していること，鉄滓が大量に出土している第414号土坑と隣接していることから，工房の可能性が考えられる。時期は，出土土器から11世紀初めごろと考えられる。



第307図　第196号住居跡・出土遺物実測図

第196号住居跡出土遺物観察表（第307図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
622	土師器	高台付椀	〔11.6〕	(3.5)	－	石英・長石	褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土中	5%

第199号住居跡（第308図）

位置　調査区東部のM19a5区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第198号住居跡を掘り込み，第442号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　撹乱と削平のため全容は不明である。確認できたのは西壁2.6m，北壁1.3mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－0°である。壁高は6～14cmで，外傾して立ち上がっている。

床　ほぼ平坦であるが，東部と南部は削平されている。残存部の東側に長径46cm，短径30cmの楕円形の焼土溜まりが見られ，その南には粘土塊がある。粘土塊周辺からは平瓦や土師器甕の破片が出土しており，竈の構築材の可能性がある。

ピット　4か所。P 4は深さ14cmで，主柱穴と考えられる。P 1～P 3は深さは19～27cmで，南側の中央部に位置していると推定されることから出入り口施設に伴うピットと考えられるが，新旧関係は不明である。

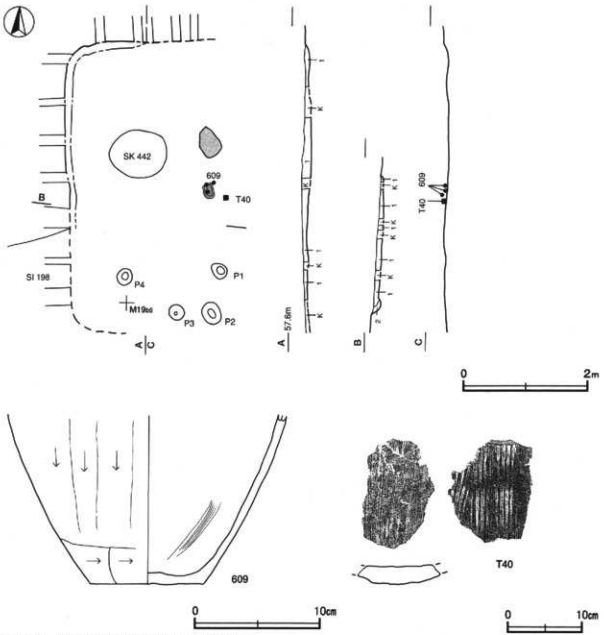
覆土　2層からなる。堆積状況は不明である。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片84点（坏類13，甕類71），須恵器片4点（坏類），鉄滓7点，瓦3点の他，埋没時に混入したと考えられる弥生土器片12点や後世の耕作などで混入したと考えられる陶器片2点が出土している。609・T40は粘土塊の周囲から破片で出土しており，竈の構築材と推定される。

所見　時期は，出土土器から9世紀後半から10世紀前半と考えられる。



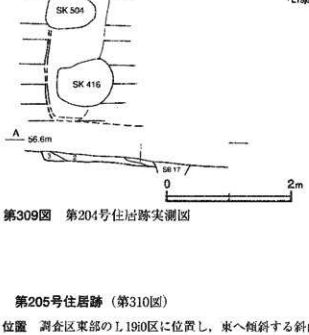
第308図　第199号住居跡・出土遺物実測図

第199号住居跡出土遺物観察表（第308図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
609	土師器	甕	－	(13.4)	9.0	石英・長石	褐	普通	体部外面ヘラ削り，底部ナデ	床面	15%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T40	平瓦	(14.6)	(9.7)	2.3	(460.0)	土	凸面平行叩き，凹面布目痕	覆土下層	PL110

第204号住居跡（第309図）



第309図　第204号住居跡実測図

位置　調査区東部のL19j9区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　第17号掘立柱建物，第416・504号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　東側と南側が削平されているため，確認できたのは長軸4.7m，短軸2.6mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－4°－Wである。壁高は15cmで，外傾して立ち上がっている。

床　平坦である。

覆土　3層からなる。西側の斜面上部から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

1	暗褐色	ローム粒子微量
2	極暗褐色	ローム粒子少量
3	褐色	ローム粒子微量

遺物出土状況　土師器片69点（坏類22，甕類47）が出土している。土器片はいずれも小片で図化できるものはなかったが，ロクロ整形された土師器の高台付椀の破片が多く出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀代と考えられる。

第205号住居跡（第310図）

位置　調査区東部のL19i0区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

重複関係　段切り遺構に埋り込まれている。

規模と形状　南東部が削平されているが，長軸3.4m，短軸3.1mの方形で，主軸方向はN－2°－Wである。壁高は22cmで直立している。

床　やや起伏がある。壁溝は西壁から南東コーナー部下に見られ，断面はU字形である。

竈　北壁の中央部に位置しているが，上部は削平されている。焚き口部から煙道部先端まで90cm，袖部幅は110cmである。残存する煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっている。天井部は失われており，覆土にも構築材は見られない。袖部は地山を掘り残し砂質粘土を盛り上げたと考えられ，左袖に構築材の砂質粘土がわずかに見られる。火床部は皿状に掘り込まれており，焼土が堆積している。

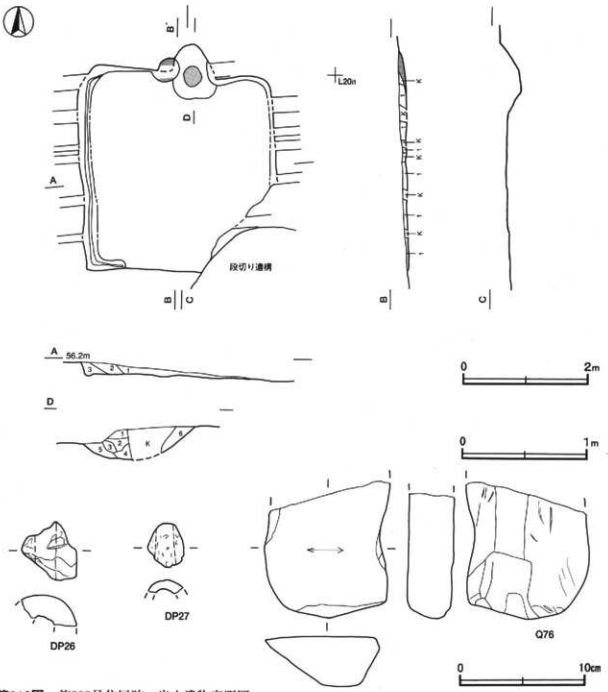
竈土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子微量
2 暗 赤 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量
3 暗 褐 色　ローム粒子少量
4 暗 赤 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
5 黒 褐 色　ローム粒子・炭化粒子微量
6 褐 色　ローム粒子少量

覆土　3層からなる。西側の斜面上部から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説

1 黒 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化物微量
2 暗 褐 色　ロームブロック・焼土粒子少量，炭化物微量
3 黒 褐 色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量



第310図　第205号住居跡・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片28点（坏類18，甕類10），須恵器片2点（坏類），石器1点（砥石），土製品2点（羽口），鉄滓7点の他，埋没時に混入したと考えられる縄文土器片1点，弥生土器片3点が出土している。土器

片はいずれも小片のため図化できなかったが，ロクロ整形・黒色処理された土師器坏や体部外面下部にヘラ磨きのある甑の破片が出土している。

所見　羽口や鉄滓が出土していることから，本跡またはその周囲で鍛冶作業が行われていた可能性がある。時期は，出土土器と住居の規模・形状から9世紀代と考えられる。

第205号住居跡出土遺物観察表（第310図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP26	羽口	(4.7)	(4.3)	[2.3]	(33.3)	土	ナデ，鉄滓付着，被熱痕有り，一部欠損	覆土下層	
DP27	羽口	(3.5)	(2.9)	[2.0]	(8.5)	土	鉄滓付着，被熱痕有り，欠損大	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q76	砥石	(10.9)	9.9	3.9	(573.0)	砂岩	砥面1面	覆土下層	

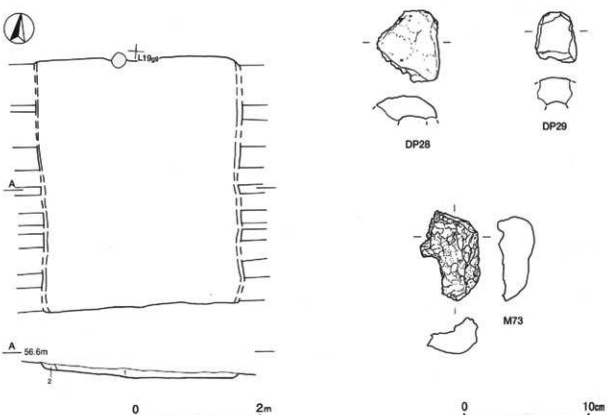
第206号住居跡（第311図）

位置　調査区東部のL19g8区に位置し，東へ傾斜する斜面部に立地している。

規模と形状　長軸3.9m，短軸3.1mの長方形で，主軸方向はN－7°－Wである。壁高は8～10cmで，各壁とも外傾して立ち上がっている。

床　やや起伏があり，わずかに東へ傾斜している。

竈　北壁の中央部に位置しているが，撹乱と削平のため構築材は失われている。火床部は径25cmの円形を呈し，赤変硬化している。



第311図　第206号住居跡・出土遺物実測図

覆土　2層からなる。西側の斜面上部から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化粒子少量　　2　暗　褐　色　　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片38点（坏類13，甕類25），須恵器片3点（坏類），土製品2点（羽口），鉄滓24点（椀状滓，白色滓，その他22），窯壁片1点の他，埋没時に混入したと考えられる土師器片1点（高坏），後世の耕作などで混入したと考えられる陶器片2点，真鍮製品1点（煙管）が出土している。土器片はいずれも細片で，図化できるものはなかった。

所見　羽口や大量の鉄滓が出土していることから，本跡またはその周辺で鍛冶作業が行われていた可能性がある。時期は，出土土器と住居の規模・形状から9世紀代と考えられる。

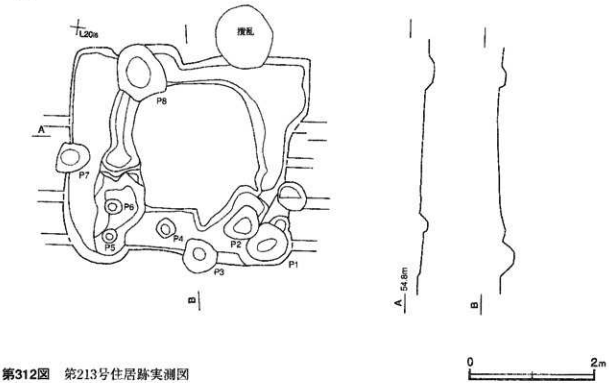
第206号住居跡出土遺物観察表（第311図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP28	羽口	(5.7)	(4.8)	[3.0]	(51.7)	土	鉄滓付着，被熱痕有り，欠損大	覆土下層	
DP29	羽口	(4.0)	(3.2)	[2.5]	(27.4)	土	鉄滓付着，被熱痕有り，欠損大	覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M73	椀状滓	7.2	4.8	2.9	78.7	砂鉄塊	磁性弱，外面粘土付着	覆土下層	

第213号住居跡（第312図）

位置　調査区東部のL206区に位置し，斜面下部の低地に立地している



第312図　第213号住居跡実測図

規模と形状　長軸3.6m，短軸3.5mの方形で，主軸方向はN－6°－Wである。確認面に床面が露出しており，壁の立ち上がりは確認されなかった。

床　ほぼ平坦で中央部が硬化している。掘り方は中央部が地山のまま掘り残され，周りを10～20cmほど掘り込んだあと埋め戻して床面としている。

竈　東壁やや南寄りに長径50cm，短径40cm，深さ12cmほどの楕円形の掘り込みが見られ，上部に焼土が堆積している。竈の痕跡と推定される。

ピット　8か所。P2・P6は深さ10～20cmで，配置から主柱穴と考えられる。P4は深さ24cmで，南壁際の中央部に位置することから出入り口施設に伴うピットと考えられるが，竈と対面する西壁際のP7もその可能性があり特定はできない。他のピットの性格は不明である。

覆土　床面が露出しており，覆土は確認されなかった。

遺物出土状況　土師器片54点（坏類7，甕類44，高坏3），須恵器片1点（坏類）が出土している。土器片は小片で，いずれも掘り方から出土していることから構築時に埋土の中に混入したものと考えられる。

所見　時期は，当遺跡における東竈を持つ住居の年代から，10世紀代と考えられる。

第216号住居跡（第313・314図）

位置　調査区西部のJ15c2区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

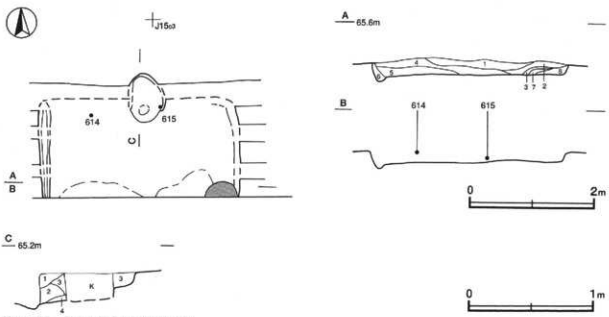
規模と形状　南側が調査区域外へ延びているため，確認できたのは北壁3.2m，西壁1.5mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－0°である。壁高は15～26cmで，直立している。

床　ほぼ平坦で，中央部が踏み固められている。壁溝は西壁下に見られ，断面はU字形である。

竈　北壁の中央部に位置しているが，攪乱によって天井部と袖部付近は破壊されている。残存部から推定される規模は，焚き口部から煙道部先端まで80cm，焚き口部の幅44cmである。煙道部は壁外へ40cmほど掘り込み，直立している。火床部は赤変硬化し，焼土が厚く堆積している。

竈土層解説

1	褐　色	焼土粒子少量，ロームブロック・炭化粒子微量	3	灰　褐　色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗赤褐色	焼土粒子・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土粒子微量	4	にぶい赤褐色	ロームブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量



第313図　第216号住居跡実測図

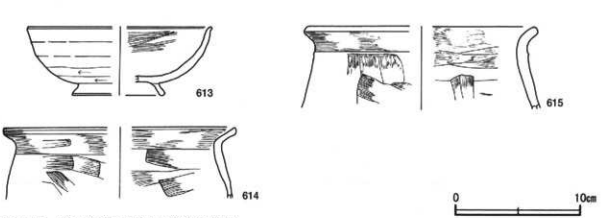
覆土　8層からなる。ブロック状の含有物が多く含まれることから，人為堆積と考えられる。第7・8層は粘土塊である。

土層解説

1	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子・砂質粘土粒子微量	5	暗　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化粒子
2	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化物微量	6	褐　　色	ローム粒子少量
3	暗　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック少量	7	暗 赤 褐 色	焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，ロームブロック・炭化物微量
4	暗　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	8	にぶい黄褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片38点（坏類11，甕類27），須恵器片2点（甕類）が出土している。614は北西部の覆土下層から，615は竈の覆土からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半ごろと考えられる。



第314図　第216号住居跡出土遺物実測図

第216号住居跡出土遺物観察表（第314図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
613	土師器	高台付椀	[14.0]	5.4	[7.9]	赤色粒子・金雲母	にぶい橙	普通	ロクロナデ，体部下端回転ヘラ削り	覆土中	20%
614	土師器	甕	[18.4]	(5.6)	－	石英・長石・赤色粒子・雲母	明赤褐	普通	体部内外面ヘラナデ	覆土下層	5%
615	土師器	甕	[18.0]	(6.6)	－	雲母	にぶい赤褐	普通	体部内外面ヘラナデ	竈覆土中	5%

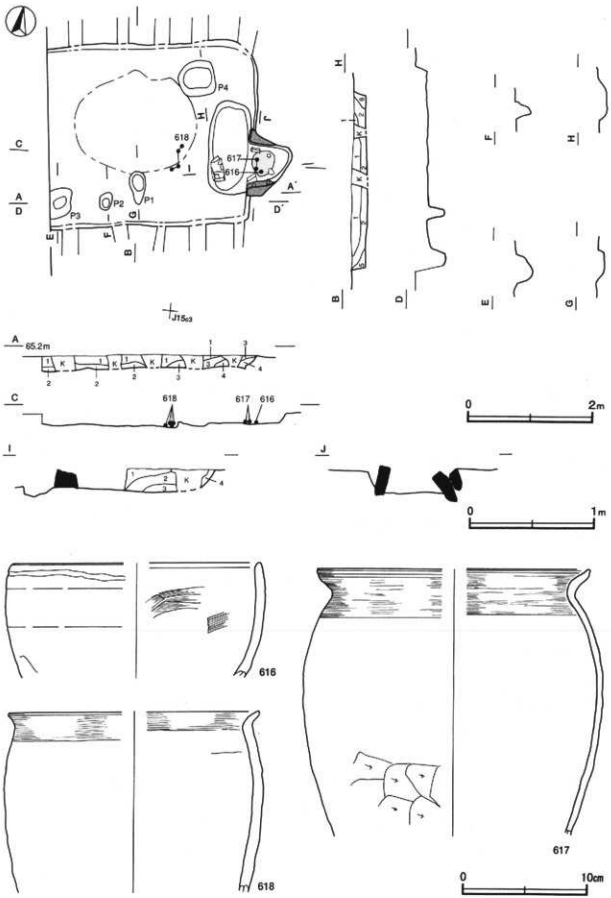
第217号住居跡（第315図）

位置　調査区西部のJ15b2区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

規模と形状　西側が調査区域外へ延びているため，確認できたのは長軸3.3m，短軸2.9mで長方形と推定され，主軸方向はN－83°－Eである。壁高は18～24cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　やや起伏があり，中央部が踏み固められている。竈前面にわずかな高まりが見られる。

竈　東壁の南寄りに位置している。焚き口部と煙道部付近が撹乱のため破壊されている。残存部から推定される規模は，焚き口部から煙道部先端まで90cm，袖部幅110cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ，わずかに外傾して立ち上がっている。天井部は，補強材と考えられる被熱した石材が竈前面からまとまって出土していることから，廃棄される際に破壊されたものと推測される。袖部は石材を芯材とし，砂質粘土で周りを覆い構築されている。火床部は赤変硬化し，砂質粘土混じりの焼土が厚く堆積している。また，火床部の奥には支脚と考えられる柱状の直立した石材が2個体見られることから，掛口が2か所あったと推定される。



第315図　第217号住居跡・出土遺物実測図

竈土層解説

1 暗 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック少量，炭化粒子微量
2 暗 赤 褐 色　ローム ブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量
3 暗 赤 褐 色　炭化粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土ブロック微量
4 極暗赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量

ピット　4か所。性格は不明である。

覆土　6層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積である。

土層解説

1 暗 褐 色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
2 暗 褐 色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
3 暗 褐 色　ローム ブロック少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
4 黒 褐 色　ローム粒子・炭化物少量，焼土ブロック・砂質粘土ブロック微量
5 暗 褐 色　ローム ブロック少量，炭化粒子微量
6 暗 褐 色　ローム ブロック・焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片265点（坏類37，甕類228），須恵器片9点（坏類6，甕類3），粘土塊2点が出土している。616・617は竈の火床部上から破片で出土している。618は中央部の床面から出土している。いずれも廃絶直後に混入したものと考えられる。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半ごろと考えられる。

第217号住居跡出土遺物観察表（第315図）

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	焼成	手法の特徴	出土位置	備 考
616	土師器	鉢	[19.6]	(9.1)	－	石英・長石・雲母	明赤褐	普通	ロクロナデ	火床部上	10%
617	土師器	甕	[21.6]	(21.3)	－	石英・長石・雲母	にぶい赤褐	普通	体部外面ヘラ削り	火床部上	20%
618	土師器	甕	[20.0]	(14.2)	－	石英・長石	赤褐	普通	体部内外面ナデ	床面	20%

第218号住居跡（第316図）

位置　調査区東部のＪ15a2区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

規模と形状　長軸3.2m，短軸2.6mの長方形で，主軸方向はＮ－115°－Ｅである。壁高は14～26cmで，各壁ともほぼ直立している。

床　ほぼ平坦で，竈の前面から中央部が踏み固められている。

竈　北東コーナー部に位置している。規模は焚き口部から煙道部先端まで80cm，袖部幅90cmである。煙道部は壁外へ50cmほど掘り込まれ，緩やかに外傾して立ち上がっており，焼土が堆積している。天井部は失われており，竈内の覆土にも砂質粘土などの構築材が見られないことから，竈の廃絶時に破壊され取り除かれたものと推測される。袖部は地山上に砂質粘土を貼り付けて構築されており，内側は被熱で赤変硬化している。火床部は赤変硬化し，竈内の灰と考えられる焼土が厚く堆積している。

竈土層解説

1 褐 色　ローム粒子・焼土ブロック・炭化粒子微量
2 にぶい赤褐色　焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
3 にぶい赤褐色　焼土ブロック・炭化粒子少量，ローム粒子微量
4 暗 赤 褐 色　焼土粒子・砂質粘土粒子少量，ローム粒子微量
5 暗 赤 褐 色　焼土粒子少量，ローム粒子・砂質粘土粒子微量
6 にぶい黄褐色　砂質粘土粒子多量，ローム粒子微量

ピット　2か所。Ｐ１・Ｐ２は深さ８～10cmで，配置から主柱穴と考えられる。

覆土　7層からなる。レンズ状の堆積状況から自然堆積と考えられる。

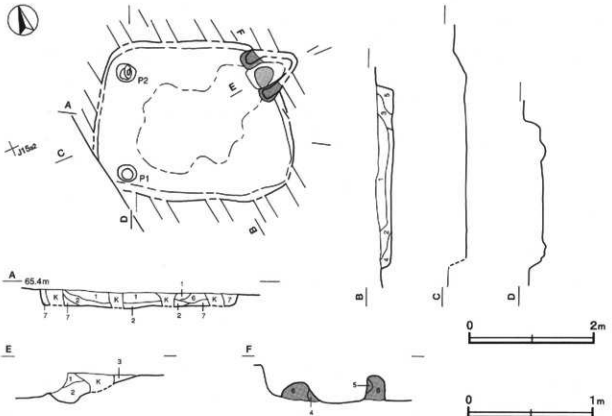
土層解説

1 暗 褐 色　ローム ブロック・焼土粒子・炭化粒子少量
2 暗 褐 色　ローム ブロック・炭化粒子微量
3 暗 褐 色　ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
4 暗 褐 色　ローム ブロック少量
5 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6 褐 色　ローム ブロック・焼土粒子少量，炭化粒子微量
7 褐 色　ローム ブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片76点（坏類15，甕類61），須恵器片１点（坏類），石材２点が出土している。土器片

はいずれも小片で，図化できるものはなかった。

所見　他の住居跡に比べ，主軸方向が南東方向へかなり傾いている。時期は，出土土器と住居の規模・形状から10世紀代と考えられる。



第316図　第218号住居跡実測図

第219号住居跡（第317図）

位置　調査区東部のⅠ15h2区に位置し，尾根上の平坦部に立地している。

重複関係　第422号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　南部が削平されているため，確認できたのは北壁3.6m，東壁2.8mで，方形または長方形と推定され，主軸方向はN－6°－Wである。壁高は4～10cmで，ほぼ直立している。

床　やや起伏があり，中央部が踏み固められている。竈前面に三日月状のわずかな高まりを持っている。

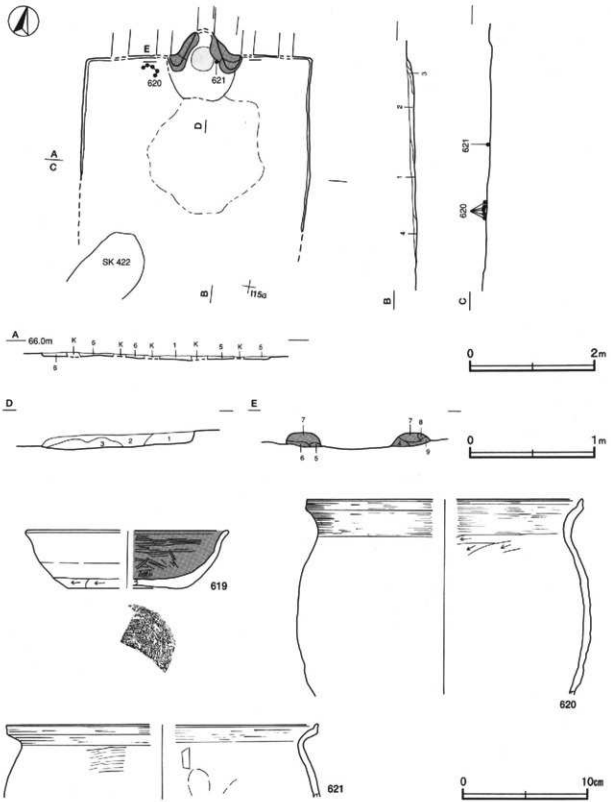
竈　北壁の中央部に位置しているが，上部は削平を受けており，また煙道部は撹乱によって破壊されている。規模は，焚き口部から煙道部先端まで推定90cm，袖部幅120cmである。天井部は崩落したと考えられ，竈内の覆土中に構築材の砂質粘土が見られる。袖部は地山にローム土を盛り，その上に砂質粘土を盛り上げて構築されている。内面は被熱で赤変している。火床部は赤変硬化し，焼土が厚く堆積している。

竈土層解説

1	暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土ブロック微量	4	暗赤褐色	焼土ブロック少量，ローム粒子・炭化粒子微量
2	暗褐色	砂質粘土粒子中量，焼土ブロック少量，ロームブロック微量	5	灰褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	極暗赤褐色	焼土ブロック・炭化粒子少量，ロームブロック・砂質粘土ブロック微量	6	褐色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
			7	オリーブ褐色	砂質粘土粒子多量，炭化粒子微量
			8	暗赤褐色	砂質粘土粒子少量，ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

9　褐　　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量

覆土　6層からなる。北側から土砂が流れ込んだ自然堆積と考えられる。



第317図　第219号住居跡・出土遺物実測図

土層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・砂質粘土粒子少量，炭化物微量	4	暗 褐 色	ローム粒子少量
2	暗 褐 色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子・砂質粘土粒子少量	5	褐 色	ローム粒子少量，炭化物微量
3	暗 褐 色	ロームブロック・焼土粒子・砂質粘土粒子少量	6	暗 褐 色	ローム粒子多量，焼土ブロック・炭化物・砂質粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片70点（坏類12，甕類58），須恵器片4点（坏類3，甕類1），石材5点，粘土塊1点の他，後世の耕作などで混入したと考えられる陶器片1点が出土している。621は竈の火床部右側から，620は竈西側の床面からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後半ごろと考えられる。

第219号住居跡出土遺物観察表（第317図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
619	土師器	坏	13.0	4.6	6.4	石英・長石・赤色粒子・雲母	にぶい褐	普通	内面ヘラ磨き，体部下端ヘラ削り	床面	20%
620	土師器	甕	22.0	(15.6)	－	石英・長石・赤色粒子	明赤褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラ削り	床面	10%
621	土師器	甕	24.8	(5.8)	－	石英・長石	明褐	普通	体部外面ナデ，内面ヘラ削り後ナデ，指頭痕	床面	5%

(2)　掘立柱建物跡

第2号掘立柱建物跡（第318図）

位置　調査区中央部のK16f0区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第5・66・137・138号住居，第66号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　桁行3間（平均5.36m），梁間2間（平均3.68m）の総柱式の建物跡で，桁行方向はN－7°－Wの南北棟である。柱間寸法は桁行約1.8m，梁間約1.8mで，面積は19.72㎡である。

柱穴　12か所（P1～P12）で，平面形は長径0.88～1.37m，短径0.74～1.18mの隅丸方形または隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈し，深さは36～74cmである。柱痕は第1・3・8・26・37層が相当し，粘性またはしまりの弱い土層である。柱材の径は20～30cmと推定される。その他は，ほとんどが粘性・しまりの強い土層で，突き固められた形跡がある。また，P3・P5・P6・P9・P12の掘り方の底面には，柱が当たると思われる位置に扁平な雲母片岩が潰かれている。

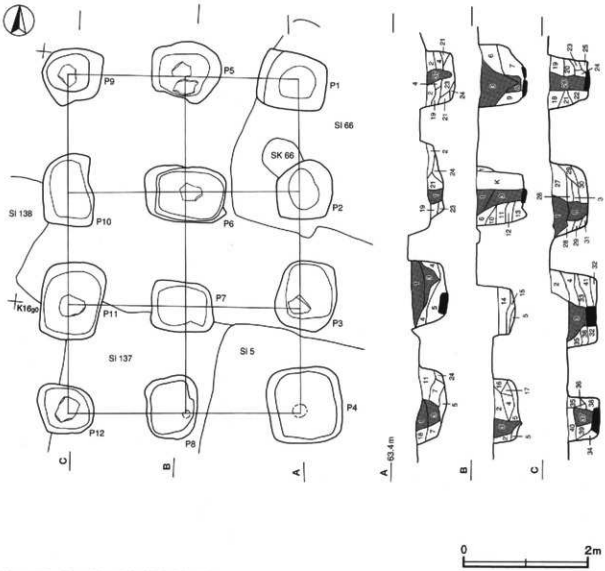
土層解説

1	黒 褐 色	ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量	19	にぶい黄褐色	ローム粒子中量
2	暗 褐 色	ローム ブロック中量	20	にぶい黄褐色	ローム ブロック少量，粘性・しまり弱
3	黒 褐 色	ローム ブロック少量，炭化物微量	21	にぶい黄褐色	ローム粒子多量，粘性強
4	暗 褐 色	ローム ブロック中量，粘性・しまり弱	22	にぶい黄褐色	ローム ブロック少量，粘性強・しまり弱
5	にぶい黄褐色	ローム ブロック多量	23	暗 褐 色	ローム ブロック少量，粘性強・しまり弱
6	灰 褐 色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	24	にぶい黄褐色	ローム粒子中量，粘性弱
7	にぶい黄褐色	ローム粒子多量	25	にぶい黄褐色	ローム ブロック中量，粘性強
8	黒 褐 色	ローム粒子微量	26	暗 褐 色	ローム ブロック中量，炭化粒子微量
9	にぶい黄褐色	ローム ブロック少量	27	暗 褐 色	ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
10	黒 褐 色	ローム ブロック・炭化粒子微量	28	暗 褐 色	ローム ブロック中量，粘性弱・しまり強
11	灰 黒 褐 色	ローム ブロック微量	29	暗 褐 色	ローム粒子微量
12	黒 褐 色	ローム粒子微量	30	にぶい黄褐色	ローム粒子中量，粘性・しまり弱
13	暗 褐 色	ローム ブロック中量	31	黒 褐 色	ローム粒子微量，粘性弱
14	暗 褐 色	ローム ブロック・焼土粒子微量	32	褐 色	ローム粒子中量
15	暗 褐 色	ローム ブロック少量	33	暗 褐 色	ローム ブロック少量，粘性弱
16	暗 褐 色	ローム ブロック・焼土粒子微量	34	黒 褐 色	ローム ブロック微量，しまり弱
17	黒 褐 色	ローム ブロック・炭化粒子微量，しまり弱	35	暗 褐 色	ローム ブロック・赤色粒子微量
18	にぶい黄褐色	ローム粒子多量，粘性弱	36	にぶい黄褐色	ローム粒子少量

37　暗　褐　色　　ロームブロック微量，しまり弱
38　暗　褐　色　　ローム粒子多量
39　黒　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量，粘性・しまり弱
40　暗　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒微量，粘性弱
41　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化粒子微量，しまり強

遺物出土状況　土師器片6点（坏類2，甕類4）が出土している。小片のため図化できなかった。

所見　柱穴内から見つかった雲母片岩は，礎石的な使われた方をしていたと考えられ，柱が沈まないための工夫と考えられる。時期は，重複関係および桁行方向が第8号掘立柱建物跡とほぼ直交することから，ほぼ同時期の8世紀代と考えられる。



第318図　第2号掘立柱建物跡実測図

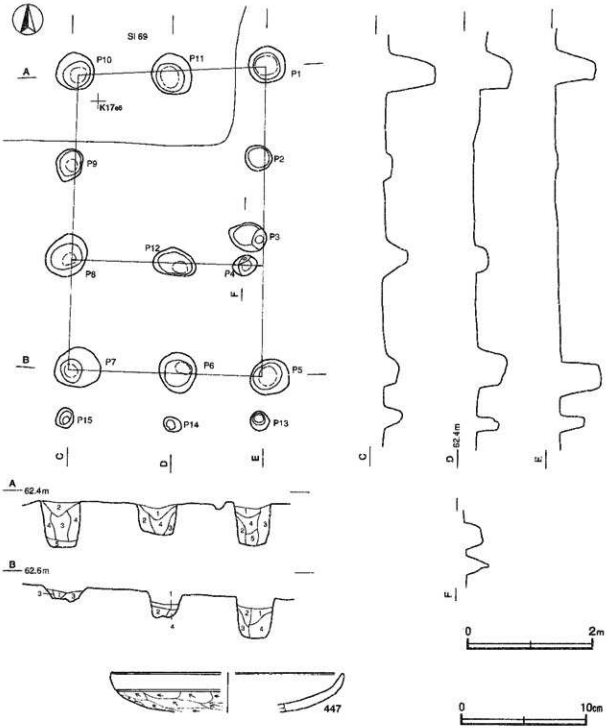
第3号掘立柱建物跡（第319図）

位置　調査区中央部のK17e6区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第69号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造　桁行２間（平均3.1m），梁間２間（平均3.1m）の側柱式の建物跡で，南側に庇を持ち，庇部分を含めた桁行は平均4.9mである。桁行方向はN－０°の南北棟である。柱間寸法は桁行約1.4m，梁間約1.3m，面積は9.61㎡で，庇部分を含めると15.19㎡である。

柱穴　15か所（Ｐ１～Ｐ15）で，Ｐ１～Ｐ12の平面形は長径0.3～0.73m，短径0.34～0.62mの円形または楕円形である。断面形は逆台形を呈し，深さ21～72cmである。Ｐ５～Ｐ７は庇の柱穴と考えられる。第３・４・５層が柱痕の覆土とみられる堆積状況を示しているが，Ｐ１とＰ10では土層の堆積状況が異なり，第３層はしま



第319図　第3号掘立柱建物跡・出土遺物実測図

りの強い層であることから，柱痕ではなく抜き取り痕の可能性が考えられる。P１・P５～P12の底面は硬化しており，柱が置かれた痕跡と考えられる。柱材の径は15～30cmと推定される。P13～P15の平面形は長径30～35cm，短径24cm～30cmの円形または楕円形である。断面形は逆台形またはU字形を呈し，深さは30～40cmである。これらは桁行の延長上に並ぶことから，足場を設置したピットと考えられる。

土層解説
1 黒褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2 黒褐色 ロームブロック中量，焼土粒子・炭化粒子微量
3 明褐色 ローム粒子中量
4 暗褐色 ロームブロック・炭化粒子微量
5 褐色 ロームブロック・炭化粒子少量

遺物出土状況 土師器片12点（坏類２，甕類10）が出土している。447はP10の上面から出土している。

所見 基本的には側柱建物であるが，南に庇を持っていることから他の側柱建物と若干性格が異なる建物と考えられる。時期は，重複関係と出土土器から８世紀代と考えられる。

第３号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第319図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
447	土師器	坏	(18.6)	(3.2)	－	石英・長石	橙	普通	底部手持ちヘラ削り	P10	20%

第４号掘立柱建物跡（第320図）

位置 調査区中央部のK17c2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係 第５号掘立柱建物，第３号溝，第146・147・183・267号土坑に掘り込まれ，第149号土坑と重複している。

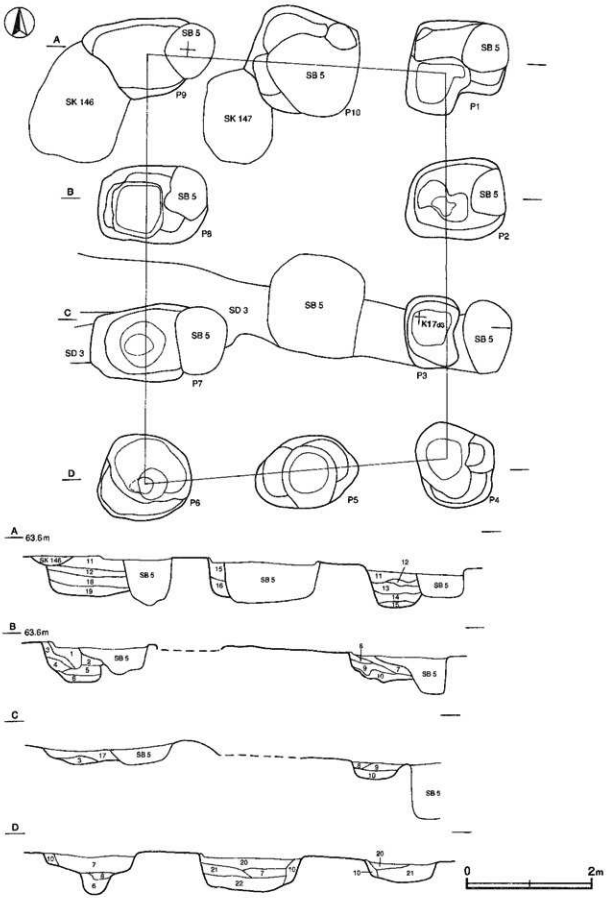
規模と構造 桁行３間（平均6.9m），梁間２間（平均4.82m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN－５°－Wの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.2m，梁間約2.3mで，面積は33.26㎡である。

柱穴 10か所（P１～P10）で，平面形は長径1.30～1.78m，短径1.12～1.60mの楕円形または隅丸方形である。断面形は逆台形と推定され，深さは32～74cmである。柱痕は確認されず，第１～３・７層は粘性・しまりが弱いことから柱抜き取り痕の土層と考えられる。第５・７・９～15・17層は粘性・しまりが強く，突き固められた形跡がある。

土層解説
1 暗褐色 ロームブロック微量
2 暗褐色 ローム粒子中量
3 褐色 ロームブロック微量
4 暗褐色 ロームブロック微量，粘性・しまり強
5 褐色 ロームブロック中量
6 暗褐色 ロームブロック少量
7 褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量
8 褐色 ローム粒子少量
9 暗褐色 ローム粒子微量
10 暗褐色 ロームブロック微量，粘性・しまり強
11 にぶい黄褐色 ローム粒子中量
12 暗オリーブ色 ローム粒子中量
13 黒褐色 ロームブロック微量
14 褐色 ローム粒子多量
15 にぶい黄褐色 ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
16 暗褐色 粘土粒子少量，ローム粒子微量
17 暗褐色 ロームブロック・炭化物微量
18 暗オリーブ色 ローム粒子多量
19 オリーブ黒色 ローム粒子微量
20 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子・赤色粒子微量
21 黒褐色 ロームブロック中量
22 黒褐色 ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況 土師器片41点（坏類29，甕類12），須恵器片７点（坏類）が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

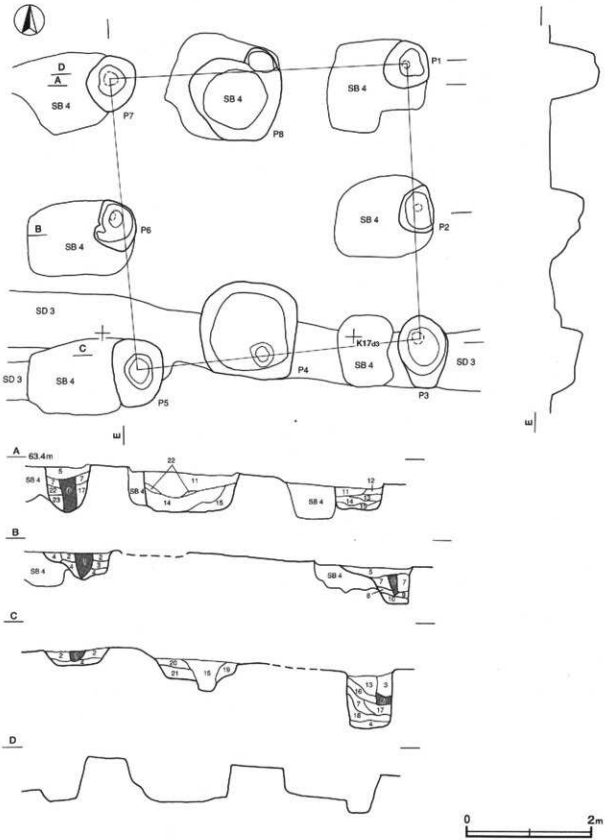
所見 時期は，桁行方向が第２号掘柱建物跡とほぼ同一であることから，８世紀代と考えられる。



第320図　第4号掘立柱建物跡実測図

第５号掘立柱建物跡（第321図）

位置　調査区中央部のＫ17c2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。



第321図　第5号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第4号掘立柱建物跡を掘り込み，第3号溝，第146・147・183号土坑に掘り込まれ，第149号土坑と重複している。

規模と構造　桁行2間（平均4.8m），梁間2間（平均4.6m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN－87°－Eの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.3m，梁間約2.2mで，面積は21.94㎡である。

柱穴　8か所（P1～P8）で，平面形は長径0.39～1.05m，短径0.34～0.81mの丸形または楕円形である。断面形は逆台形を呈し，深さは46～96cmである。柱痕の層は第1・6層が相当し，粘性・しまりの弱い層である。柱材の径は18～25cmと推定される。また，P2・P7では第6層の上に粘性・しまりの強い第5層が堆積していることから，柱が抜き取られた可能性がある。その他の層は，ほぼ褐色土と暗褐色土が交互に堆積し，粘性・しまりの強い層も含まれることから，突き固められた形跡がある。P1～P3・P6・P7の底面は硬化しており，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1　褐　色　ローム粒子中量
2　暗褐色　ロームブロック少量
3　暗褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・焼土粒子微量
4　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　色　ロームブロック・焼土粒子微量
6　暗褐色　ローム粒子微量
7　褐　色　ロームブロック少量，粘性・しまり強
8　褐　色　ローム粒子多量
9　暗褐色　ロームブロック微量
10　暗褐色　ローム粒子微少，しまり弱
11　褐　色　ローム粒子中量，粘性・しまり強
12　褐　色　ローム粒子中量，赤色粒子微量
13　褐　色　ローム粒子多量，粘性強
14　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
15　褐　色　ローム粒子多量，炭化粒子微量
16　灰黄褐色　ロームブロック少量
17　黒褐色　ロームブロック・炭化粒子微量
18　褐　色　ローム粒子中量，赤色粒子微量
19　褐　色　ローム粒子多量，粘性・しまり強
20　黒褐色　ローム粒子中量，炭化物微量
21　褐　色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
22　暗褐色　粘土粒子少量，ロームブロック微量
23　褐　色　ローム粒子多量，粘性強

遺物出土状況　土師器片25点（坏類13，甕類12），須恵器片4点（坏類3，甕類1）が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　時期は，重複関係および桁行方向が第3号掘立柱建物跡とほぼ直交することから，第4号掘立柱建物跡に後出する8世紀代と考えられる。

第6号掘立柱建物跡（第322図）

位置　調査区中央部のK17g6区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第92号住居に掘り込まれ，第8・12・14号掘立柱建物跡と重複している。

規模と構造　後世の道路に影り込まれ，全容は明らかではない。桁行2間（平均5.0m），梁間2間（平均4.6m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はN－87°－Wの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.5m，梁間約2.2mで，面積は23.09㎡である。

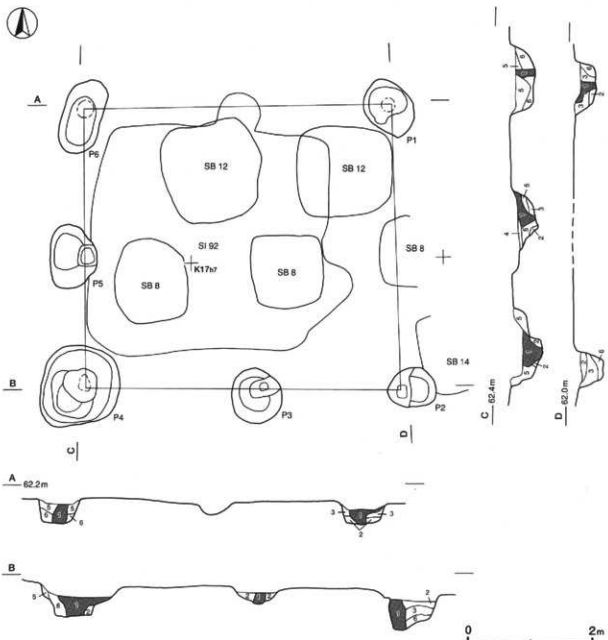
柱穴　6か所（P1～P6）で，平面形は長径0.78～1.26m，短径0.61～1.24mの円形または楕円形である。断面形は逆台形を呈し，深さは26～58cmである。第1層はしまりが弱く，柱痕または抜き取り痕の上層と考えられる。その他の土層はしまりの強い上層で，突き固められた形跡がある。柱穴の底面は硬化しており，柱が置かれた痕跡と考えられる。柱材の径は14～26cmと推定される。

土層解説

1　黒褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
2　暗褐色　ローム粒子中量
3　暗褐色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
4　暗褐色　施設パミス少量
5　暗褐色　ロームブロック少量，炭化粒子微量
6　暗褐色　ロームブロック多量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片25点（坏類7，甕類18），須恵器片5点（坏類2，甕類3）が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　第３号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ直交しており，同一の建物配置と考えられる。時期は，重複関係から，８世紀後葉から９世紀前葉と考えられる。



第322図　第6号掘立柱建物跡実測図

第７号掘立柱建物跡（第323図）

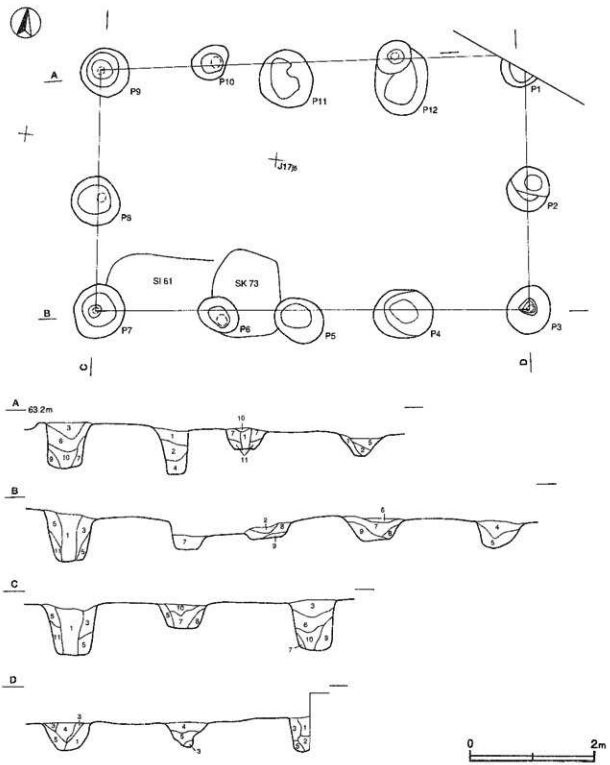
位置　調査区中央部のＪ17j5区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第61号住居跡，第160・161号土坑を掘り込み，第73号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　北東部が調査区域外に延び，全容は不明である。桁行４間（平均6.9m），梁間２間（平均3.9m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－83°－Ｅの東西棟と推定される。柱間寸法は桁行約1.9mであるが中央の二間の間隔が狭く，梁間は約1.8mで，面積は26.57㎡である。

柱穴　12か所（Ｐ１～Ｐ12）で，平面形は長径0.63～1.21m，短径0.51～0.81mの円形または楕円形である。

断面形は円筒形を呈し，深さは29～81cmである。第１・２層はしまりが弱く，Ｐ７では柱状に堆積しているが，Ｐ10・Ｐ12では同様の堆積状況が見られないことから，柱が抜き取られた可能性がある。その他の層はしまりの強い土層が多く，突き固められた形跡がある。Ｐ３・Ｐ６～Ｐ10・Ｐ12の底面は硬化しており，柱が腐かれた痕跡と考えられる。柱材の径は10～20cmと推定される。



第323図　第7号掘立柱建物跡実測図

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量
2	暗	褐	色	ロームブロック微骨
3	褐		色	ロームブロック少量
4	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック微量
5	暗	褐	色	ロームブロック少骨
6	褐		色	ローム粒子少量，焼土粒子微量
7	褐		色	ロームブロック・焼土粒子微骨
8	褐		色	ローム粒子中量，焼土粒子微量
9	褐		色	ローム粒子中量
10	暗	褐	色	焼土粒子少骨，炭化粒子微骨
11	暗	褐	色	ロームブロック少骨，炭化粒子微骨

遺物出土状況　土師器片３点（坏類１，甕類２）が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　時期は，重複関係から９世紀後半以降と考えられる。

第８号掘立柱建物跡（第324図）

位置　調査区中央部のＫ17g6区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第80・92号住居，第12・14掘立柱建物に掘り込まれている。第６号掘立柱建物跡，第３号柵跡と重複している。

規模と構造　桁行５間（平均10.5m），梁間２間（平均5.2m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－82°－Ｗの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.2m，梁間約2.5mで，面積は54.7㎡である。

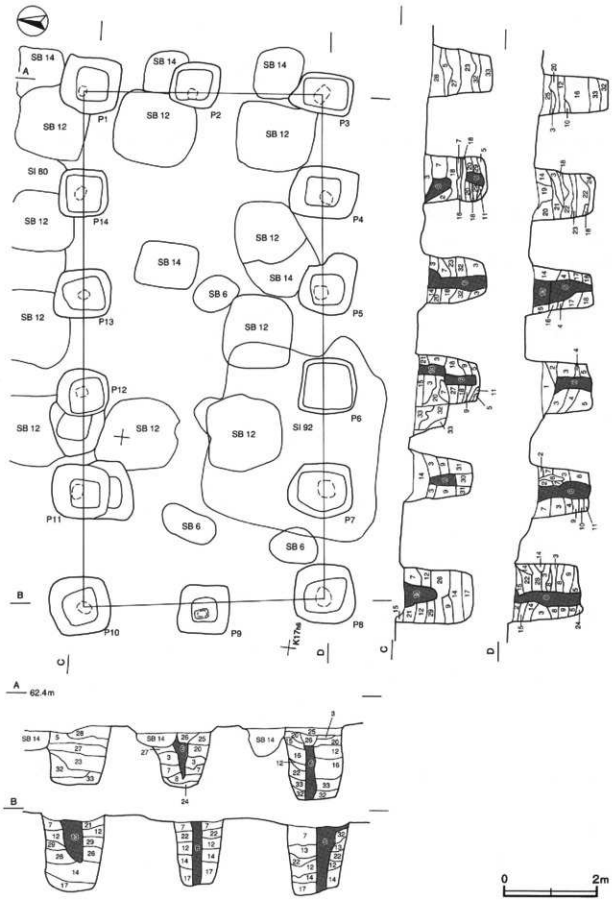
柱穴　14か所（Ｐ１～Ｐ14）で，平面形は長径1.04～1.4m，短径0.84～1.24mの方形または長方形である。断面形は円筒形を呈し，深さは123～144cmである。柱痕の層は第６・13層が相当し，粘性・しまりの弱い層である。柱材の径は20～40cmと推定される。その他の土層は，基本的に褐色土と暗褐色土が交互に堆積しており，粘性・しまりの強い土層が多く，突き固められた形跡が認められる。Ｐ１～Ｐ５・Ｐ７～Ｐ14の底面は硬化しており，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1	黒	褐	色	ロームブロック中量，鹿沼パミス少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2	暗	褐	色	ロームブロック中量，焼土粒子・炭化物・鹿沼ブロック微骨
3	暗	褐	色	ロームブロック多量
4	暗	褐	色	鹿沼パミス多骨，ロームブロック中骨
5	黒	褐	色	鹿沼ブロック少量，ロームブロック微量
6	黒	褐	色	鹿沼パミス多量，ロームブロック少量
7	オリーブ褐色			ローム粒子少骨，鹿沼ブロック微骨
8	オリーブ褐色			鹿沼パミス多量，ロームブロック少量
9	明	褐	色	ロームブロック中骨
10	に	ぶい	黄褐色	ロームブロック・鹿沼ブロック多量
11	明	黄	褐色	鹿沼パミス多骨，ローム粒子少量
12	に	ぶい	褐色	ロームブロック中量，鹿沼パミス少量
13	黒	褐	色	ローム粒子少骨，鹿沼パミス微骨
14	褐		色	鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
15	褐		色	ロームブロック微量
16	褐		色	鹿沼パミス少量
17	明	褐	色	ロームブロック・鹿沼パミス中骨
18	暗	褐	色	ロームブロック・鹿沼ブロック少量
19	褐	灰	色	ローム粒子中量
20	褐		色	ロームブロック中量
21	暗	褐	色	ローム粒子少骨，炭化物・鹿沼パミス微量
22	橙		色	鹿沼ブロック中量，ロームブロック少骨
23	黒	褐	色	ロームブロック・鹿沼パミス少量
24	褐		色	鹿沼ブロック微量
25	暗	褐	色	ロームブロック中量
26	暗	褐	色	ローム粒子中骨，鹿沼パミス少量
27	明	褐	色	ロームブロック多量
28	褐		色	鹿沼ブロック中骨，ローム粒子少量
29	褐		色	ロームブロック・鹿沼ブロック少量，粘性強
30	暗	褐	色	鹿沼ブロック少量
31	橙		色	鹿沼ブロック中量
32	暗	褐	色	軟土ブロック少量，粘性・しまり強
33	褐		色	ローム粒子多量

遺物出土状況　土師器片35点（坏類10，甕類25），須恵器片３点が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

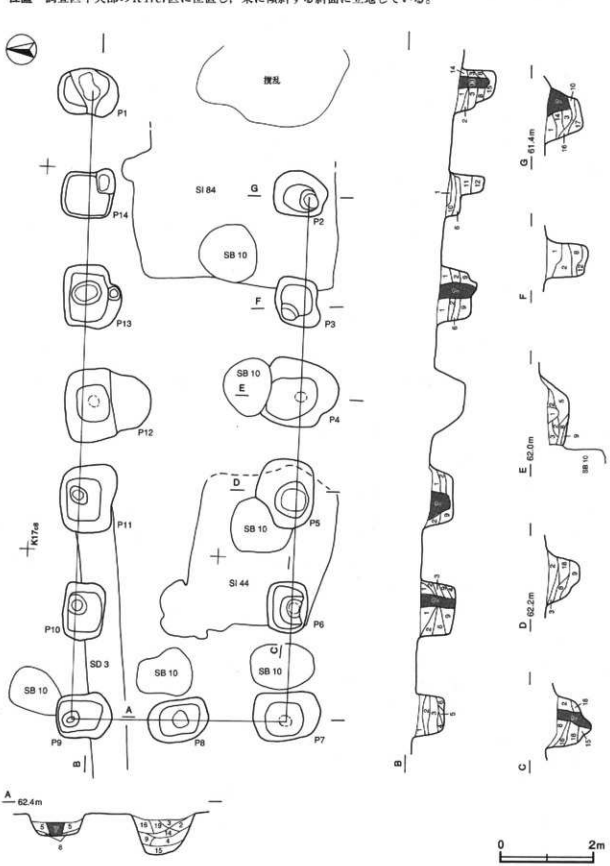
所見　掘り方が深く，柱径が比較的太いことから，大型の上屋構造を持つ建物であったと考えられる。時期は，重複関係および内面黒色処理の土師器坏の破片が見られないことから，８世紀代と考えられる。



第324図　第8号掘立柱建物跡実測図

第９号掘立柱建物跡（第325図）

位置　調査区中央部のＫ17c7区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。



第325図　第9号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第84号住居跡を掘り込み，第44号住居，第10号掘立柱建物，第３号溝跡に掘り込まれている。

規模と構造　南東部が撹乱によって破壊され，全容は不明である。桁行６間（平均13.1m），梁間２間（平均4.5m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－88°－Ｗの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.2m，梁間約2.2mで，面積は59.15㎡と想定される。

柱穴　14か所（Ｐ１～Ｐ14）で，平面形は長径0.98～1.49m，短径0.84～1.36mの楕円形または隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈し，深さは45～91cmである。柱痕は第７・13層が相当し，粘性・しまりの弱い層である。柱材の径は約20cmと推定される。その他の土層は，ほぼ褐色土と暗褐色土が交互に堆積し，粘性・しまりの強い土層も見られ，突き固められた形跡がある。Ｐ４・Ｐ６・Ｐ７・Ｐ12の底面が硬化しており，Ｐ１・Ｐ２・Ｐ６・Ｐ８～Ｐ11・Ｐ13・Ｐ14の底面は１段掘り下げられていることから，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1　黒褐色　ローム ブロック少量
2　褐色　ローム粒子少量
3　暗褐色　ローム ブロック微量
4　暗褐色　ローム粒子微量
5　褐色　ローム粒子少量，粘性強
6　褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
7　褐色　ローム粒子中量
8　褐色　ローム ブロック少量
9　褐色　ローム ブロック少量，粘性・しまり強
10　褐色　ローム粒子多量
11　にぶい褐色　ローム粒子多量
12　褐色　鹿沼パミス多量，ローム粒子中量
13　暗褐色　ローム ブロック少量
14　暗褐色　ローム ブロック・炭化粒子微量
15　褐色　ローム粒子・鹿沼パミス中量，炭化粒子少量
16　にぶい黄褐色　ローム粒子・鹿沼パミス少量
17　褐色　ローム粒子少量，粘性・しまり強
18　褐色　ローム ブロック少量，炭化粒子・鹿沼パミス微量
19　褐色　ローム粒子・炭化物・鹿沼ブロック少量

遺物出土状況　土師器片37点（坏類７，甕類30），須恵器片４点（坏類）が出土している。小片のため図化できなかった。

所見　時期は，重複関係から８世紀前葉と想定される。

第10号掘立柱建物跡（第326図）

位置　調査区中央部のＫ17c7区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第78・84号住居跡，第９号掘立柱建物跡を掘り込み，第44号住居，第３号溝に掘り込まれている。

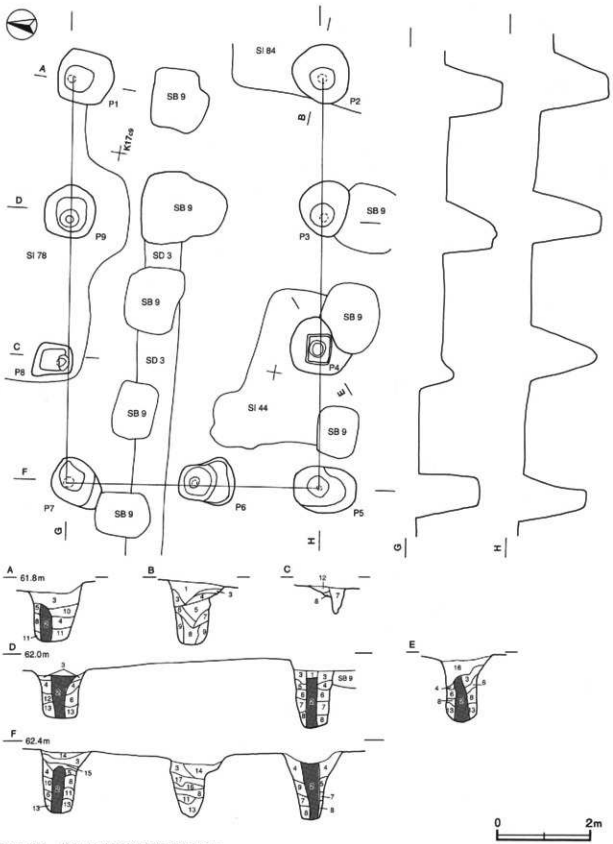
規模と構造　東側の桁は削平された可能性があり，確認できなかった。現存する規模は，桁行３間（平均8.6m），梁間２間（平均5.3m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－81°－Ｅの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.9m，梁間約2.5mで，面積は45.3㎡である。

柱穴　９か所（Ｐ１～Ｐ９）で，平面形は長径0.74～1.32m，短径0.61～1.19mの楕円形または隅丸方形である。断面形は円筒形を呈し，深さ51～144cmである。柱痕は第２層が相当し，しまりの弱い土層である。柱材の径は11～22cmと推定される。第１層は第２層の上層から確認されているが，粘土粒子を含み粘性の強い層であるため，柱痕の土層である可能性は低い。その他の層はほぼ褐色土と暗褐色土が交互に堆積し，粘性・しまりの強い層で，突き固められた形跡がある。Ｐ１～Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７の底面が硬化しており，Ｐ４・Ｐ６・Ｐ８・Ｐ９の底面は１段掘り下げられていることから，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1　褐灰色　粘土粒子中量，炭化物少量
2　褐色　炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
3　褐色　ローム粒子・鹿沼パミス少量
4　暗褐色　炭化物・鹿沼パミス微量
5　褐色　ローム粒子中量，鹿沼パミス少量
6　暗オリーブ色　ローム粒子・鹿沼パミス少量
7　暗褐色　ローム ブロック微量
8　褐色　ローム粒子少量
9　褐色　ローム ブロック少量
10　鈍い黄褐色　ローム粒子少量，鹿沼ブロック微量
11　暗褐色　ローム ブロック少量
12　暗褐色　鹿沼パミス中量，ローム ブロック微量
13　暗褐色　鹿沼パミス少量
14　褐灰色　ローム粒子・炭化物・粘土粒子少量

15　灰　褐　色　　ローム粒子中量，粘土粒子微量
16　鈍い黄褐色　　ローム粒子・鹿沼パミス中量
17　暗　褐　色　　ロームブロック・炭化物・鹿沼パミス微量



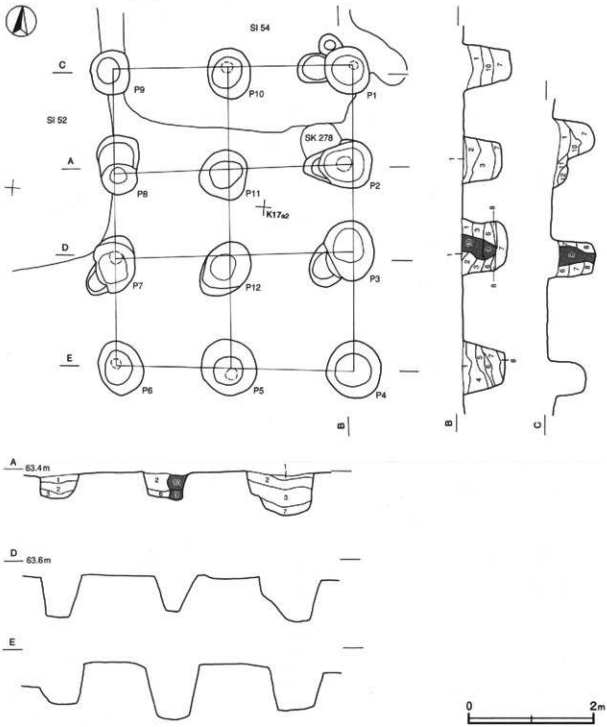
第326図　第10号掘立柱建物跡実測図

遺物出土状況　土師器片71点（坏類27，甕類41，高坏３），須恵器片４点（坏類２，甕類２）が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　第１層は柱痕をふさぐように堆積し，柱が抜きとられた後に柱穴を埋めた層と想定される。時期は，重複関係および桁行方向が第８号掘立柱建物跡とほぼ同一であることから８世紀中葉から後葉と考えられる。

第11号掘立柱建物跡（第327・328図）

位置　調査区中央部のＪ17j1区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。



第327図　第11号掘立柱建物跡実測図

重複関係　第52号住居跡を掘り込み，第54号住居に掘り込まれ，第278号土坑と重複している。

規模と構造　桁行３間（平均4.7m），梁間２間（平均3.8m）の総柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－７°－Ｗの南北棟である。柱間寸法は桁行約1.7m，梁間約1.9mで，面積は17.95㎡である。

柱穴　12か所（Ｐ１～Ｐ12）で，平面形は長径0.72～1.2m，短径0.6～0.86mの隅丸方形または楕円形である。断面形は逆台形を呈し，深さは41～85cmである。柱痕は第９・10層が相当し，しまりの弱い土層である。柱材の径は15～20cmと推定される。第１～８層はしまりの強い層で，突き固められた形跡がある。第11・12層は粘性・しまりが比較的弱いことから，柱の抜き取りに伴う土層と考えられる。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム ブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量		7	褐　色	ローム粒子中量	
2	暗　褐　色	ローム粒子多量，炭化物少量		8	黒　褐　色	ローム粒子少量	
3	暗　褐　色	ローム ブロック中量，焼土粒子・炭化物微量		9	暗　褐　色	ローム ブロック微量	
4	褐　色	焼土粒子・炭化粒子微量		10	暗　褐　色	ローム ブロック中量	
5	褐　色	炭化粒子微量		11	褐　色	ローム ブロック・炭化粒子少量	
6	褐　色	ローム ブロック中量		12	褐　色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	

遺物出土状況　土師器片16点（坏類７，甕類９），須恵器片３点（坏類２，甕類１）が出土している。666はＰ５内から出土している。

所見　時期は，出土土器や第２号掘立柱建物跡と桁行方向が一致することなどから８世紀代と考えられる。

第328図　第11号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第11号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第328図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
666	須恵器	坏蓋	[17.2]	(2.2)	－	長石・白色粒子	灰褐	普通	天井部回転ヘラ削り	Ｐ５	20%

第12号掘立柱建物跡（第329・330図）

位置　調査区中央部のＫ17j7区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

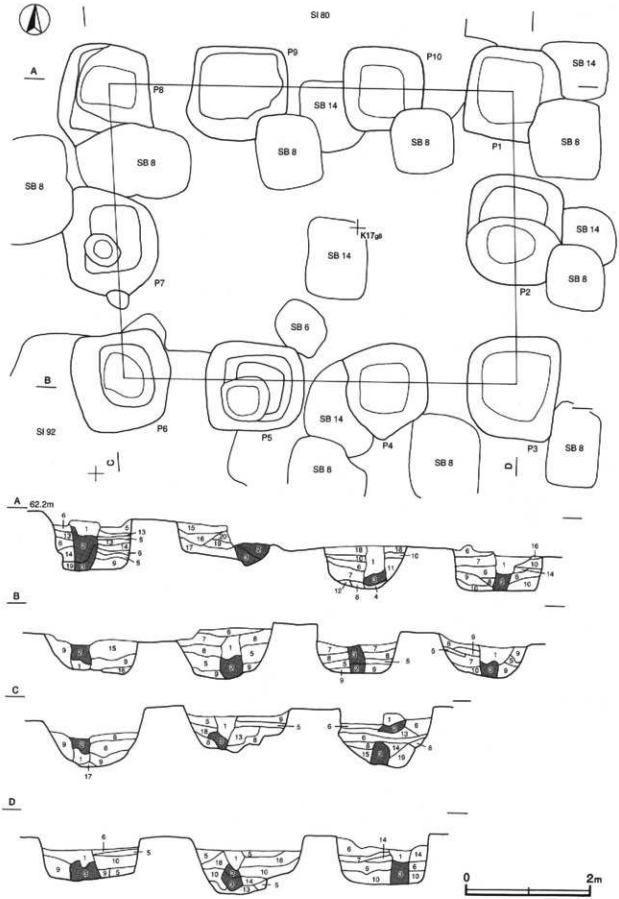
重複関係　第８・14号掘立柱建物跡を掘り込み，第80・92号住居に掘り込まれている。第６号掘立柱建物跡，第３号柵跡と重複している。

規模と構造　桁行３間（平均6.5m），梁間２間（平均4.5m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－90°－Ｅの東西棟である。桁間寸法は桁行約2.1m，梁間約2.4mで，面積は28.9㎡である。

柱穴　10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形は長径1.32～1.62m，短径1.28～1.42mの方形または長方形である。断面形は円筒形またはＵ字形を呈し，深さは58～88cmである。柱痕は第２・３層が相当し，粘性・しまりの弱い土層である。柱材の径は約30cmと推定される。第１層はこれらの上層から確認されているが，粘土を含み粘性の強い層であるため，柱痕の土層である可能性は低い。その他の層はほぼ褐色土と暗褐色土が交互に堆積し，粘性・しまりの強い層で，突き固められた形跡がある。Ｐ５・Ｐ７の底面は１段掘り下げられていることから，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1	灰　褐　色	ローム粒子・粘土粒子多量，鹿沼パミス微量	3	暗　褐　色	ローム粒子少量，焼土ブロック微量
2	暗　褐　色	ローム ブロック中量，炭化粒子・粘土粒子微量	4	灰　褐　色	ローム ブロック中量，鹿沼パミス少量，炭化粒子微量



第329図　第12号掘立柱建物跡実測図

5　黒　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
6　明　褐　色　　ローム粒子中量，鹿沼ブロック少量
7　灰　褐　色　　ローム ブロック・鹿沼パミス少量，炭化粒子微量
8　明　褐　色　　ローム粒子多量
9　明　褐　色　　ローム粒子多量，鹿沼ブロック微量微量
10　明　褐　色　　ローム粒子中量
11　褐　　色　　鹿沼パミス中量
12　明　褐　色　　ローム粒子中量，黒色土ブロック微量
13　褐　　色　　鹿沼パミス多量
14　褐　　色　　ローム粒子中量
15　褐　　色　　ローム ブロック中量，鹿沼ブロック少量
16　暗　褐　色　　ローム ブロック微量
17　暗　褐　色　　ローム ブロック少量
18　褐　　色　　ローム ブロック中量，粘性強
19　褐　　色　　ローム粒子中量，赤色粒子微量
20　褐　灰　色　　粘土粒子中量

遺物出土状況　土師器片42点（坏類12，甕類30），須恵器片14点（坏類12，甕類２），瓦片２点が出土している。T55はＰ２の埋土から出土している。

所見　第１層は柱痕をふさぐ形で堆積しており，柱が抜きとられた後に柱穴を埋めた層と想定される。時期は，重複関係から第８号掘立柱建物跡に後出する９世紀前葉以前と考えられる。

第330図　第12号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第12号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第330図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T55	平瓦	(23.3)	(14.1)	2.1	(1130.0)	土	凸面縄叩き，凹面布目痕	Ｐ５	

第13号掘立柱建物跡（第331図）

位置　調査区中央部のＪ17i4区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第156・157・173号土坑を掘り込み，第55・56号住居に掘り込まれている。

規模と構造　北東部は調査区域外に延び，全容は不明である。調査した範囲で，桁行３間（平均5.7m），梁間２間（平均３m）の総柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－88°－Ｅの東西棟である。柱間寸法は桁行約1.9m，梁間約1.5mで，桁行は中央の１間の間隔が狭く，梁間も北側が南側より狭い構造である。面積は17.12㎡である。

柱穴　８か所（Ｐ１～Ｐ８）で，平面形は長径0.45～0.75m，短径0.4～0.71mの円形または楕円形である。断面形は逆台形を呈し，深さは９～49cmである。粘性・しまりの強い土層は確認されないことから，柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ１・Ｐ４・Ｐ６～Ｐ８の底面が硬化しており，柱が置かれた痕跡と考えられる。柱材の径は12～22cmと推定される。

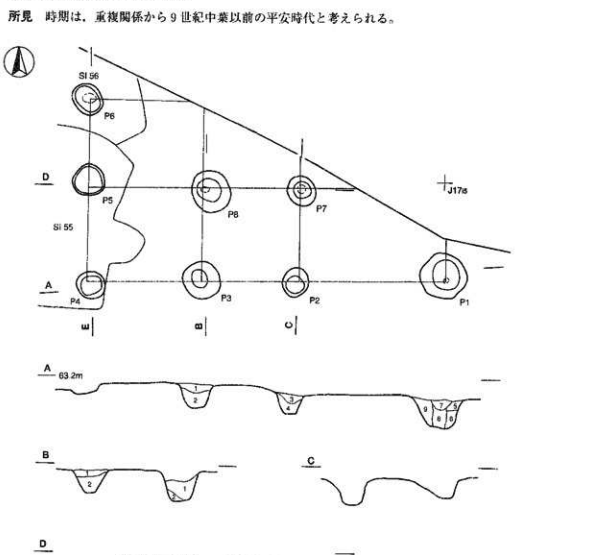
土層解説

1　暗　褐　色　　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　褐　　色　　ローム粒子中量
3　褐　　色　　ローム粒子微量
4　明　褐　色　　ローム粒子中量
5　褐　　色　　ローム ブロック・炭化粒子微量
6　褐　　色　　ローム粒子少量

7 褐　　色　ロームブロック微量　　9 暗 褐 色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量
8 暗 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片19点（坏類8，甕類11），須恵器片4点（坏類3，甕類1）が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　時期は，重複関係から9世紀中葉以前の平安時代と考えられる。

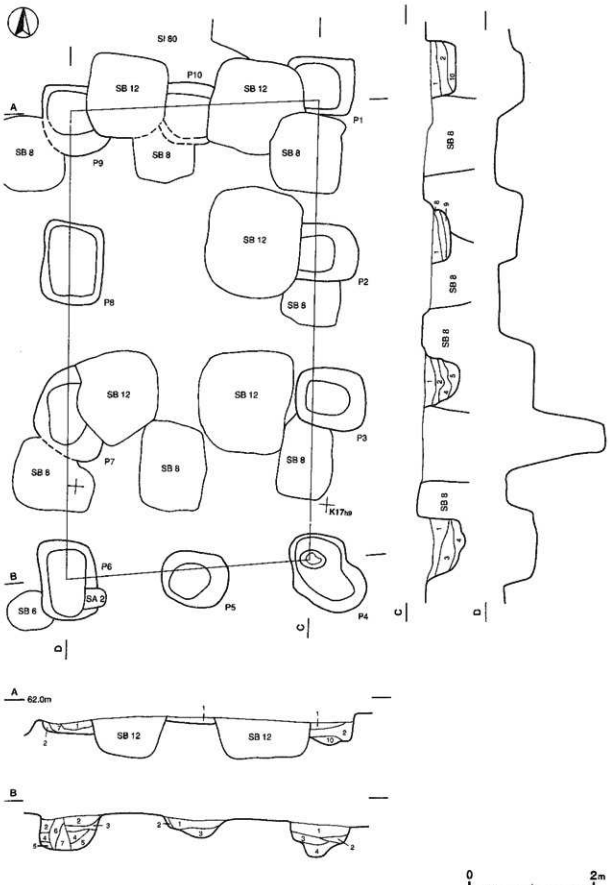


第331図　第13号掘立柱建物跡実測図

第14号掘立柱建物跡（第332図）

位置　調査区中央部のK17区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第8号掘立柱建物跡を掘り込み，第80号住居，第12号掘立柱建物に掘り込まれている。第6号掘立柱建物跡，第2号柵跡と重複している。



第332図　第14号掘立柱建物跡実測図

規模と構造　桁行３間（平均7.4m），梁間２間（平均3.9m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－７°－Ｗの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.5m，梁間約1.9mで，面積は29.31㎡である。

柱穴　10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形は長径0.9～1.3m，短径0.9～1.0mの楕円形または隅丸長方形である。断面形は逆台形またはＵ字形を呈し，深さは10～50cmである。柱痕と考えられる土層は確認されず，粘性・しまりの強い層も見られないことから，柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ４の底面は一段掘り下げられており，柱が置かれた痕跡と考えられる。柱材の径は18cm前後と推定される。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム ブロック少量	6	暗	褐	色	ローム粒子中量
2	褐		色	ローム粒子多量	7	褐	灰	色	ローム粒子・粘土粒子少量
3	褐		色	ローム粒子少量	8	黒	褐	色	ローム粒子・粘土粒子少量
4	褐		色	ローム ブロック中量	9	褐		色	ローム粒子少量，粘土粒子微量
5	褐		色	ローム ブロック少量	10	褐		色	ローム ブロック多量，鹿沼パミス微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　時期は，重複関係から第８号掘立柱建物跡に後出する８世紀代と考えられる。

第15号掘立柱建物跡（第333・334図）

位置　調査区東部のＬ18c5区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

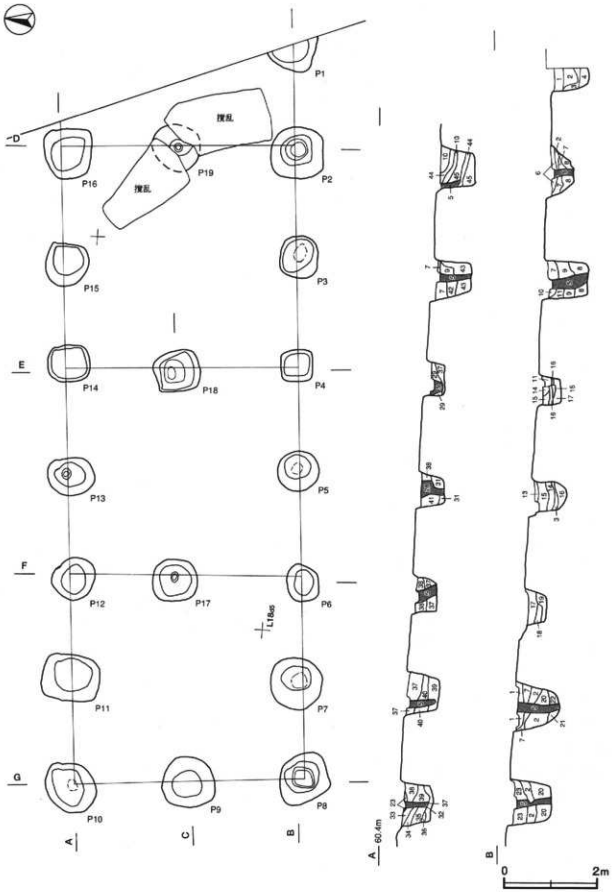
重複関係　第430号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　東側は調査区域外に延び，全容は明らかではない。調査した範囲で，桁行７間（平均15.2m），梁間２間（平均4.8m）の側柱式の建物跡で，２間ごとに束柱穴を持つ構造である。桁行方向はＮ－87°－Ｗの東西棟である。柱間寸法は桁行約2.2m，梁間約2.4mで，面積は71.44㎡である。

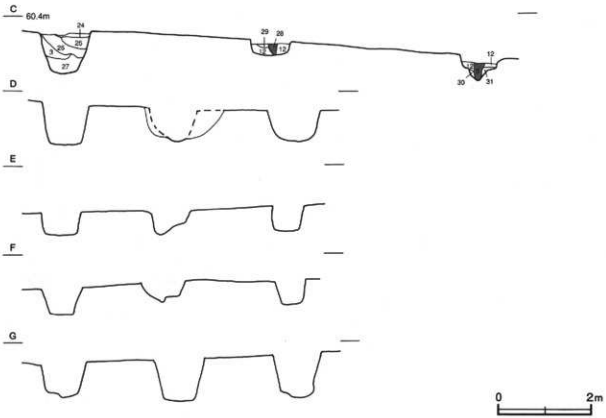
柱穴　19か所（Ｐ１～Ｐ19）で，平面形は長径0.68～0.8m，短径0.5～0.8mの隅丸方形または隅丸長方形である。断面形は逆台形を呈し，深さは42～92cmである。Ｐ４とＰ14から西の側柱の底面はほぼ標高59.6mのラインまで，Ｐ３とＰ15から東の側柱の底面はほぼ標高59mのラインまで掘り込まれている。Ｐ17～Ｐ19は深さ28～50cmと浅く，束柱穴と考えられる。柱痕は第５・28・32層が相当し，粘性・しまりの弱い上層である。柱材の径は13～35cmと推定される。その他の層はほぼ褐色土と暗褐色土・黒色土が交互に堆積し，粘性・しまりの強い層も見られる。Ｐ３・Ｐ５・Ｐ７・Ｐ10の底面が硬化しており，Ｐ２・Ｐ８・Ｐ13・Ｐ17～Ｐ19の底面は１段掘り下げられていることから，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1	灰	褐	色	ローム ブロック少量，鹿沼パミス微量	19	黒	褐	色	ローム ブロック・鹿沼パミス微量
2	褐		色	ローム粒子中量，鹿沼パミス微量	20	黒	褐	色	ローム ブロック・鹿沼パミス微量，粘性強
3	黒	褐	色	ローム粒子微量	21	黒	褐	色	鹿沼ブロック微量
4	暗	褐	色	ローム粒子・鹿沼パミス微量	22	暗	褐	色	鹿沼パミス微量
5	黒	褐	色	ローム ブロック・炭化粒子微量	23	暗	褐	色	ローム ブロック・焼土粒子・鹿沼ブロック微量
6	暗	褐	色	ローム ブロック・鹿沼パミス微量	24	極	暗	褐	色	ローム粒子・焼土粒子・鹿沼パミス微量
7	暗	褐	色	鹿沼ブロック少量，ローム ブロック微量	25	暗	褐	色	ローム ブロック・鹿沼ブロック微量，粘性強
8	褐		色	ローム ブロック少量，鹿沼ブロック微量	26	暗	褐	色	ローム ブロック・鹿沼ブロック少量
9	暗	褐	色	ローム ブロック・炭化物・鹿沼ブロック微量	27	褐		色	鹿沼ブロック多量，ローム粒子微量
10	黒	褐	色	ローム ブロック・炭化粒子・鹿沼パミス微量	28	黒	褐	色	ローム ブロック・焼土粒子・粘土粒子微量
11	暗	褐	色	ローム ブロック少量	29	暗	褐	色	ローム ブロック・炭化粒子微量
12	褐		色	ローム ブロック中量，炭化物微量	30	褐		色	鹿沼ブロック中量，ローム ブロック少量
13	黒	褐	色	ローム粒子・炭化物微量	31	暗	褐	色	ローム ブロック・鹿沼パミス微量
14	褐		色	ローム ブロック中量，鹿沼パミス微量	32	灰	褐	色	ローム粒子少量，鹿沼パミス微量
15	黒	褐	色	ローム粒子・炭化物微量	33	にぶい黄褐色			ローム ブロック中量，鹿沼ブロック微量
16	灰	褐	色	ローム ブロック微量	34	暗	褐	色	ローム ブロック少量，鹿沼ブロック微量
17	褐		色	ローム ブロック多量，鹿沼パミス微量	35	黒	褐	色	ローム ブロック・鹿沼ブロック微量
18	暗	褐	色	ローム ブロック少量，鹿沼パミス微量	36	褐		色	ローム粒子少量，鹿沼パミス微量



第333図　第15号掘立柱建物跡実測図(1)



第334図　第15号掘立柱建物跡実測図(2)

37	黒　褐　色	ロームブロック・鹿沼ブロック微量，粘性弱	42	にぶい黄褐色	鹿沼パミス少量，ローム粒子微量
38	褐　　色	ロームブロック少量，鹿沼ブロック微量	43	黒　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
39	褐　　色	ロームブロック少量，鹿沼ブロック微量，粘性強	44	褐　　色	ロームブロック・鹿沼ブロック少量
40	黄　褐　色	鹿沼ブロック中量，ローム粒子微量	45	黒　褐　色	炭化物・鹿沼ブロック微量
41	黒　褐　色	焼土粒子・鹿沼パミス微量			

遺物出土状況　土師器片166点（坏類27，甕類131，高坏8），須恵器片１点（坏類），鉄滓１点が出土している。いずれも小片で図化できなかった。

所見　桁行方向が等高線と直交しており，柱穴の掘り方の深さを東と西とで変えることで傾斜地に対応している。本跡は２間を１単位とする構造で，桁行を８間に復元することができ，長屋的な建物と考えられる。時期は，桁行方向が第５号掘立柱建物跡と一致することから，８世紀代と考えられる。

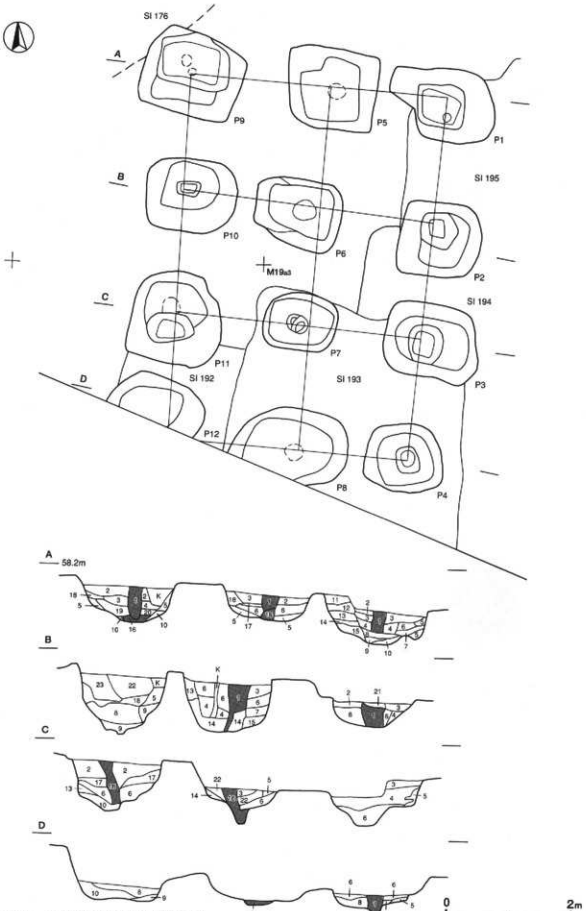
第16号掘立柱建物跡（第335・336図）

位置　調査区東部のＬ19j3区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第176・192・193・194・195号住居跡を掘り込んでいる。

規模と構造　南西部が調査区域外に延び，全容は明らかではない。桁行３間（平均5.8m），梁間２間（平均4.1m）の総柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－６°－Ｅの南北棟である。柱間寸法は桁行約1.9m，梁間約2.1mで，面積は23.55㎡である。

柱穴　12か所（Ｐ１～Ｐ12）で，平面形は長径1.21～1.8m，短径0.94～1.45mの隅丸方形または楕円形である。断面形はＵ字形を呈し，深さは41～100cmである。柱痕は第１・16層が相当し，粘性・しまりの弱い土層である。柱材の径は11～28cmと推定される。第２・３・６・22・23層も比較的粘性・しまりが弱く，柱の抜き取りに伴う土層と考えられる。その他の層はほぼ褐色土と暗褐色土が交互に堆積し，粘性・しまりの強い土層であ



第335図　第16号掘立柱建物跡実測図

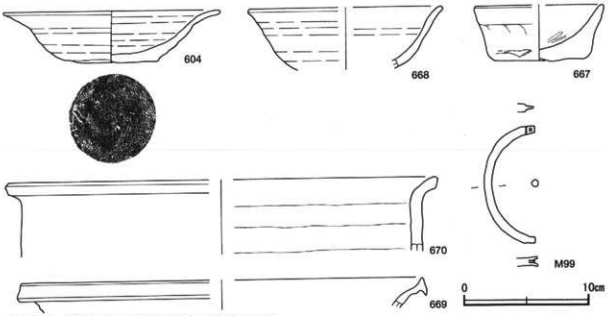
る。P１・P５・P８・P９・P11の底面が硬化しており，P２～P４・P７・P11の底面は１段掘り下げられていることから，柱が置かれた痕跡と考えられる。また，P１・P６の土層からは掘り直された状況が観察され，P９の底面には２か所，P11には１か所の硬化面があり，さらに一段掘り下げられていることなどから，建て直しが行われた可能性がある。

土層解説

1 暗褐色 ローム粒子少量
2 暗褐色 ローム粒子少量，粘土ブロック微量
3 暗褐色 ローム粒子少量
4 黒褐色 ロームブロック微量
5 褐色 ローム粒子中量，粘性強
6 褐色 ローム粒子中量
7 暗褐色 ローム粒子中量
8 褐色 ロームブロック少量
9 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
10 褐色 ロームブロック少量，粘性強
11 褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
12 褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
13 褐色 ロームブロック・鹿沼ブロック少量
14 にぶい黄褐色 ローム粒子中量，炭化粒子微量
15 褐色 ロームブロック中量
16 黒褐色 ローム粒子少量，炭化粒子微量
17 褐色 ローム粒子中量，粘性・しまり強
18 褐灰色 ローム粒子少量
19 暗褐色 ローム粒子少量，炭化粒子・粘土粒子微量
20 暗褐色 ロームブロック少量，粘性強
21 褐色 ローム粒子多量
22 暗褐色 鹿沼パミス少量，ロームブロック微量
23 暗褐色 ロームブロック・鹿沼ブロック少量

遺物出土状況 土師器片181点（坏類63，甕類108，高坏10），須恵器片28点（坏類17，甕類11），灰釉陶器片１点（瓶），銅製品１点（不明），鉄滓47点が出土している。604はP８の埋土中から出土している。667はP７から，668・670はP11から，669はP10から，M99はP９からそれぞれ抜き取りに伴う土層中から出土している。その他は小片で，図化できなかった。

所見 桁行方向が若干東を向き，他の総柱の建物跡とは建物配置が異なっている。第17・19号掘立柱建物跡と桁行方向がほぼ一致していることから，これらと同一の建物配置と想定される。時期は，出土土器から10世紀末～11世紀と考えられる。



第336図 第16号掘立柱建物跡出土遺物実測図

第16号掘立柱建物跡出土遺物観察表（第336図）

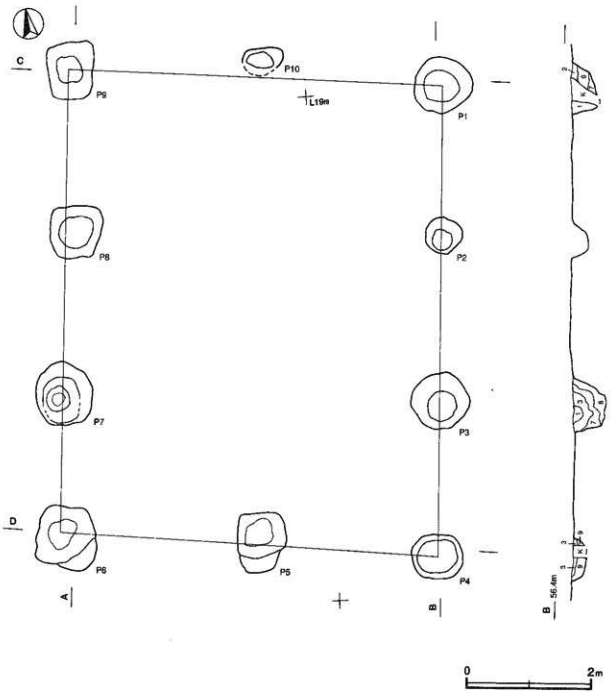
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
604	土師器	坏	17.2	4.2	7.6	石英・長石・雲母	にぶい褐	良	内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	P８	80%	PL94
667	土師器	坏	[10.2]	4.0	7.2	石英・長石	にぶい褐	普通	内外面ナデ	P７	20%	
668	土師器	椀	[15.4]	(4.9)	－	赤色粒子・雲母	にぶい褐	普通	内外面ナデ	P11	10%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
669	灰釉陶器	瓶ヵ	[32.0]	(2.4)	－	黒色粒子	黄灰	良	ロクロナデ	P 10	10%
670	須恵器	壺	[34.4]	(6.0)	－	長石・黒色粒子	黒褐	普通	外面横位の平行叩き	P 11	10%

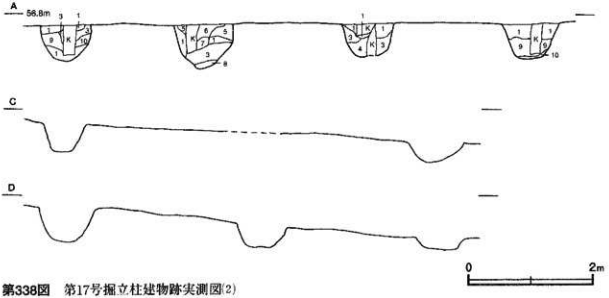
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M99	不明	9.4	4.0	0.6	26.6	銅	銹及び錆留めあり	P 9	Pl.106

第17号掘立柱建物跡（第337・338図）

位置　調査区東部のL19i8区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。



第337図　第17号掘立柱建物跡実測図(1)



第338図　第17号掘立柱建物跡実測図(2)

重複関係　第204号住居跡，第418・485号土坑を掘り込んでいる。

規模と構造　耕作による撹乱を受けている。桁行３間（平均7.5m），梁間２間（平均5.9m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－８°－Ｅの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.4m，梁間約2.9mで，面積は43.86㎡である。

柱穴　10か所（Ｐ１～Ｐ10）で，平面形は長径0.84～1.02m，短径0.82～0.94mの楕円形または隅丸長方形である。断面形は逆台形またはＵ字形を呈し，深さは36～68cmである。耕作による撹乱を受けているため，柱痕の土層は明確ではない。褐色土と黒色土がほぼ交互に堆積し，突き固められた形跡がある。

土層解説

1	黒褐色	ローム粒子・炭化粒子微量		6	黒褐色	ロームブロック微量，粘性・しまり強	
2	黒褐色	ローム粒子微量		7	褐色	ロームブロック中量	
3	黒褐色	ロームブロック微量		8	暗褐色	ロームブロック微量	
4	灰褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量		9	灰褐色	ローム粒子・焼土パミス微量	
5	褐灰色	粘土ブロック少量，ロームブロック微量		10	黒褐色	ロームブロック微量，粘性強	

遺物出土状況　土師器片９点（坏類３，甕類６），須恵器片４点（坏類３，甕類１）が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　第19号掘立柱建物跡と南北に並んでいることから，同時期に建てられたものと考えられる。時期は，桁行方向が第16号掘立柱建物跡とほぼ同一であることから，10世紀末～11世紀と考えられる。

第18号掘立柱建物跡（第339図）

位置　調査区中央部のＫ18f2区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第107・109・160号住居跡を掘り込み，第106・110号住居，第77号土坑に掘り込まれている。

規模と構造　南側は調査区域外に延び，全容は不明である。調査した範囲で，桁行２間（平均4.8m），梁間２間（平均3.3m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－12°－Ｅの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.3m，梁間約2.3mで，面積は32.71㎡である。

柱穴　６か所（Ｐ１～Ｐ６）で，平面形は長径0.74～1.1m，短径0.5～１.0mの長方形または隅丸長方形である。断面形は逆台形またはＵ字形を呈し，深さ34～90cmである。柱痕は第１層が相当し，しまりの弱い土層である。柱材の径は約24～28cmと推定される。その他の土層は粘性の強い層が多く，突き固められた形跡がある。Ｐ１

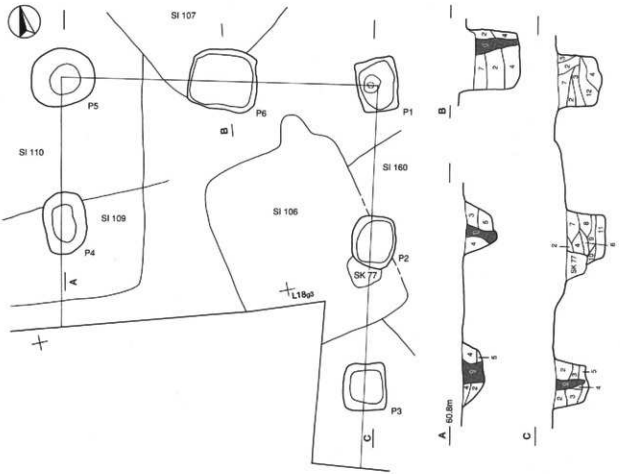
は第１層の堆積状況に乱れが見られるため，柱が抜き取られた可能性がある。Ｐ１の底面は一段掘り下げられていることから，柱が置かれた痕跡と考えられる。

土層解説

1	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量	7	褐	色	ロームブロック中量
2	暗	褐	色	ローム粒子少量，炭化粒子微量	8	褐	色	ロームブロック微量
3	黒	褐	色	ロームブロック微量	9	暗	褐	色	ローム粒子少量
4	褐		色	ロームブロック中量	10	褐	色	ローム粒子多量
5	暗	褐	色	ロームブロック微量	11	明	褐	色	ロームブロック微量
6	にぶい黄褐色			ローム粒子中量	12	暗	褐	色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片13点（坏類８，甕類４，高坏１）が出土している。小片のため図化できなかった。

所見　時期は，重複関係から８世紀～９世紀と考えられる。



第339図　第18号掘立柱建物跡実測図

第19号掘立柱建物跡（第340図）

位置　調査区東部のM19a8区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

規模と構造　東側は削平され，また耕作による攪乱を受け全容は不明である。現存する部分は桁行３間（平均7.2m），梁間１間（平均3.0m）の側柱式の建物跡と推定され，桁行方向はＮ－８°－Ｅの南北棟である。柱間寸法は桁行約2.3m，梁間約3.0mで，現存する面積は21.33㎡である。

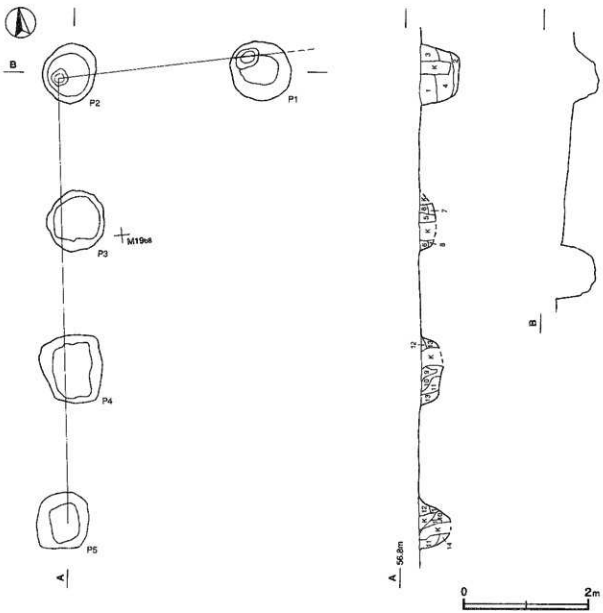
柱穴　5か所（P１～P５）で，平面形は長径0.94～1.07m，短径0.82～0.98mの楕円形または隅丸長方形である。断面形は逆台形またはU字形を呈し，深さは26～64cmである。耕作による攪乱を受けているため，柱痕の土層は明確ではない。粘性・しまりの弱い土層が多く，柱が抜き取られた可能性がある。

土層解説

1	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子微量	
2	褐色	ロームブロック中量	
3	暗褐色	ロームブロック微量	
4	黒褐色	ロームブロック微量	
5	黒褐色	ローム粒子少量	
6	黒褐色	ロームブロック微量，粘性強	
7	灰褐色	ロームブロック少量	
8	褐色	ローム粒子中量	
9	黒褐色	ロームブロック・炭化粒子・粘土粒子微量	
10	暗褐色	ロームブロック少量，粘性弱	
11	黒褐色	ローム粒子微量	
12	黒褐色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量	
13	暗褐色	ロームブロック少量	
14	黒褐色	ローム粒子微量，粘性・しまり強	

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　時期は，第17号掘立柱建物跡と南北に並び桁行方向が一致していることから，10世紀末～11世紀と考えられる。



第340図　第19号掘立柱建物跡実測図

(3) 溝跡

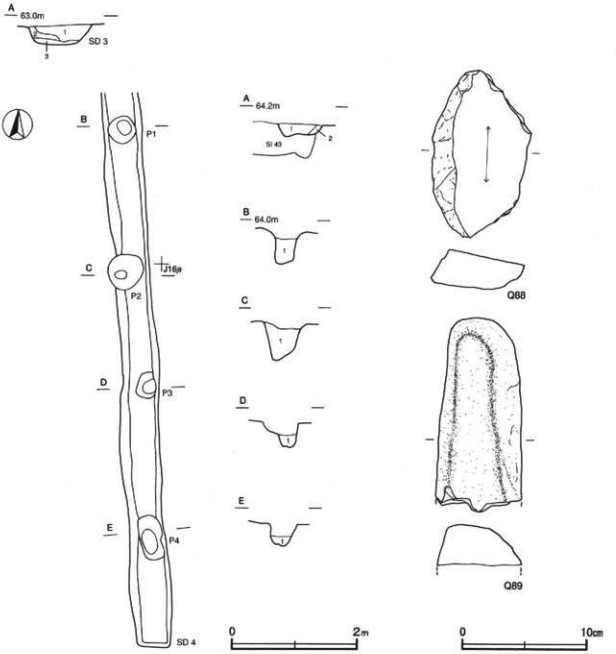
第3号溝跡（第341図）

位置　調査区中央部のK16c0～K17c7区に位置し，尾根上の平坦面から東に傾斜する斜面にかけて立地している。

重複関係　第63・70～72号住居跡，第4・5・9・10号掘立柱建物跡，第284号土坑を掘り込んでいる。

規模及び形状　東側は削平されており，全容は不明である。N－86°－Wの方向に延び，途中K15d4区付近でN－81°－Eの方向に屈曲し，K17d1区より西では二つに分岐している。長さは34.4mで，上幅55～120cm，下幅35～97cm，深さ24～32cmである。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。



第341図　第3・4号溝跡・出土遺物実測図

土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子少量，炭化粒子微量　　3 褐　色　ローム粒子中量
2 黒 褐 色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片16点（坏類4，甕類12），須恵器片2点（甕類）が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　時期は，重複関係から平安時代以降と推定される。

第4号溝跡（第341図）

位置　調査区西部のJ16e7～K16a9区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第43A号住居跡を掘り込んでいる。

規模及び形状　北側は調査区域外に延び，全容は不明である。N－5°－Wの方向に延び，途中J16h8区付近でN－11°－Wの方向に屈曲している。確認できた長さは27.9mで，上幅46～71cm，下幅16～58cm，深さ8～20cmである。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

ピット　4か所（P1～P4）。溝の南側に構築され，長径44～76cm，短径30～60cmの円形または楕円形で，深さは35～60cmである。1～1.3mの間隔で，溝の走行方向にほぼ平行して並んでいる。

ピット土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子・炭化粒子少量

覆土　2層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1 暗 褐 色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量　　2 暗 褐 色　ローム粒子中量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片83点（坏類15，甕類68），須恵器片10（坏類5，甕類5），石器3点（砥石2，磨石1）が出土している。Q88は北側の覆土上層から，Q89は南側の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　確認されたピットから，内部には柵のような施設が構築されていた可能性が想定される。時期は，重複関係と出土した土器片から平安時代以降と推定される。

第4号溝跡出土遺物観察表（第341図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q88	砥石	(13.3)	(7.9)	(3.2)	(364.0)	頁岩ヵ	砥面1面	覆土上層	
Q89	磨石ヵ	(15.4)	6.9	(3.3)	(522.0)	砂岩	側面に使用痕	覆土上層	

(4)柵跡

第1号柵跡（第342図）

位置　調査区中央部のK17b9区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第78・82号住居に掘り込まれている。

規模と形状　P1～P3が確認され，柱穴と考えられる。長さ4.4m，柱間は2～2.3mで，方向はN－87°－Wである。柱穴の規模は，長径1.16～1.62m，短径0.9～1.18mの長方形または隅丸方形である。断面形はU字形または逆台形で，深さは68～72cmである。

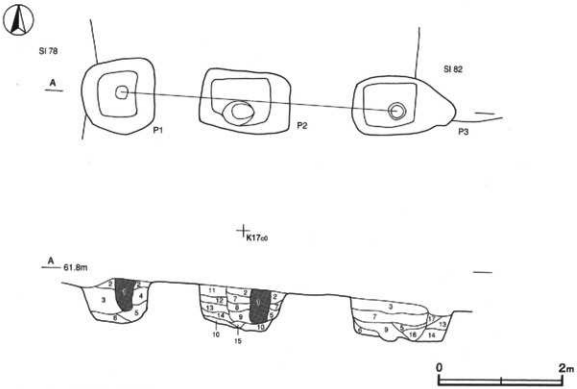
覆土　17層からなる。第1層は柱抜の土層で，その他の土層は突き固められた形跡がある。P3は柱痕の土層が確認されていないことから，抜き取られた可能性が考えられる。

土層解説

1	暗 褐	色	ローム粒子中量，炭化物微量
2	暗 褐	色	ローム粒子中量
3	褐	色	ローム粒子多量，炭化粒子微量
4	褐	色	ローム粒子多量，炭化粒子・鹿沼ブロック微量
5	褐	色	ローム粒子・炭化粒子少量
6	褐	色	ローム粒子少量，鹿沼ブロック微量
7	にぶい黄褐色		ローム粒子中量，炭化粒子微量
8	褐	色	ローム粒子中量
9	黒 褐	色	ローム粒子少量
10	褐	色	ローム粒子中量，鹿沼パミス少量
11	褐	色	ローム粒子中量，粘土ブロック微量
12	褐	色	ローム粒子・炭化物微量，粘性強
13	褐	色	ローム粒子少量
14	黒 褐	色	ローム粒子微量
15	暗 褐	色	ローム粒子少量
16	暗 褐	色	ローム粒子少量，粘性・しまり強
17	にぶい黄褐色		ローム粒子少量，鹿沼ブロック微量

遺物出土状況　土師器片９点（坏類６，甕類３），須恵器片４点（坏類３，甕類１）が出土している。

所見　第９号掘立柱建物跡の桁行方向とほぼ一致していることから，これに関連する施設の可能性がある。時期は，平安時代と推定される。



第342図　第１号柵跡実測図

第２号柵跡（第343図）

位置　調査区中央部のＫ17g9区付近に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第8・14号掘立柱建物跡と重複している。

規模と形状　Ｐ１～Ｐ７が確認され，柱穴と考えられる。長さ12.7m，柱間は1.7～2.9mで，方向はＮ－２°－Ｗを指し，Ｋ17h8区付近でＮ－83°－Ｅ，Ｋ17h9区付近でＮ－４°－Ｅと２か所で屈曲している。柱穴の規模は，長径0.32～0.52m，短径0.32～0.5mの円形または楕円形である。断面形はＵ字形または逆台形で，深さ14～32cmである。

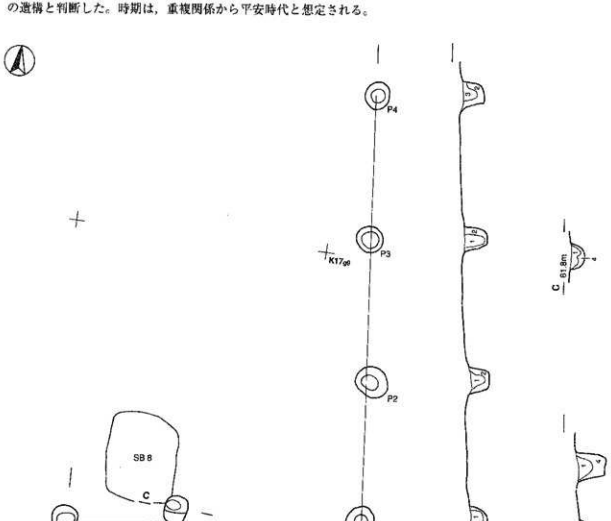
覆土　４層からなる。ロームを含んでいる層が多く，柱抜き取り痕と考えられる。

土層解説

1	暗 褐	色	ローム粒子微量，しまり弱
2	褐	色	ローム粒子微量
3	褐	色	ローム粒子微量，しまり弱
4	褐	色	ローム粒子少量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　当初，第８号掘立柱建物跡または第12号掘立柱建物跡の足場穴と考えたが，方向が一致しないため，別の遺構と判断した。時期は，重複関係から平安時代と想定される。



第343図　第２号柵跡実測図

第３号柵跡（第344図）

位置　調査区中央部のＫ17g6区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第８・12号掘立柱建物跡と重複している。

規模と形状　Ｐ１～Ｐ６が確認され，柱穴と考えられる。長さ8.5m，柱間は0.32～2.5mで，方向はＮ－６°－Ｗを指し，Ｋ17h5区付近でＮ－89°－Ｅへ屈曲している。柱穴の規模は，長径0.38～0.54m，短径0.28～0.54の楕円形または隅丸長方形である。断面形はＵ字形または逆台形で，深さは18～54cmである。

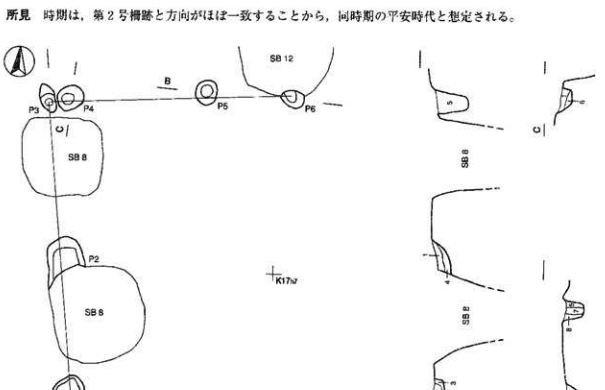
覆土　８層からなる。ロームを含んでいる層が多く，抜き取り痕と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック微量	
2	褐 色	ローム粒子微量，粘性強	
3	褐 色	ローム粒子微量，しまり弱	
4	褐 色	ロームブロック少量	
5	褐 色	ロームブロック中量	
6	褐 色	ローム粒子少量，腐植パミス微量	
7	黒 褐 色	ローム粒子微量	
8	褐 色	ローム粒子少量	

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　時期は，第2号柵跡と方向がほぼ一致することから，同時期の平安時代と想定される。



第344図　第3号柵跡実測図

(5)土坑

第61号土坑（第345図）

位置　調査区中央部のK18f1区に位置し，東へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第135号住居跡に掘り込まれている。

規模と形状　長径0.56m，短径0.53mの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－30°－Eである。

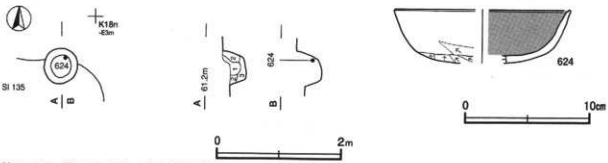
覆土　3層からなる。ロームブロック・粒子を含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗 褐 色	ロームブロック少量	
2	褐 色	ロームブロック少量	
3	にぶい褐色	ローム粒子多量	

遺物出土状況　土師器片8点（坏類1，甕類7）が出土している。624は第1層中から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から８世紀前葉と考えられる。



第345図　第61号土坑・出土遺物実測図

第61号土坑出土遺物観察表（第345図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	成形	手法の特徴	出土位置	備考
624	土師器	坏	(14.0)	(4.0)	－	赤色粒子・雲母	明赤褐	良	底部手持ちヘラ削り	覆土上層	65%

第72号土坑（第346図）

位置　調査区中央部Ｋ17ⅱ区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第66号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長軸1.5m，短軸１mの長方形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はＮ－86°－Ｅである。

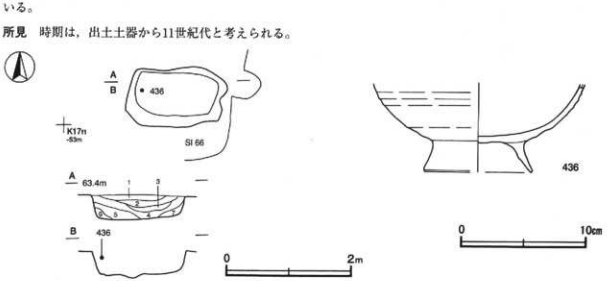
覆土　７層からなる。ロームブロック・ローム粒子を含んでいる土層が多いことから，人為堆積の可能性がある。

土層解説

1　暗褐色　ロームブロック少量
2　黒褐色　ロームブロック中量，炭化粒子微量
3　暗褐色　ローム粒子中量，炭化粒子微量
4　黒褐色　ロームブロック少量
5　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
6　暗褐色　ローム粒子中量
7　にぶい黄褐色　ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片５点（坏類３，甕類２）が出土している。436は覆土上層から逆位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から11世紀代と考えられる。



第346図　第72号土坑・出土遺物実測図

第72号土坑出土遺物観察表（第346図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
436	土師器	高台付椀	－	(7.1)	[8.5]	赤色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	内外面ロクロナデ	覆土上層	20%

第73号土坑（第347図）

位置　調査区中央部のJ17j4区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第61号住居跡，第7号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

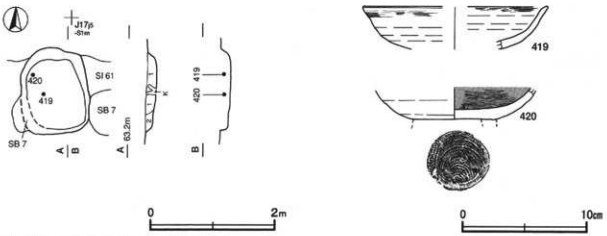
規模と形状　長軸1.38m，短軸1.06mの隅丸長方形で，深さは23cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－5°－Wである。

覆土　2層からなる。ロームブロック・焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量　　2　黒褐色　ロームブロック・焼土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片2点（坏類）が出土している。419・420は覆土上層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉から10世紀前半と考えられる。



第347図　第73号土坑・出土遺物実測図

第73号土坑出土遺物観察表（第347図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
419	土師器	椀	[14.8]	(3.4)	－	長石・雲母	にぶい橙	普通	内外面ロクロナデ	覆土上層	20%
420	土師器	高台付椀	－	(2.5)	[6.6]	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	覆土上層	65%

第95号土坑（第348図）

位置　調査区西部のK16f1区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

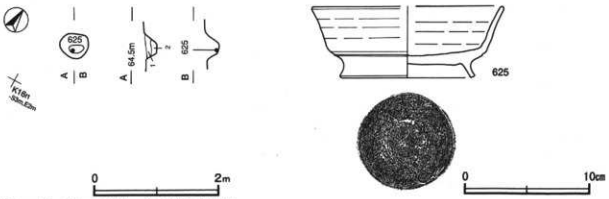
規模と形状　長径0.45m，短径0.4mの楕円形で，深さは32cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－2°－Wである。

覆土　2層からなる。ロームを主体とする土層であることから，人為堆積と想定される。

土層解説
1　明褐色　ローム粒子中量　　2　暗褐色　ロームブロック微量

遺物出土状況　須恵器片1点（坏類）が出土している。625は底面付近から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀前葉と考えられる。



第348図　第95号土坑・出土遺物実測図

第95号土坑出土遺物観察表（第348図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
625	須恵器	高台付坏	[15.0]	5.7	10.2	石英・長石	灰	普通	底部回転ヘラ削り	底面	65%

第96号土坑（第348図）

位置　調査区西部のＫ16g2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第97号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　長径２ｍ，短径1.4ｍの楕円形で，深さは100cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はＮ－30°－Ｅである。

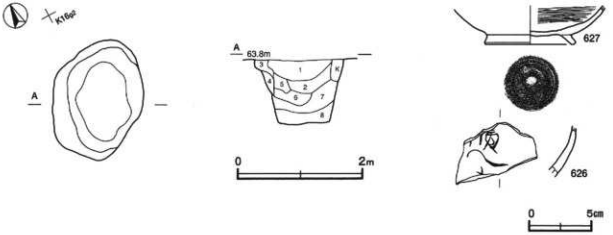
覆土　８層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・焼土粒子・炭化物少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック少量
3　にぶい黄褐色　ロームブロック中量，しまり弱
4　暗　褐　色　ロームブロック少量
5　にぶい黄褐色　ロームブロック中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，しまり弱
7　暗　褐　色　ロームブロック中量
8　黒　褐　色　ロームブロック中量

遺物出土状況　土師器片45点（坏類24，甕類20，高坏１），須恵器片５点（坏類４・甕類１），瓦片１点の他，埋没する過程で混入した弥生土器片２点が出土している。626・627は，覆土上層からそれぞれ出土している。

所見　時期は，出土土器から11世紀前葉と考えられる。



第349図　第96号土坑・出土遺物実測図

第96号土坑出土遺物観察表（第349図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
626	土師器	坏	－	(4.8)	－	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土上層	10% 墨書「□」 PL94
627	土師器	高台付椀	－	(3.1)	7.3	雲母	にぶい赤褐	普通	内面ヘラ磨き	覆土上層	25% 火熱痕

第97号土坑（第350図）

位置　調査区西部のK16g2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第96号土坑に掘り込まれている。

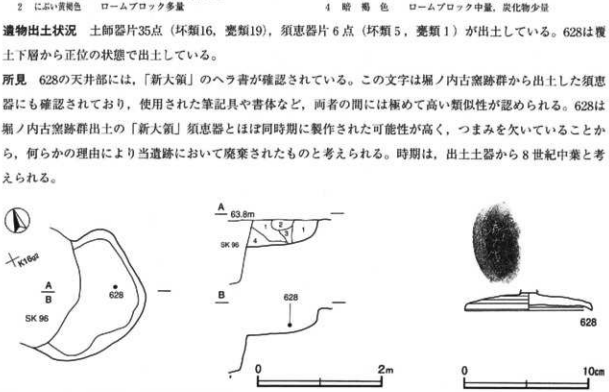
規模と形状　第96号土坑に掘り込まれ，全容は不明である。現存する規模は長軸1.95m，短軸1.8mで隅丸長方形と推定され，深さは41cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－0°と推定される。

覆土　4層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　ローム粒子中量，炭化物少量
2　にぶい黄褐色　ロームブロック多量
3　暗褐色　ローム粒子少量，炭化物微量
4　暗褐色　ロームブロック中量，炭化物少量

遺物出土状況　土師器片35点（坏類16，甕類19），須恵器片6点（坏類5，甕類1）が出土している。628は覆土下層から正位の状態で出土している。

所見　628の天井部には，「新大領」のヘラ書が確認されている。この文字は堀ノ内古窯跡群から出土した須恵器にも確認されており，使用された筆記具や書体など，両者の間には極めて高い類似性が認められる。628は堀ノ内古窯跡群出土の「新大領」須恵器とほぼ同時期に製作された可能性が高く，つまみを欠いていることから，何らかの理由により当遺跡において廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第350図　第97号土坑・出土遺物実測図

第97号土坑出土遺物観察表（第350図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
628	須恵器	坏蓋	10.1	(1.4)	－	砂礫	灰白	良	天井部回転ヘラ削り	覆土下層	10% ヘラ書き「新大領」 PL92

第99号土坑（第351図）

位置　調査区西部K16g2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状　長軸1.54m，短軸1.49mの方形で，深さは95cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっ

ている。長軸方向はN－36°－Wである。

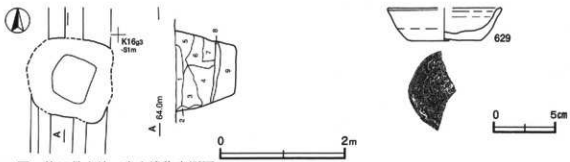
覆土　9層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　褐暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　ローム粒子少量
3　暗　褐　色　ローム粒子少量
4　褐　　色　ロームブロック中量，鹿沼ブロック微量
5　褐　　色　ローム粒子中量
6　暗　褐　色　ロームブロック少量，鹿沼ブロック微量
7　暗　褐　色　ロームブロック少量
8　黒　褐　色　ロームブロック微量
9　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片13点（坏類7，甕類6），須恵器片3点（甕類），瓦片1点の他，埋没する過程で混入した縄文土器片3点が出土している。629は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀末～11世紀前半と考えられる。



第351図　第99号土坑・出土遺物実測図

第99号土坑出土遺物観察表（第351図）

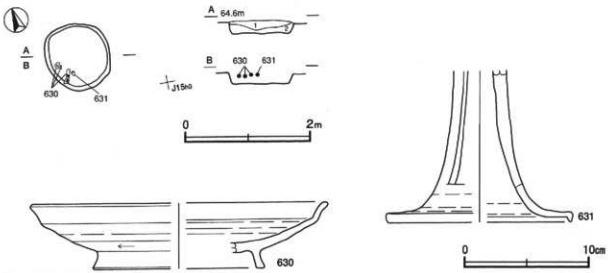
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
629	土師器	皿	[9.0]	2.6	[5.8]	長石・白色粒子	橙	普通	内外面ロクロナデ，底部回転ヘラ切り	覆土中	35%

第105号土坑（第352図）

位置　調査区西部のJ15g9区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状　長径1.17m，短径1.03mの楕円形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は直立している。長径方向はN－48°－Wである。

覆土　2層からなる。焼土・炭化物を含んでいることから，人為堆積と推定される。



第352図　第105号土坑・出土遺物実測図

土層解説
1 黒 褐 色　ロームブロック・焼土ブロック・炭化物微量　　2 褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片1点（甕類），須恵器片11点（坏類9，高坏2）が出土している。630・631は覆土中層から破片の状態で出土している。

所見　630・631は出土状況から，投棄された可能性がある。時期は，出土土器から9世紀前葉と推定される。

第105号土坑出土遺物観察表（第352図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
630	須恵器	盤	[23.2]	5.2	[13.4]	石英・長石・雲母	黄灰	普通	底部回転ヘラ削り	覆土中層	40%
631	須恵器	高盤	－	(12.1)	[14.6]	石英・長石	灰	普通	三方透かし	覆土中層	25%

第126号土坑（第353図）

位置　調査区西部のK16g0区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第137号住居跡を掘り込んでいる。

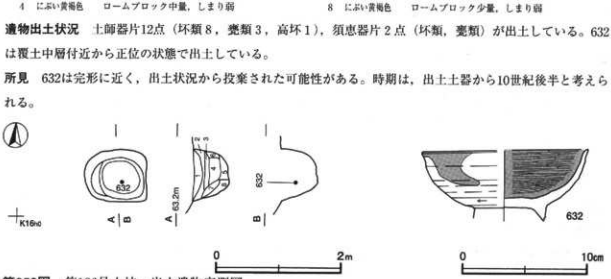
規模と形状　長径0.98m，短径0.83mの不整楕円形で，深さは56cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－90°－Eである。

覆土　8層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1 黒 褐 色　ロームブロック中量
2 にぶい黄褐色　ロームブロック少量，焼土粒子微量
3 褐 灰 色　ロームブロック・粘土粒子少量，焼土粒子微量
4 にぶい黄褐色　ロームブロック中量，しまり弱
5 暗 褐 色　ロームブロック少量
6 灰黄褐色　ローム粒子中量
7 にぶい黄褐色　ロームブロック中量
8 にぶい黄褐色　ロームブロック少量，しまり弱

遺物出土状況　土師器片12点（坏類8，甕類3，高坏1），須恵器片2点（坏類，甕類）が出土している。632は覆土中層付近から正位の状態で出土している。

所見　632は完形に近く，出土状況から投棄された可能性がある。時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第353図　第126号土坑・出土遺物実測図

第126号土坑出土遺物観察表（第353図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
632	土師器	高台付椀	[13.3]	(5.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内面ヘラ磨き	覆土中層	60%　PL96

第132号土坑（第354図）

位置　調査区西部のK16i0区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第136号住居に掘り込まれ，第118号土坑と重複している。

規模と形状　一辺0.98mほどの隅丸方形で，深さは38cmである。底面は平坦で，壁面は直立している。長軸方向はN－27°－Wである。

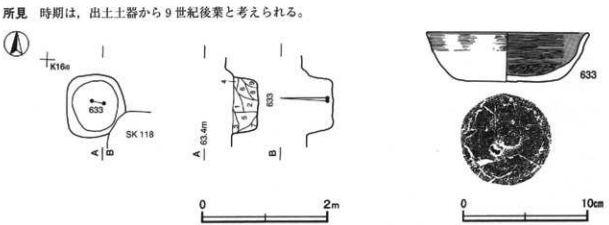
覆土　9層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック微量	6	暗　褐　色	ロームブロック微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子微量	7	暗　褐　色	ロームブロック少量
3	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土粒子微量	8	にぶい黄褐色	ロームブロック中量
4	にぶい黄褐色	ロームブロック中量，粘土粒子微量	9	黒　褐　色	ローム粒子微量
5	黒　褐　色	ロームブロック少量			

遺物出土状況　土師器片24点（坏類15，甕類9）が出土している。633は破片の状態で覆土下層から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉と考えられる。



第354図　第132号土坑・出土遺物実測図

第132号土坑出土遺物観察表（第354図）

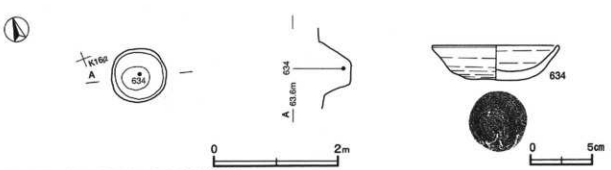
番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考	
633	土師器	坏	12.9	4.0	7.6	石英・長石・雲母	暗灰黄	普通	内面ヘラ磨き	覆土下層	65%	PL94

第142号土坑（第355図）

位置　調査区西部のK16j2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第41号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　径0.85mの円形で，深さは51cmである。底面は平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。



第355図　第142号土坑・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片17点（坏類15，甕類２）が出土している。634は覆土下層から逆位の状態で出土している。

所見　634はほぼ完形に近く，出土状況から廃棄された可能性がある。時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。

第142号土坑出土遺物観察表（第355図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
634	土師器	皿	10.1	2.2	4.5	石英	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土下層	70%　PL99

第146号土坑（第356図）

位置　調査区中央部のK17c1区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第４・５号掘立柱建物跡を掘り込んでいる。

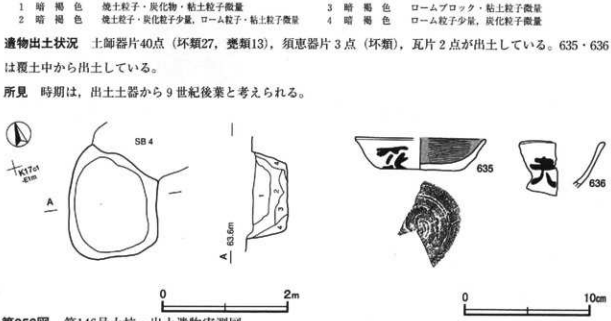
規模と形状　北東部が第４号掘立柱建物跡と重複しており，全容は不明である。現存している規模は長軸1.9m，短軸1.42mの隅丸長方形と推定され，深さは56cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－13°－Eである。

覆土　４層からなる。ロームブロック・焼土・炭化物を含んでいる層が見られることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗褐色　焼土粒子・炭化物・粘土粒子微量
2　暗褐色　焼土粒子・炭化粒子少量，ローム粒子・粘土粒子微量
3　暗褐色　ロームブロック・粘土粒子微量
4　暗褐色　ローム粒子少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片40点（坏類27，甕類13），須恵器片３点（坏類），瓦片２点が出土している。635・636は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から９世紀後葉と考えられる。



第356図　第146号土坑・出土遺物実測図

第146号土坑出土遺物観察表（第356図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
635	土師器	坏	[10.4]	2.5	[6.4]	長石・石英	にぶい黄橙	普通	底部回転ヘラ削り後ナデ	覆土中	20%　墨書「□」
636	土師器	坏	－	(3.6)	－	雲母	にぶい橙	普通	内面磨き	覆土中	10%　墨書「天」か　PL94

第180号土坑（第357図）

位置　調査区西部のK15h0区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第140号住居跡を掘り込み，第16・17・18号住居に掘り込まれている。

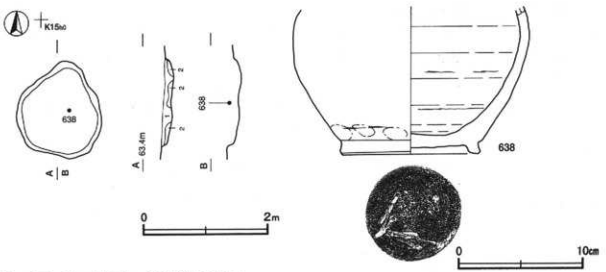
規模と形状　長径1.53m，短径1.36mの不整楕円形で，深さは15cmである。底面は起伏があり，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－8°－Wである。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
2　明　褐　色　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片9点（甕類），須恵器片4点（坏類2，甕類1，壺1）が出土している。638は覆土上層から逆位の状態で出土している。

所見　638は出土状況から，廃棄されたものと考えられる。時期は，出土土器から9世紀代と考えられる。



第357図　第180号土坑・出土遺物実測図

第180号土坑出土遺物観察表（第357図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
638	須恵器	壺	－	(11.7)	10.8	石英・長石	灰	良	内外面ロクロナデ	覆土上層	備考

第183号土坑（第358図）

位置　調査区中央部のK17d2区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第4・5号掘立柱建物跡を掘り込み，第267号土坑に掘り込まれている。

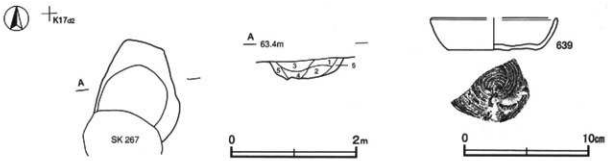
規模と形状　南側を掘り込まれており，全容は不明である。長軸1.2m，短軸1.1mの隅丸方形と推定され，深さは30cmである。底面は起伏があり壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－10°－Eである。

覆土　5層からなる。ロームブロックを含んでいる土層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子中量
2　褐　色　ロームブロック少量
3　褐　色　ロームブロック少量，粘性弱
4　灰　褐　色　ロームブロック少量
5　褐　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片41点（坏類21，甕類20）が出土している。639は覆土上層から出土している。

所見　遺物の量は比較的多いもののほとんどが小片で，土器などを廃棄するための土坑と考えられる。時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第358図　第183号土坑・出土遺物実測図

第183号土坑出土遺物観察表（第358図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
639	土師器	坏	[10.0]	2.6	[7.2]	赤色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	内外面ロクロナデ，底部回転糸切り	覆土上層	40%

第206号土坑（第359図）

位置　調査区中央部のL18e1区に位置し，東へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第111号住居跡を掘り込んでいる。

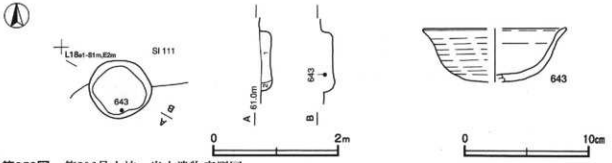
規模と形状　南東側が失われており，全容は不明である。現存する規模は長径0.92m，短径0.83mで楕円形と推定され，深さは20cmである。底面は平坦で壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－65°－Wである。

覆土　2層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒褐色　ロームブロック微量　　2　暗褐色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片19点（坏類2，甕類17），須恵器片1点（甕類）が出土している。643は覆土上層から逆位の状態で出土している。

所見　時期は，出土土器から11世紀代と考えられる。



第359図　第206号土坑・出土遺物実測図

第206号土坑出土遺物観察表（第359図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
643	土師器	坏	[11.6]	(4.2)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	底部糸切り	覆土上層	20%

第227号土坑（第360図）

位置　調査区中央部のL17c5区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第131号住居跡を掘り込んでいる。

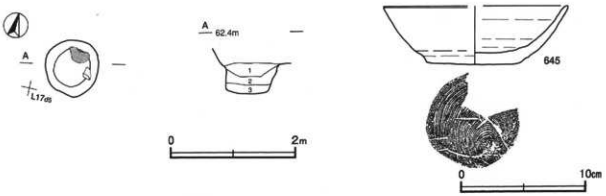
規模と形状　径0.9mほどの円形で，深さは50cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる。ロームを主体とし底面に粘土塊が見られることから，人為堆積と想定される。

土層解説
1　黒　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
2　明　褐　色　　ローム粒子多量
3　褐　　色　　ローム粒子・粘土粒子微量

遺物出土状況　土師器片6点（坏類），石材1点が出土している。645は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀末～11世紀と考えられる。



第360図　第227号土坑・出土遺物実測図

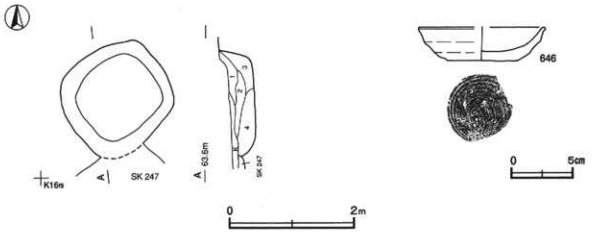
第227号土坑出土遺物観察表（第360図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
645	土師器	ｅ坏	[14.6]	4.6	7.3	赤色粒子・雲母	橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	25%

第246号土坑（第361図）

位置　調査区西部のK16e9区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第93号住居跡を掘り込み，第247号土坑に掘り込まれている。



第361図　第246号土坑・出土遺物実測図

規模と形状　長軸1.72m，短軸1.62mの隅丸方形で，深さは40cmである。底面は平坦で，壁は直立している。長軸方向はN－54°－Eである。

覆土　4層からなる。ロームブロック・炭化物を含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ロームブロック中量，炭化物微量
2　暗　褐　色　ロームブロック多量，炭化物微量
3　暗　褐　色　炭化物少量，ロームブロック微量
4　黒　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子少量

遺物出土状況　土師器片14点（坏類12，甕類2），須恵器片1点（甕類）が出土している。646は覆土中から出土している。

所見　時期は，出土土器から9世紀後葉～10世紀前半と考えられる。

第246号土坑出土遺物観察表（第361図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
646	土師器	坏	[10.0]	2.7	5.6	赤色粒子・雲母	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	覆土中	60%

第249号土坑（第362図）

位置　調査区西部のK16g8区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第93号住居跡を掘り込んでいる。

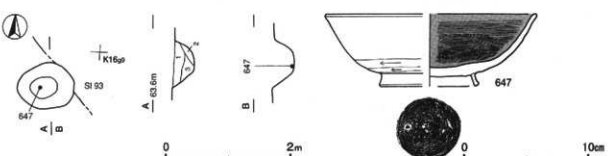
規模と形状　長径0.92m，短径0.75mの楕円形で，深さは34cmである。底面は皿状で，壁は外傾して立ち上がっている。長径方向はN－90°－Eである。

覆土　3層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　焼土粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子少量
3　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片2点（坏類）が出土している。647は底面付近から出土している。

所見　時期は，出土土器から10世紀後半と考えられる。



第362図　第249号土坑・出土遺物実測図

第249号土坑出土遺物観察表（第362図）

番号	種　別	器種	口径	器高	底径	胎　土	色　調	焼成	手法の特徴	出土位置	備　考
647	土師器	高台付椀	[16.8]	5.7	7.9	石英・長石・雲母	にぶい褐	良	内面ヘラ磨き	底面付近	70%

第305号土坑（第363図）

位置　調査区東部のL19i3区に位置し，東へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第186号住居跡を掘り込み，第500・501・513・517号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　長軸2.12m，短軸1.66mの不整方形と推定され，深さは45cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－5°－Wである。

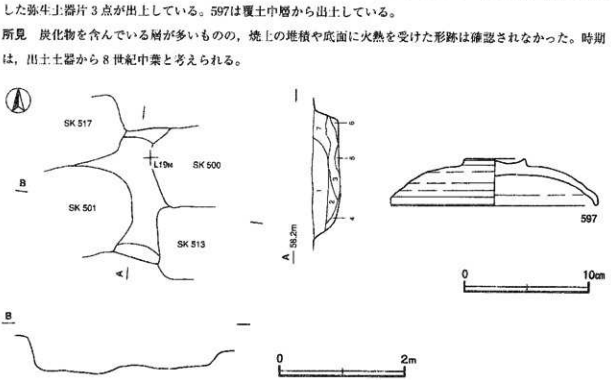
覆土　7層からなる。炭化物を含んでいる層が多いことから，人為堆積の可能性がある。

土層解説

1　黒　褐　色　ローム粒子中量，炭化物少量
2　暗　褐　色　ローム粒子・炭化物中量
3　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量
4　褐　　色　ローム粒子中量，炭化物微量
5　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子少量
6　黒　褐　色　ローム粒子・炭化粒子少量
7　黒　褐　色　ローム粒子・炭化物少量

遺物出土状況　土師器片62点（坏類29，甕類33），須恵器片13点（坏類8，甕類5）の他，埋没の過程で混入した弥生土器片3点が出土している。597は覆土中層から出土している。

所見　炭化物を含んでいる層が多いものの，焼土の堆積や底面に火熱を受けた形跡は確認されなかった。時期は，出土土器から8世紀中葉と考えられる。



第363図　第305号土坑・出土遺物実測図

第305号土坑出土遺物観察表（第363図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
597	須恵器	坏蓋	[16.4]	3.7	－	石英・長石	灰白	普通	内外面ロクロナデ	覆土中層	30%

第414号土坑（第364図）

位置　調査区東部のL19h5区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

規模と形状　長軸1.4m，短軸1mの長方形で，深さは72cmである。底面は平坦で，壁は直立している。長軸方向はN－90°－Eである。

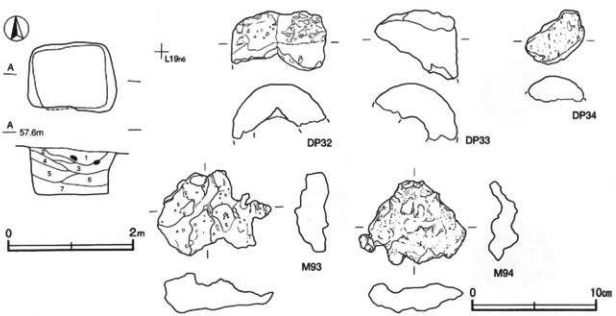
覆土　7層からなる。ロームを主体とする層位が多いことから，人為堆積と考えられる。第1層の底面からは鉄滓が出土している。

土層解説

1　暗　褐　色　炭化粒子中量，ロームブロック微量
2　褐　　色　ローム粒子中量，炭化粒子少量
3　褐　　色　ローム粒子中量，鹿沼パミス微量
4　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，鹿沼パミス微量
5　褐　　色　ローム粒子・炭化粒子中量，鹿沼ブロック微量
6　褐　　色　ローム粒子多量，鹿沼パミス少量
7　褐　　色　ロームブロック・鹿沼ブロック微量

遺物出土状況　土師器片18点（坏類８，甕類10），須恵器片２点（坏類１，甕類１），土製品５点（羽口），鉄滓119点が出土している。M93・94，ＤＰ32～34は第１層付近から出土している。鉄滓は海綿状で，3.1kgほど出土している。

所見　まとまった量の鉄滓や鞴の羽口片が出土していることから，周辺で鍛冶などの作業が行われたと考えられる。底面には火熱を受けた痕跡は見られないため，これらの遺物は投棄されたものと推測される。時期は，出土土器から平安時代と考えられる。



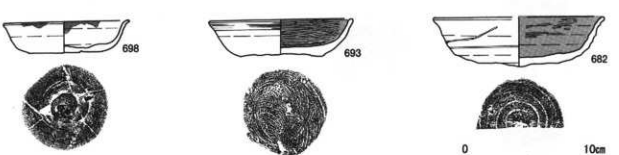
第364図　第414号土坑・出土遺物実測図

第414号土坑出土遺物観察表（第364図）

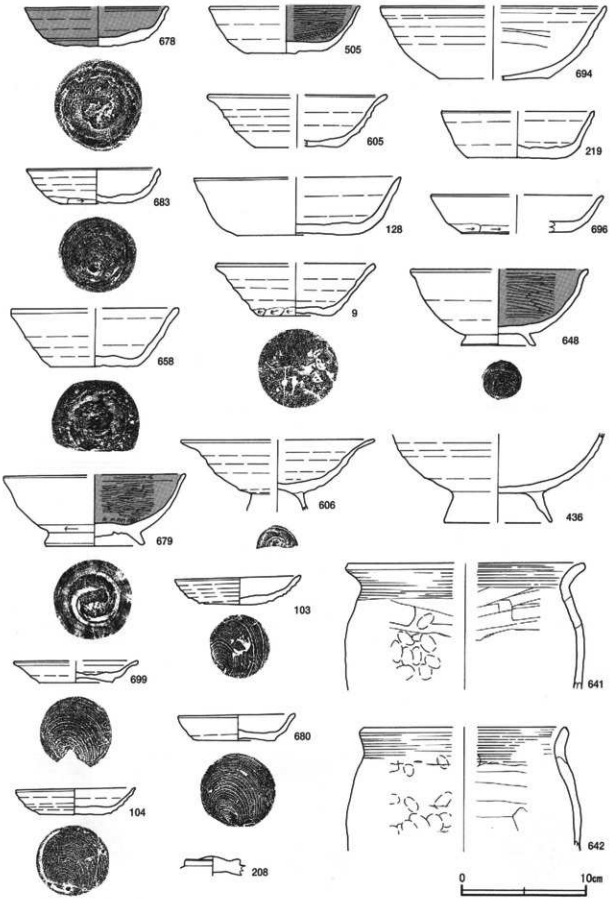
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP32	羽口	(4.8)	(7.0)	[2.3]	(83.0)	土	被熱痕	覆土上層	
DP33	羽口	(5.8)	(6.5)	[2.6]	(78.9)	土	被熱痕	覆土上層	
DP34	羽口	(4.8)	(4.7)	[1.8]	(24.7)	土	被熱痕	覆土上層	
M93	鉄滓	6.7	8.7	2.8	123.0	鉄	椀状滓ヵ	覆土上層	PL105
M94	鉄滓	6.7	8.6	2.4	95.9	鉄	椀状滓ヵ	覆土上層	

(6)　遺構外出土遺物

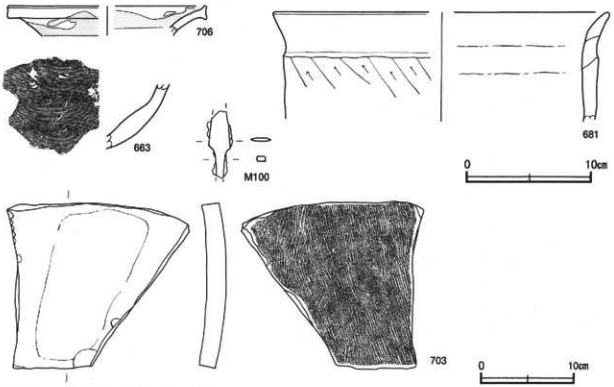
遺構に伴わない奈良・平安時代の主な遺物について，観察表で記述する。



第365図　遺構外出土遺物実測図(1)



第366図　遺構外出土遺物実測図(2)



第367図　遺構外出土遺物実測図(3)

遺構外出土遺物観察表（第365図～367図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考	
9	須恵器	坏	[12.4]	4.2	5.9	石英・長石	灰	普通	体部下端手持ちヘラ削り，底部回転ヘラ切り後手持ちヘラ削り	SI-25覆土	50%	PL98
103	土師器	皿	9.9	2.3	4.9	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り後ナデ	SI-78覆土	60%	PL99
104	土師器	皿	9.3	2.2	5.6	長石・赤色粒子	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	SI-78覆土	70%	PL99
128	須恵器	坏	[16.4]	4.6	9.5	石英・長石	灰黄	普通	内外面摩滅	SK-9覆土	60%	PL98
208	土師器	壺	－	(1.5)	－	長石・雲母	橙	普通	須恵器模倣	SI-200覆土	5%	
219	須恵器	坏	[12.2]	3.7	7.9	長石・白色粒子	オリーブ灰	普通	底部回転ヘラ切り後ナデ	SI-214覆土	65%	自然釉
436	土師器	高台付椀	－	(7.1)	[8.5]	雲母	にぶい黄橙	普通	ロクロナデ	SI-66覆土	20%	
505	土師器	椀	[12.0]	3.7	3.0	長石	にぶい褐	普通	内面磨き，底部回転ヘラきり後ナデ	SK-172覆土	60%	
605	土師器	坏	[14.0]	4.2	[6.9]	長石・雲母	にぶい橙	普通	内外面ロクロナデ，底部糸切り	SI-193覆土	40%	
606	土師器	高台付椀	[15.4]	(5.6)	－	石英・長石・雲母	にぶい黄橙	普通	内外面ロクロナデ	SI-173覆土	40%	
641	土師器	甕	[18.7]	(10.0)	－	石英・赤色粒子	赤褐	普通	外面指頭押捺，内面ヘラナデ	SK-193覆土	10%	
642	土師器	甕	[16.0]	(9.8)	－	石英・長石・雲母	にぶい橙	普通	外面指頭押捺，内面ナデ	SK-193覆土	10%	
648	土師器	高台付椀	[14.1]	6.1	6.0	石英・長石	にぶい橙	普通	内面ヘラ磨き，底部回転糸切り	SK-275覆土	30%	
658	須恵器	坏	[13.2]	4.6	7.0	長石・白色粒子	灰	良	底部回転ヘラ切り	第5号地下式壙	45%	
663	須恵器	提瓶	－	(5.2)	－	石英・長石	灰	良	外面撫で目調整	SK-478覆土	5%	
678	土師器	坏	[11.4]	3.1	7.4	石英・長石	にぶい橙	普通	底部回転ヘラ切り	SI-30覆土	50%	
679	土師器	高台付椀	[14.4]	5.6	7.6	石英・長石・雲母	灰黄褐	普通	体部下端回転ヘラ削り，内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ切り	SI-37覆土	35%	
680	土師器	皿	9.2	2.1	6.3	赤色粒子・雲母	にぶい黄橙	普通	底部回転糸切り	SI-37覆土	75%	炭素吸着付着
681	土師器	甑ヵ	[26.4]	(8.5)	－	石英・長石	にぶい橙	普通	体部外面ヘラ削り，内面ナデ	SI-43覆土	65%	輪積痕
682	土師器	坏	[13.4]	3.8	[6.2]	赤色粒子・雲母	にぶい赤褐	普通	体部内面ヘラ磨き，底部回転ヘラ切り後ナデ	SI-62覆土	50%	
683	須恵器	坏	10.6	3.8	5.9	長石	灰オリーブ	普通	底部回転ヘラ切り後回転ヘラ削り	SI-62覆土	85%	PL98
693	土師器	坏	11.3	3.0	6.6	石英・雲母	にぶい黄橙	普通	体部内面ヘラ磨き，底部回転糸切り	表採	98%	PL95
694	土師器	坏	[17.8]	(5.9)	[8.6]	石英・長石・雲母	にぶい褐	普通	底部手持ちヘラ削り後ナデ	表採	40%	
696	須恵器	坏	[13.8]	3.0	[9.0]	長石・赤色粒子	灰	普通	底部粘土貼り付け後手持ちヘラ削り	表採	15%	

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
698	土師器	坏	10.0	2.6	5.5	石英・長石	橙	普通	底部回転ヘラ切り	表採	98% 『埋蔵』PL95
699	土師器	小皿	(9.8)	1.7	5.8	石英・長石	にぶい橙	普通	底部回転糸切り	表採	70%
706	灰釉陶器	壺	(15.6)	(2.3)	－	長石・黒色粒子	オリーブ黄	普通	口縁部内外面釉刷毛塗り	表採	5%

番号	種別	器種	長さ	幅	厚さ	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
703	須恵器	硯	(17.6)	(19.1)	2.0	黒色粒子・雲母	灰	普通	陸部裏面部を転用，内面に磨り痕	表採	5%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M100	鎌	(3.4)	(1.8)	0.4	(9.4)	鉄	鎌倉式鎌身，茎部断面四角形，先端・茎部欠損	表採	

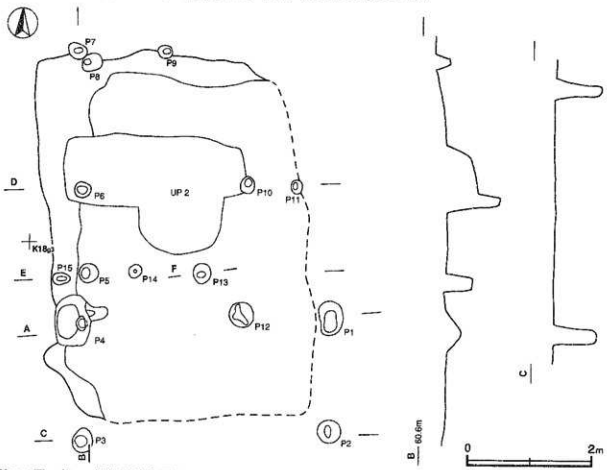
5　中・近世の遺構と遺物

今回の調査で，中近世の竪穴住居跡1軒，掘立柱建物跡1棟，地下式壙8基，墓壙1基，井戸跡3基，火葬施設2基，溝跡10条，欠跡4条，道路跡1条，ピット群3ヵ所，土坑10基および平坦面を造成するため斜面を削平した跡を確認した。以下，遺構と遺物について記述する。

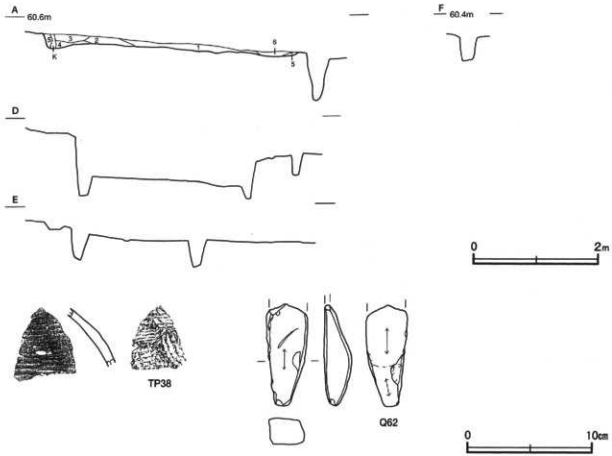
(1)　竪穴住居跡

第119号住居跡（第368・369図）

位置　調査区中央部のK18f3区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。



第368図　第119号住居跡実測図



第369図　第119号住居跡・出土遺物実測図

重複関係　第２号地下式壙を掘り込んでいる。

規模と形状　東壁・南壁は削平され，全容は明らかではない。現存する規模は長辺5.8m，短辺4.1mの長方形と推定され，主軸方向はＮ－３°－Ｗである。壁高は10cmほどで，外傾して立ち上がっている。

床　起伏があり，若干軟弱である。壁溝は確認されなかった。

炉・竈　いずれも確認されなかった。

ピット　15か所。Ｐ１～Ｐ10は深さ44～90cmで，主柱穴と考えられる。その他のピットは深さ20～34cmで，支柱穴と考えられる。

覆土　６層からなる。ブロックを含む層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	ローム粒子中量，焼土粒子少量，炭化粒子微量	4	暗 褐	色	ロームブロック中量
2	褐	色	ロームブロック中量	5	にぶい黄褐色		ロームブロック中量
3	褐	色	ロームブロック少量，鹿沼パミス微量	6	暗 褐	色	ローム粒子少量

遺物出土状況　土師器片67点（坏類22，甕類45），須恵器片12点（坏類６，甕類６），石製品１点（砥石），瓦片１点が出土している。これらの遺物は，埋没する過程で混入したものである。

所見　本跡は柱穴が方形に並んでいることから掘立状の上屋を持ち，第２号地下式壙と関連がある遺構と考えられる。時期は，中世の可能性がある。

第119号住居跡出土遺物観察表（第369図）

番号	種別	器種	部位	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
TP38	縄文器	甕	底石	黄灰	普通	外面横位平行叩き，内面当て具痕	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q62	砥石	(8.0)	3.3	2.1	(55.5)	凝灰岩	砥面2面	覆土中	

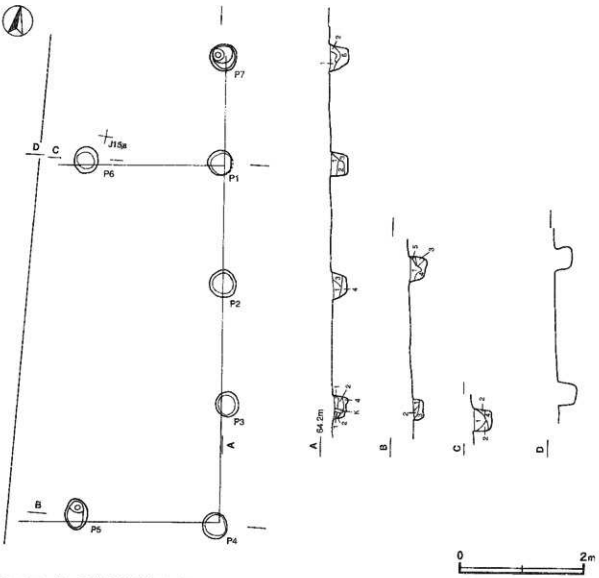
(2) 掘立柱建物跡

第１号掘立柱建物跡（第370図）

位置　調査区西部のＪ15j8区に位置し，尾根上の平坦面に位置している。

規模と構造　西側が調査区域外に延び，全容は不明である。現状で桁行４間（平均7.45m），梁間１間（平均2.24m）の側柱式の建物跡で，桁行方向はＮ－８°－Ｗの東西棟と推定される。柱間寸法は桁行約1.8m，梁間約2.2mで，現存する面積は16.69㎡である。Ｐ１に対応する桁行方向の柱穴は確認されていない。

柱穴　７か所（Ｐ１～Ｐ７）で，平面形は長径39～49cm，短径36～37cmの円形である。断面形は逆台形を呈



第370図　第１号掘立柱建物跡実測図

し，深さは16～28cmである。柱痕は認められず，各層とも粘性・しまりが弱いことから，柱を抜き取った後，人為的に埋め戻されたものと考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック少帯，炭化粒子微量	4	褐	色	ローム粒子中量
2	黒	褐	色	ロームブロック微量	5	褐	色	ロームブロック中帯
3	褐		色	ローム粒子少帯	6	暗	褐	色	ロームブロック多量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　全容は明らかではないが，柱穴の中でＰ７だけが北に位置していることから，北側に庇がつく構造と推定される。他の掘立柱建物跡で桁行方向が同一または直交しているものが見られないことから，本建物だけが別の規格によって構築されたものと考えられる。時期は，柱穴の径が小さく浅いことから中世の可能性がある。

(3)　地下式壙

第１号地下式壙（第371図）

位置　調査区中央部のＫ18c3区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

竪坑　南壁に位置し，上面は長軸2.1ｍ，短軸1.9ｍの長方形で，確認面からの深さは64cmである。底面は主室の底面より50cmほど高く，主室に向かって２段に掘り込まれている。

主室　北側は調査区域外に延び，全容は不明である。調査した範囲で，長軸３ｍ，短軸2.5ｍの隅丸方形で，主軸方向はＮ－９°－Ｅである。確認面からの深さは124cmである。天井部は崩落している。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

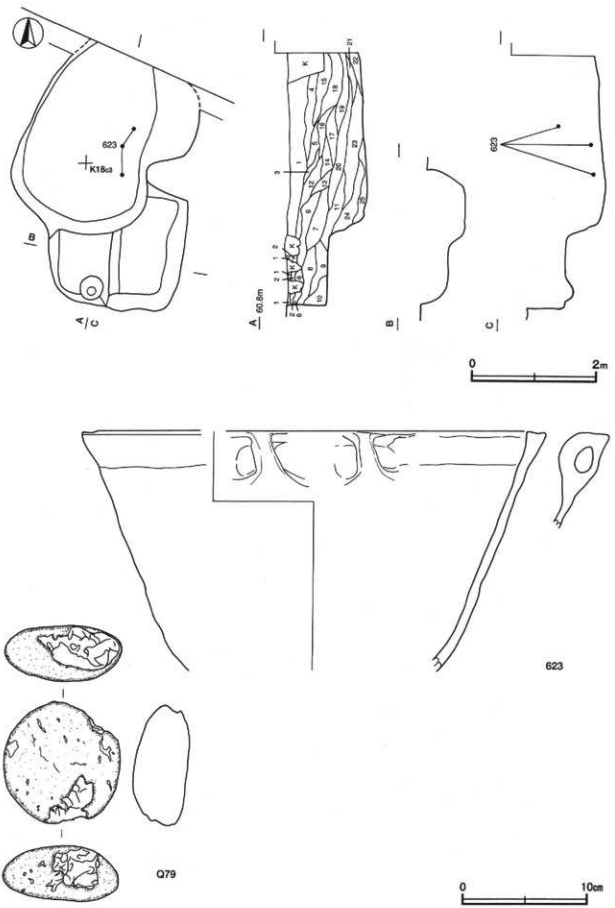
覆土　25層からなる。第７・21～25層は，ロームブロックまたは鹿沼ブロックを主体とした天井部の崩落層である。主室内にあまり土砂が堆積しない間に第21～24層が崩落し，その後第７層が崩落したものと考えられる。第18層には礫が含まれ，これらは落ち込んだものと考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子中量，赤色粒子少量	14	褐	色	ローム粒子中量，鹿沼ブロック微量
2	褐		色	ローム粒子中量	15	暗	褐	色	ローム粒子・鹿沼ブロック微帯
3	暗	褐	色	ローム粒子中量	16	暗	褐	色	ロームブロック微量
4	暗	褐	色	ローム粒子少量	17	暗	褐	色	ロームブロック少量
5	褐		色	ロームブロック中帯	18	褐		色	ローム粒子中量，しまり弱
6	褐		色	ロームブロック・鹿沼ブロック中帯	19	暗	褐	色	ロームブロック中量
7	褐		色	鹿沼ブロック中量，ロームブロック微量	20	褐		色	ローム粒子少量，鹿沼ブロック微帯
8	暗	褐	色	鹿沼パミス少量，ロームブロック少帯	21	に	ぶ	い	褐色	ローム粒子・鹿沼パミス中量
9	褐		色	鹿沼パミス中量，ロームブロック少量	22	橙		色	鹿沼ブロック多量
10	褐		色	鹿沼パミス中量	23	に	ぶ	い	褐色	ローム粒子・鹿沼パミス中量，焼土粒子少帯
11	暗	褐	色	鹿沼パミス少量	24	に	ぶ	い	褐色	ロームブロック中量，鹿沼ブロック少量
12	暗	褐	色	ローム粒子中量，炭化粒子少量	25	褐		色	ローム粒子・鹿沼パミス少量
13	褐		色	ロームブロック・鹿沼ブロック少量				

遺物出土状況　土師器片196点（坏類31，甕類163，高坏２），須恵器片64点（坏類25，甕類39），土師質土器片139点（鍋類），瓦片16点，石器２点（尖頭器，磨石），鉄滓１点が出土しているが，埋没の過程で混入したものである。623は，天井部の崩落層の上面付近から破片の状態で出土している。

所見　時期は，出土遺物から中世と考えられる。



第371図　第１号地下式壙・出土遺物実測図

第１号地下式壙出土遺物観察表（第371図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
623	土師質土器	鍋	[36.8]	(19.1)	－	赤色粒子・雲母	赤褐	普通	内耳，内外面ナデ	覆土上層	30%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q79	磨石	9.7	9.3	4.4	465.0	ホルンフェルス	側面に使用痕	覆土中	

第２号地下式壙（第372図）

位置　調査区中央部のＫ18ξ3区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第119号住居に掘り込まれている。

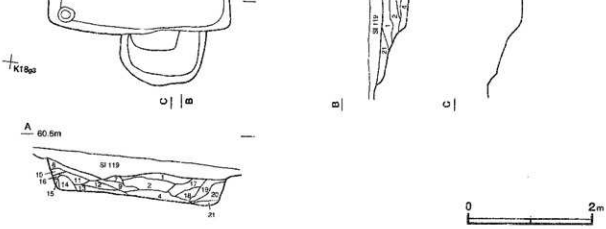
竪坑　南壁の東寄りに位置し，上面は長軸1.36m，短軸0.96mの長方形で，確認面からの深さは14cmである。底面は主室の底面より30cmほど高く，主室に向かって傾斜している。

主室　長軸2.9m，短軸1.1mの長方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。確認面からの深さは40cmである。天井部は崩落している。底面は平坦で，南西コーナーに深さ10cmのピットが確認されている。

覆土　21層からなる。第２～４層は，ロームブロックまたは鹿沼パミスを主体とした天井部の崩落層である。構築後比較的早い段階で，天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

1　褐　色　ロームブロック・鹿沼ブロック微量
2　褐　色　ロームブロック多量，鹿沼パミス中量
3　にぶい褐色　ロームブロック・鹿沼パミス中量，炭化粒子少量
4　にぶい褐色　鹿沼パミス中量
5　暗　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量
6　褐　色　ロームブロック・鹿沼パミス中量，炭化物微量
7　暗　褐　色　ロームブロック微量
8　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼ブロック少量
9　褐　色　ローム粒子多量，鹿沼パミス中量，炭化粒子微量
10　にぶい黄褐色　ローム粒子多量，鹿沼ブロック微量
11　褐　色　鹿沼ブロック少量
12　にぶい黄褐色　ローム粒子中量，鹿沼ブロック微量
13　黄　褐　色　ロームブロック中量，鹿沼パミス微量
14　明オリーブ色　ローム粒子中量，鹿沼パミス少量
15　橙　色　鹿沼パミス多量
16　暗　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック微量
17　灰　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス少量
18　黄　褐　色　ローム粒子・鹿沼パミス中量
19　灰黄褐色　鹿沼ブロック中量，ローム粒子少量
20　にぶい黄褐色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量，炭化物微量
21　黄　褐　色　鹿沼パミス中量，ロームブロック少量



第372図　第２号地下式壙実測図

遺物出土状況　土師器片14点（坏類５，甕類９），須恵器片４点（坏類３，甕類１）が出土しているが，埋没の過程で混入したものである。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　時期は，重複関係と形態から第119号住居に先行する中世と考えられる。

第３号地下式壙（第373図）

位置　調査区東部のＬ19h4区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第184号住居跡を掘り込み，第429号と重複している。

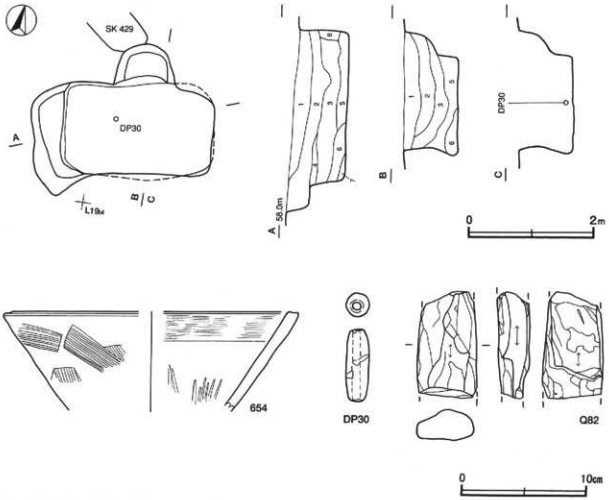
竪坑　北壁に位置し，上面は長軸0.9m，短軸0.7mの楕円形で，確認面からの深さは34cmである。底面は主室の底面より30cmほど高く，主室に向かって緩やかに傾斜している。

主室　長軸2.9m，短軸1.7mの長方形で，主軸方向はＮ－５°－Ｅである。確認面からの深さは88cmである。天井部は失われている。底面は平坦で，壁はほぼ直立または若干内傾して立ち上がっている。

覆土　８層からなる。天井部に該当する土層は確認されなかったため，早い段階で削平された可能性がある。これらの土層は，天井部が削平された後に流れ込んだものと考えられる。

土層解説

1	暗　褐　色	ローム ブロック少量，焼土ブロック・炭化物微量	5	黒　褐　色	ローム ブロック・焼土ブロック・炭化物微量
2	暗　褐　色	ローム粒子・焼土粒子少量，炭化物微量	6	黒　褐　色	ローム ブロック中量
3	暗　褐　色	焼土粒子・炭化物少量，ローム ブロック微量	7	黒　褐　色	ローム ブロック微量
4	暗　褐　色	ローム ブロック少量	8	暗　褐　色	ローム ブロック中量



第373図　第３号地下式壙・出土遺物実測図

遺物出土状況　土師器片293点（坏類53，甕類229，高坏11），須恵器片30点（坏類16，甕類13，高坏1），土師質土器片6点（擂鉢），土製品1点（管状土錘），石器片1点（砥石）が出土しているが，埋没の過程で混入したものである。654は覆土中層から，Q82は覆土上層から，ＤＰ30は底面付近から出土している。

所見　時期は，出土土器および形態から中世と考えられる。

第３号地下式壙出土遺物観察表（第373図）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
654	土師質土器	擂鉢	[23.4]	(7.9)	－	長石・雲母	にぶい赤褐	普通	外面ハケ目，内面擂り目	覆土中層	10%

番号	器種	長さ	直径	孔径	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP30	管状土錘	5.7	1.9	0.6	17.2	土	ナデ	底面	PL103

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
Q82	砥石	(8.5)	4.8	2.6	(140.5)	粘板岩	砥面３面	覆土上層	

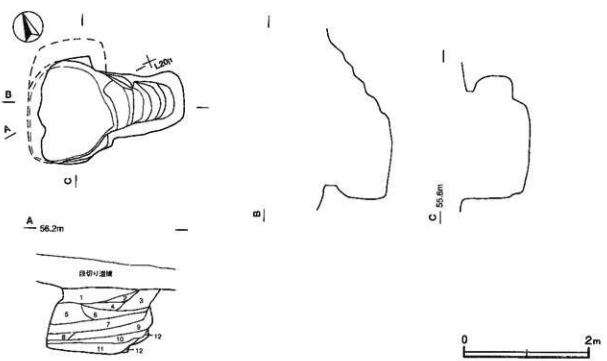
第４号地下式壙（第374図）

位置　調査区東部のＩ19j0区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　段切り遺構によって掘り込まれている。

竪坑　東側に位置し，長軸1.2m，短軸0.9mの長方形で，確認面からの深さは62cmである。底面は主室より40cmほど高く，主室に向かって階段状に掘り込まれている。

主室　長軸２m，短軸1.3mの長方形で，主軸方向はＮ－74°－Ｗである。確認面からの深さは110cmである。天井部は崩落している。底面は平坦で，壁はほぼ直立または若干内傾して立ち上がっている。北壁は幅1.1mで，0.34mほど外側に掘り込まれている。底面は平坦で，主室の底面からの高さは24cmである。



第374図　第４号地下式壙実測図

覆土　12層からなる。第9層はローム粒子を主体とした天井部の崩落層である。第10・11層が流れ込んだ後，天井部が崩落したものと考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ローム粒子少量	7	褐	色	ロームブロック少量
2	褐	色		ロームブロック少量	8	黒	褐	色	ローム粒子微量
3	褐	色		ローム粒子多量	9	褐	色	ローム粒子多量
4	褐	色		ローム粒子中量	10	黒	褐	色	ローム粒子・焼土粒子微量
5	黒	褐	色	ロームブロック微量	11	黒	褐	色	ローム粒子・炭化粒子微量
6	灰	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量	12	暗	褐	色	ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片10点（坏類9，甕類1）が出土している。これらは埋没の過程で混入したものである。いずれも小片のため図化できなかった。

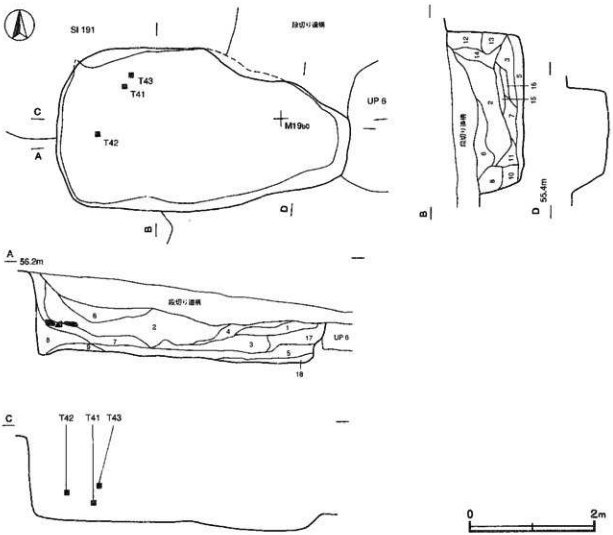
所見　北壁の掘り込みは，竈のような機能が想定される。時期は，形態から中世と推定される。

第5号地下式壙（第375・376図）

位置　調査区東部のM19a9区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

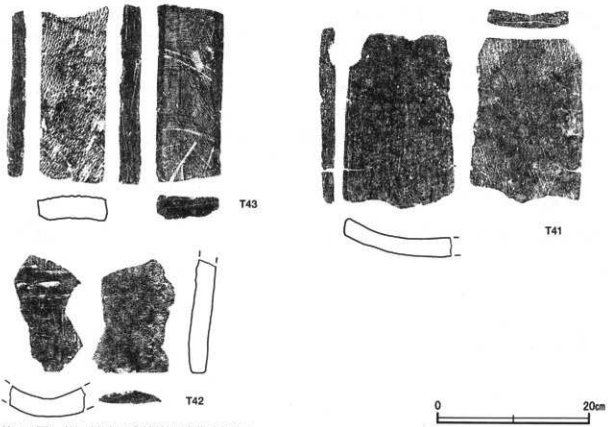
重複関係　第191号住居跡，第6号地下式壙を掘り込み，段切り遺構によって掘り込まれている。

竪坑　東壁に位置し，上面は長軸1.3m，短軸0.6mの台形で，確認面からの深さは69cmである。底面は主室の底面とほぼ同じ高さで，平坦である。



第375図　第5号地下式壙実測図

主室　長軸４ｍ，短軸2.6ｍの楕円形で，主軸方向はＮ－87°－Ｗである。確認面からの深さは西壁で130㎝である。天井部は崩落している。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。



第376図　第５号地下式壙出土遺物実測図

覆土　18層からなる。第３層はロームブロックを主体とした天井部の崩落層である。第５・18層が流れ込んだ後，崩落したと考えられる。第７層には礫が含まれており，落ち込んだものと考えられる。

土層解説

1	にぶい黄褐色	ロームブロック少量，炭化粒子微量
2	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量
3	褐　　色	ロームブロック多量
4	暗　褐　色	ロームブロック微量
5	暗　褐　色	ロームブロック・鹿沼パミス微量
6	黒　褐　色	ローム粒子・焼土粒子・炭化物微量
7	黒　褐　色	ローム粒子少量
8	暗　褐　色	ローム粒子中量，鹿沼パミス微量，粘性強
9	黒　褐　色	ロームブロック微量
10	褐　　色	ロームブロック中量，鹿沼パミス微量
11	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化粒子微量
12	暗　褐　色	ロームブロック・炭化粒子微量
13	褐　　色	ロームブロック多量
14	黒　褐　色	ロームブロック・焼土粒子・炭化物微量
15	黒　褐　色	ロームブロック微量
16	黒　褐　色	ローム粒子微量，粘性強，しまり弱
17	暗　褐　色	ロームブロック少量，炭化物・鹿沼パミス微量
18	黒　褐　色	ロームブロック少量，鹿沼パミス微量

遺物出土状況　縄文土器片１点，弥生土器片１点，土師器片56点（坏類24，甕類32），須恵器片７点（坏類５，甕類２），瓦片４点が出土しているが，埋没の過程で混入したものである。Ｔ41～43は覆土中層から出土し，流れ込んだ可能性が考えられる。

所見　竪坑は主軸と平行して掘り込まれている。時期は，形態から中世と想定される。

第5号地下式壙出土遺物観察表（第376図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T41	平瓦	(22.6)	(14.0)	2.2	(1270.0)	土	凸縄目叩き，凹布目痕	覆土中層	PL110
T42	平瓦	(15.5)	(9.6)	2.2	(530.0)	土	凸縄目叩き，凹布目痕	覆土中層	PL110
T43	鬼瓦	(23.4)	9.3	3.0	(1020.0)	土	凸縄目叩き，凹布目痕	覆土中層	PL110

第6号地下式壙（第377図）

位置　調査区東部のM19a0区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　第4号棚跡，第5号地下式壙，段切り遺構に掘り込まれ，第3号ピット群と重複している。

竪坑　東壁に位置し，上面は長軸1.2m，短軸0.7mの長楕円形で，確認面からの深さは44cmである。底面は主室の底面とほぼ同じ高さで，平坦である。

主室　長軸2.2m，短軸1.7mの楕円形で，主軸方向はN－47°－Wである。確認面からの深さは48cmである。天井部は失われている。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

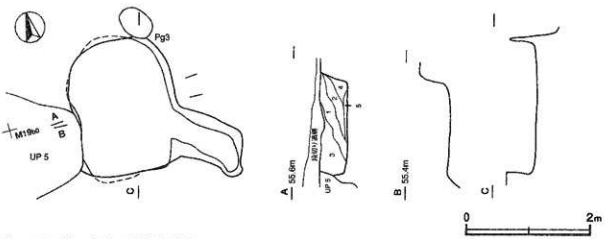
覆土　5層からなる。天井部に該当する土層は確認されず，削平されたものと考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ローム ブロック微量	4	にぶい黄褐色	ローム粒子多量
2	黒　褐　色	ローム ブロック微量，粘性・しまり強	5	暗　褐　色	泥沼パミス中量
3	暗　褐　色	ローム ブロック・泥沼パミス微量			

遺物出土状況　土師器片32点（坏類16，甕類16），須恵器片1点（甕類）が出土しているが，埋没の過程で混入したものである。

所見　時期は，形態から中世と考えられる。



第377図　第6号地下式壙実測図

第7号地下式壙（第378図）

位置　調査区東部のK18d4区に位置し，東に傾斜する斜面に立地している。

竪坑　東側は調査区域外に延び，全容は不明である。竪坑は東側に設置されたと推測される。

主室　長軸3.2m，短軸1.8mの長方形と推定され，主軸方向はN－9°－Eである。確認面からの深さは87cmである。天井部は崩落している。底面は平坦で，壁はほぼ直立している。

覆土　17層からなる。第4層は粘性・しまりの強いロームの純層で，天井部の崩落層である。第4層の下層には土砂の堆積が見られないことから，構築後まもなく崩落し，その後二次的な天井部の崩落があったと考えられる。

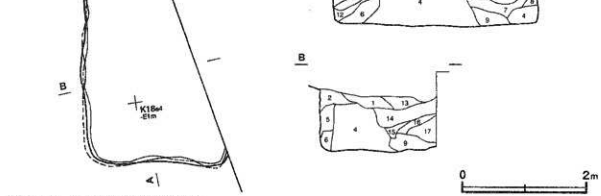
土層解説

1	黒　褐　色	ローム粒子微量	6	褐　色	ローム ブロック中量
2	暗　褐　色	ローム ブロック少量	7	暗　褐　色	炭化粒子中量，ローム粒子少量，泥沼パミス微量
3	にぶい黄褐色	ローム粒子中量	8	褐　色	ローム粒子微量
4	黄　褐　色	ローム粒子多量，粘性・しまり強	9	褐　色	ローム ブロック少量
5	褐　色	ローム粒子中量，粘性・しまり弱	10	褐　色	泥沼ブロック少量，ローム ブロック微量

11 暗 褐 色　ローム ブロック中量
12 黒 褐 色　ローム ブロック少量
13 黒 褐 色　ローム粒子少量，炭化物・鹿沼パミス微量
14 褐　　色　鹿沼ブロック少量，ローム ブロック微量
15 褐　　色　ローム粒子中量
16 褐　　色　ローム粒子多量
17 黒 褐 色　ローム ブロック微量

遺物出土状況　土師器片42点（坏類13，甕類29），須恵器片３点（坏類１，甕類２），陶器片１点（椀ヵ），瓦片１点，鉄滓１点が出土しているが，埋没の過程で混入したものである。いずれも小片で，図化できなかった。

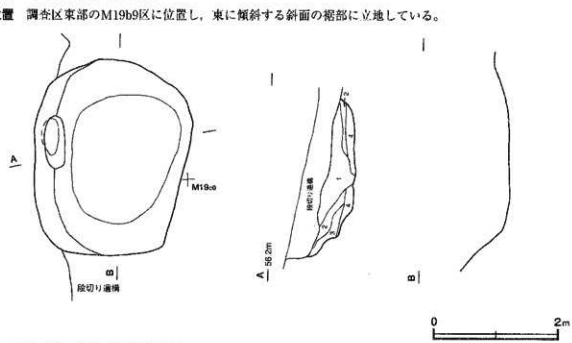
所見　第４層は最も厚いところで80cmほどあり，本地下式壙が構築された当時の地表面は，現在の確認面よりかなり高い位置にあったことを示している。このことから，後世の削平による地形の改変が著しかったことが考えられる。時期は，形態から中世と考えられる。



第378図　第７号地下式壙実測図

第８号地下式壙（第379図）

位置　調査区東部のM19b9区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。



第379図　第８号地下式壙実測図

重複関係　段切り遺構によって掘り込まれている。

竪坑　上面を段切り遺構によって削平され，残存していない。地形から東側に開口していたと考えられる。

主室　長軸3.1m，短軸2.5mの隅丸長方形で，主軸方向はN－10°－Eである。確認面からの深さは50cmである。天井部は失われている。底面は平坦で，壁は西壁が外傾して，その他の壁は緩やかに立ち上がっている。

覆土　4層からなる。第1～3層はしまりの弱い層であることから，流入した土層と考えられる。

土層解説

1　黒　褐　色　　ローム粒子微量
2　暗　褐　色　　ロームブロック・焼土粒子微量
3　暗　褐　色　　ローム粒子中量
4　にぶい黄褐色　　ローム粒子・泥沼パミス中量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　時期は，段切り遺構に削平されていることから中世と想定される。

(4)　墓壙

第1号墓壙（第380図）

位置　調査区西部のJ15d7区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状　長軸1.3m，短軸1.2mの隅丸長方形で，深さは84cmである。底面は平坦で，壁は直立している。長軸方向はN－0°である。

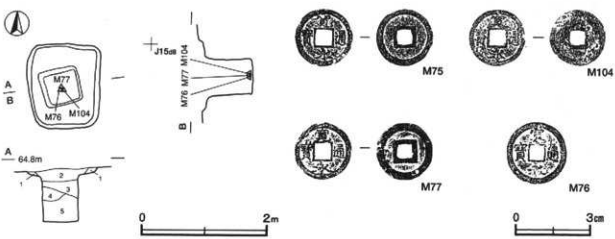
覆土　5層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　明　褐　色　　ローム粒子多量
2　褐　　色　　ロームブロック少量，炭化粒子微量
3　極 暗 褐 色　　ロームブロック・炭化粒子微量
4　暗　褐　色　　ロームブロック少量
5　暗　褐　色　　ロームブロック微量

遺物出土状況　鉄器4点（釘），古銭4点（寛永通寶），人骨が出土している。M75～77および人骨は底面付近から出土している。釘は腐食が進んでいたため，実測不能であった。

所見　釘と古銭および人骨が出土していることから，墓壙と考えられる。時期は，新寛永通寶が出土していることから江戸時代（17世紀以降）と考えられる。



第380図　第1号墓壙・出土遺物実測図

第1号墓壙出土遺物観察表（第380図）

番号	銭名	計測値					初鋳・鋳造年		特　徴	備　考
		銭径（cm）	銭孔幅（cm）	厚さ（mm）	重量（g）	材質	年号	西暦		
M75	寛永通寶	2.32	0.7×0.7	1.3	2.10	銅	元禄10年	1697	鋳上がりやや不良，孔有り	新寛永　PL106

番号	銭名	計測値					初鋳・鋳造年		特　　徴	備　考
		銭径 (cm)	銭孔幅 (cm)	厚さ (mm)	重量 (g)	材質	年号	西暦		
M76	寛永通寶	2.59	0.7×0.7	1.3	6.55	銅	元禄10年	1697	二枚鋳着	新寛永 PL.106
M77	寛永通寶	2.32	0.7×0.7	1.7	2.82	銅	元禄10年	1697	鋳上がりやや不良	新寛永 PL.106
M104	寛永通寶	2.28	0.7×0.7	1.4	2.64	銅	元禄10年	1697		新寛永 PL.106

(5)　火葬施設

第1号火葬施設（第381図）

位置　調査区東部のL20j5区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　第355号土坑に掘り込まれている。

規模と形状　西側を第355号土坑に掘り込まれており，全容は不明である。現存する規模は，長軸1.4m，短軸0.5mの隅丸長方形と推定され，深さは20cmである。底面はほぼ平坦で，壁は緩やかに外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－81°－Eである。

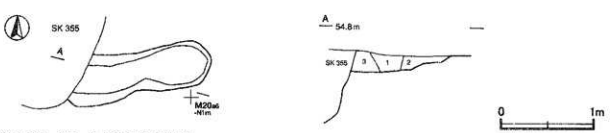
覆土　3層からなる。第1層に骨片を含み，焼土・炭化物を含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1　灰　褐　色　炭化物多量，焼土粒子中量，骨片少量
2　灰　褐　色　ローム粒子中量，焼土粒子・炭化物・骨片少量
3　褐　　色　ローム粒子少量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　焼土・炭化物が堆積していることから，火葬施設と考えられる。時期は，中世以降と考えられる。



第381図　第1号火葬施設実測図

第2号火葬施設（第382図）

位置　調査区東部のM20b6区に位置し，東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　第384号土坑を掘り込み，第1号ピット群と重複している。

規模と形状　上面は削平され，全容は不明である。長さ1.2m，幅1mのT字形と推定され，深さは54cmである。底面は平坦で，壁は外傾して立ち上がっている。長軸方向はN－29°－Eである。

覆土　3層からなる。焼土ブロックを含んでいることから，人為堆積と考えられる。

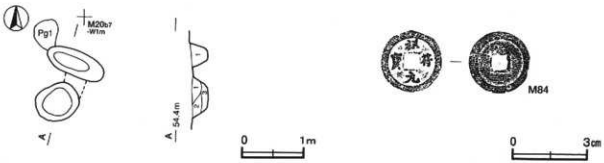
土層解説

1　暗赤褐色　焼土ブロック多量，ローム粒子・炭化粒子少量
2　黒　褐　色　焼土ブロック少量，ロームブロック・炭化粒子微量
3　褐　　色　ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片3点（甕類），古銭1点（祥符元寶）が出土している。M84は覆土中から出土している。

所見　上面が削平されているものの，焼土が堆積していることや底部の形状などから，燃焼部が主軸に直交す

る形態の火葬施設と想定される。時期は，出土遺物から中世と考えられる。



第382図　第２号火葬施設・出土遺物実測図

第2号火葬施設出土遺物観察表（第382図）

番号	銭名	計測値					初鋳・鋳造年		特　徴	備　考
		銭径（cm）	銭孔幅（cm）	厚さ（mm）	重量（g）	材質	年号	西暦		
M84	祥符元寶	2.49	0.7×0.7	1.7	2.70	銅	祥符元年	1008	鋳上がりやや不良	PL106

（6）溝跡

第１号溝跡（第383・384図）

位置　調査区西部のＪ15a8～Ｋ15b9区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第２・３・７・11号住居跡，第５～７号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状　北側は調査区域外に延び，全容は不明である。Ｎ－０°の方向に延び，確認できた長さは45.9ｍで，上幅55～88cm，下幅37～64cm，深さ14～20cmである。断面はＵ字形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　３層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　　ローム粒子・炭化粒子微量
2　暗　褐　色　　ローム粒子少量，炭化粒子微量
3　褐　　色　　ローム粒子少量，焼土粒子微量

遺物出土状況　土師器片42点（坏類11，甕類31），須恵器片12点（坏類９，甕類３），土製品１点（土製模造品），石器１点（尖頭器），鉄器１点（不明）が出土している。ＤＰ37・Ｑ87は南側の覆土中から出土している。これらの遺物は，本跡の埋没に伴って混入したものと考えられる。

所見　現在の道路とほぼ同じ方向を向いていることから，土地を区画した溝と考えられる。時期は，中世以降と考えられる。

第２号溝跡（第383図）

位置　調査区域西部のＫ15d9～Ｋ15i8区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第16号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南側は調査区域外に延び，全容は不明である。Ｎ－４°－Ｗの方向に延び，確認できた長さは19.3ｍで，上幅84～121cm，下幅60～94cm，深さ28～32cmである。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　４層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　黒　褐　色　　ロームブロック・焼土ブロック・炭化粒子微量
2　黒　褐　色　　ローム粒子少量，焼土ブロック・炭化粒子微量
3　暗　褐　色　　ロームブロック少量，炭化粒子微量
4　暗　褐　色　　ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片39点，須恵器片10点，瓦片１点，鉄器１点（刀子），鉄滓20点が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　第１号溝跡とほぼ同じ方向に延びており，同時期に構築されたものと考えられる。少量ながら鉄滓が出土していることから，近隣で鍛冶に関連する作業が行われていたことが考えられる。

第５号溝跡（第383・384図）

位置　調査区西部のＫ16d2～Ｋ16b7区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第36号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｎ－85°－Ｅの方向に延び，長さ23.7ｍで，上幅46～71cm，下幅20cm，深さ20cmである。断面はＵ字形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層からなる。レンズ状に堆積していることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　炭化物少量，ローム粒子微量
2　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片１点（甕類），鉄滓１点が出土している。M97は覆土中から出土している。

所見　第１・２号溝跡とほぼ直交して延びていることから，同時期に構築されたものと推測される。

第６号溝跡（第383図）

位置　調査区西部のＫ15e0～Ｋ16d4区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

規模と形状　Ｎ－79°－Ｅの方向に延び，長さ17ｍで，上幅50～80cm，下幅39～63cm，深さ20cmである。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　２層からなる。含有物を均等に含んでいることから，自然堆積と考えられる。

土層解説
1　暗　褐　色　ローム粒子・焼土粒子微量
2　褐　　色　ローム粒子中量

遺物出土状況　土師器片10点（坏類６，甕類４）が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　第２号溝跡とほぼ直交することから，同時期に構築された可能性が推測される。

第12号溝跡（第383図）

位置　調査区東部のＬ17b7～Ｌ18b5区に位置し，東へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第168号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　北側は調査区域外に延び，全容は不明である。Ｎ－５°－Ｗの方向に延び，確認できた長さは17.7ｍで，上幅44～94cm，下幅12～48cm，深さ14～39cmである。断面はＵ字形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　５層からなる。第１～３層に不自然な堆積状況が認められることから，人為堆積の可能性がある。

土層解説
1　黒　褐　色　ローム粒子微量，粘性弱
2　黒　褐　色　ローム粒子少量
3　にぶい黄褐色　ローム粒子中量
4　黒　褐　色　ローム粒子微量
5　暗　褐　色　ロームブロック微量

遺物出土状況　土師器片９点（坏類３，甕類６）が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　調査前の畦畔とほぼ一致していることから，土地を区画したものと考えられる。時期は，中世以降と考えられる。

第13号溝跡（第383図）

位置　調査区東部のⅠ14i1～Ⅰ15i1区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第18号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南側と北側は調査区域外に延び，全容は不明である。N－5°－Wの方向に延び，確認できた長さは12.7mで，上幅64～96cm，下幅20～52cm，深さ48～52cmである。断面はU字形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　5層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量	4	褐	色	ローム粒子中量
2	褐	色	ロームブロック少量，炭化粒子微量	5	褐	色	ロームブロック微量
3	褐	色	ロームブロック・炭化粒子微量				

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　現在の道路とほぼ同じ方向に延びていることから，土地を区画したものと考えられる。時期は，中世以降と想定される。

第14号溝跡（第383図）

位置　調査区西部のⅠ14e8～Ⅰ14h8区に位置し，西へ傾斜する斜面に立地している。

規模と形状　南側と北側は調査区域外に延び，全容は不明である。N－7°－Wの方向に延び，確認できた長さは11.1mで，上幅66～104cm，下幅18～50cm，深さ24～32cmである。断面はU字形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　3層からなる。ロームブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック・炭化粒子微量	3	暗	褐	色	ロームブロック少量
2	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土粒子・炭化粒子微量				

遺物出土状況　土師器片11点（坏類1，甕類10），須恵器片3点（坏類）が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　平坦面の縁辺部付近に等高線とほぼ平行して構築され，現在の畦畔とほぼ平行していることから，土地の区画または排水のためのものと考えられる。時期は，中世以降と想定される。

第15号溝跡（第383・384図）

位置　調査区西部のⅠ14e7～Ⅰ14h8区に位置し，西へ傾斜する斜面に立地している。

重複関係　第16号溝跡を掘り込んでいる。

規模と形状　南側と北側は調査区域外に延び，全容は不明である。N－7°－Wの方向に延び，確認できた長さは11.3m，上幅102～124cm，下幅22～36cm，深さ46～50cmである。断面は逆台形で，壁は外傾して立ち上がっている。

覆土　6層からなる。ブロックを含んでいる層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	暗	褐	色	ロームブロック少量，炭化物微量	4	暗	褐	色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量
2	暗	褐	色	ロームブロック・焼土ブロック・炭化物・褐沼ブロック微量	5	暗	褐	色	褐沼ブロック少量，焼土粒子微量
3	褐		色	ロームブロック・褐沼ブロック少量，焼土粒子微量	6	褐		色	ロームブロック少量

遺物出土状況　土師器片40点（坏類13，甕類27），須恵器片10点（坏類６，甕類４），陶器片１点（椀），鉄器２点，鉄滓２点が出土している。M98は覆土中から出土している。

所見　第14号溝跡と平行して延びていることから，性格や構築された時期はほぼ同じものと考えられる。また，少量ながら鉄滓が出土していることから，近隣で鍛冶に関連する作業が行われていたことが想定される。

第16号溝跡（第383図）

位置　調査区西部のⅠ14e7～Ⅰ14h8区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第15号溝跡に掘り込まれている。

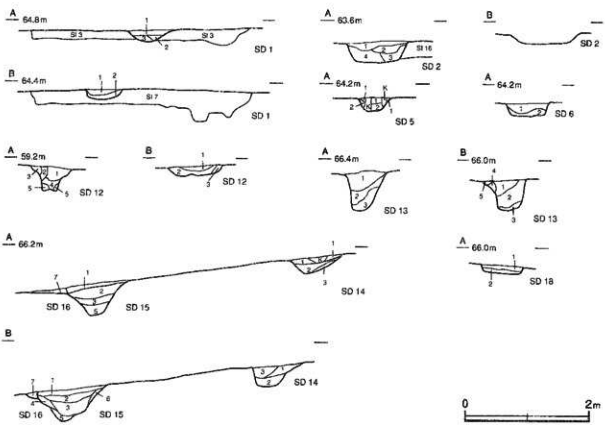
規模と形状　南側と北側は調査区域外に延び，全容は不明である。N－10°－Wの方向に延び，確認できた長さは9.7mで，上幅36～84cm，下幅21～74cm，深さ５～９cmである。断面は浅い逆台形で，緩やかに外傾して立ち上がっている。

覆土　単一層である。炭化物を含んでいることから，人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説
7　褐　　色　炭化物中量

遺物出土状況　土師器片16点（坏類３，甕類13），須恵器片３点（坏類），鉄器２点が出土している。いずれも小片のため図化できなかった。

所見　第15溝跡とほぼ平行して構築されていることから，同様の性格をもつものと考えられる。時期は，現在の畦畔とほぼ平行していることから中世以降と想定される。



第383図　第1・2・5・6・12・13・14・15・16・18号溝跡実測図

第18号溝跡（第383図）

位置　調査区西部のⅠ14i0～Ⅰ15i1区に位置し，尾根上の平坦面に立地している。

重複関係　第13号溝跡に掘り込まれている。

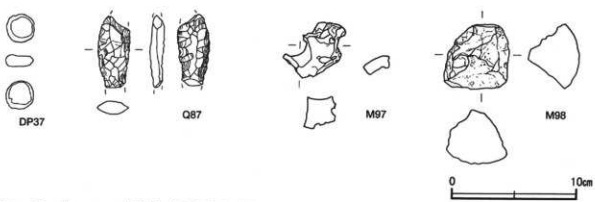
規模と形状　東側は第13号溝跡に掘り込まれ，西側は調査区域外に延びており全容は不明である。N－84°－Eの方向に延び，確認できた長さは5.8mで，上幅56～74cm，下幅24～54cm，深さ12cmである。断面は逆台形で，壁はほぼ直立している。

覆土　2層からなる。ロームブロックを含んでいることから，人為堆積の可能性が考えられる。

土層解説
1　褐　　色　ロームブロック少量，炭化粒子微量　　2　褐　　色　ロームブロック・炭化粒子微量

遺物出土状況　土師器片5点が出土している。いずれも小片のため，図化できなかった。

所見　第13号溝跡とほぼ直交して延びていることから，土地を区画したものと考えられる。時期は，中世以降と想定される。



第384図　第1・5・15号溝跡出土遺物実測図

第1号溝跡出土遺物観察表（第384図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
DP37	模造品	2.2	2.2	1.0	4.6	土	円盤状	覆土中	
Q87	尖頭器	(5.7)	2.2	1.2	16.0	ホルンフェルス	先端及び基部欠損	覆土中	

第5号溝跡出土遺物観察表（第384図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M97	鉄滓	4.4	4.9	2.6	46.1	鉄	管状の気泡がある	覆土中	

第15号溝跡出土遺物観察表（第384図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
M98	鉄滓	5.1	5.2	4.3	141.2	鉄	窯壁に付着したものか	覆土中	

(7)　井戸跡

第1号井戸跡（第385図）

位置　調査区東部のM20a9区に位置し，東へ傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　第214号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径2.2m，短径1.8mの楕円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは80cmほど掘り下げたが，湧水のために下部の調査を断念した。長径方向はN－5°－Wである。

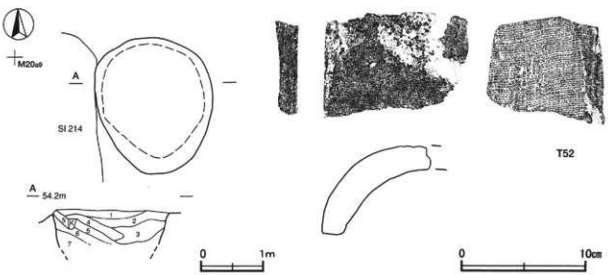
覆土　7層からなる。ブロック状の含有物を含んでいる土層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	鹿沼ブロック少量，ロームブロック中量	4	黒　褐　色	鹿沼ブロック中量，粘土ブロック微量
2	黒　褐　色	焼土ブロック・炭化物・鹿沼ブロック微量	5	黄　褐　色	鹿沼ブロック多量，炭化物・粘土ブロック微量
3	黒　褐　色	炭化粒子少量，ロームブロック・焼土ブロック・鹿沼パミス微量	6	暗　褐　色	鹿沼ブロック中量，ロームブロック少量
			7	褐　　色	ロームブロック中量，鹿沼ブロック少量

遺物出土状況　土師器片34点（坏類11，甕類23），須恵器片11点（坏類10，甕類1），瓦片1点が出土している。T52は覆土上層から出土している。

所見　時期は，不明であるが，覆土の状況が第2号井戸跡と類似していることから，ほぼ同じ時代に廃棄された可能性がある。



第385図　第1号井戸跡・出土遺物実測図

第1号井戸跡出土遺物観察表（第385図）

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
T52	丸瓦	(8.4)	(9.0)	2.5	(290.0)	土	凸面ナデ，凹面布目痕	覆土上層	

第2号井戸跡（第386図）

位置　調査区東部のL20j8区に位置し，東へ傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　第214号住居跡を掘り込んでいる。

規模と形状　長径2.2m，短径1.9mの楕円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは80cmほど掘り下げたが，湧水のために下部の調査を断念した。長径方向はN－46°－Wである。

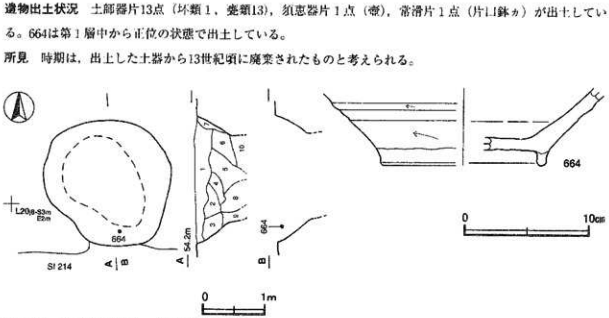
覆土　10層からなる。ブロック状の含有物を含んでいる土層が多いことから，人為堆積と考えられる。

土層解説

1	黒　褐　色	ロームブロック・炭化物少量，焼土粒子・粘土粒子微量	6	極暗褐色	ローム粒子・炭化物・粘土粒子微量
2	黒　褐　色	ロームブロック・焼土ブロック少量，炭化物微量	7	暗　褐　色	ロームブロック少量
3	極暗褐色	ロームブロック・炭化物少量，粘土ブロック微量	8	極暗褐色	炭化物・粘土粒子少量
4	黒　褐　色	ロームブロック少量，焼土ブロック微量	9	暗　褐　色	ローム粒子・焼土ブロック微量
5	極暗褐色	ロームブロック・焼土ブロック・粘土ブロック微量	10	黒　褐　色	粘土ブロック微量

遺物出土状況　土師器片13点（坏類1，甕類13），須恵器片1点（甕），常滑片1点（片口鉢ヵ）が出土している。664は第1層中から正位の状態で出土している。

所見　時期は，出土した土器から13世紀頃に廃棄されたものと考えられる。



第386図　第2号井戸跡・出土遺物実測図

第2号井戸出土遺物観察表（第386図）

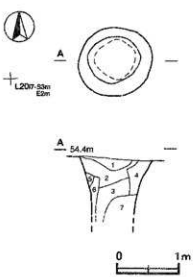
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	焼成	手法の特徴	出土位置	備考
664	常滑	片口鉢ヵ	－	(6.2)	[12.6]	石英・長石	灰白	良	ロクロ整形，内面摩滅	覆土上層	15%

第3号井戸跡（第387図）

位置　調査区東部のL20i7区に位置し，東へ傾斜する斜面の裾部に立地している。

規模と形状　長径1.2m，短径1.1mの円形で，円筒状に掘り込まれている。深さは90cmほど掘り下げたが，湧水のために下部の調査を断念した。長径方向はN－58°－Eである。

覆土　7層からなる。ブロック状の含有物を含んでいる土層が多いことから，人為堆積と考えられる。



土層解説

1　暗　褐　色　ロームブロック・炭化物少量，焼土ブロック微量
2　黒　褐　色　ローム粒子少量，焼土粒子・炭化粒子微量
3　黒　褐　色　ロームブロック・炭化物・泥沼ブロック微量
4　暗　褐　色　ロームブロック少量，炭化物微量
5　褐　色　ローム粒子多量
6　黒　褐　色　ローム粒子少量
7　黒　褐　色　ロームブロック・泥沼ブロック微量

遺物出土状況　遺物は出土していない。

所見　時期は，不明であるが，覆土の状況が第1・2号井戸跡と類似していることから，ほぼ同じ時代に廃棄された可能性が考えられる。

第387図　第3号井戸跡実測図

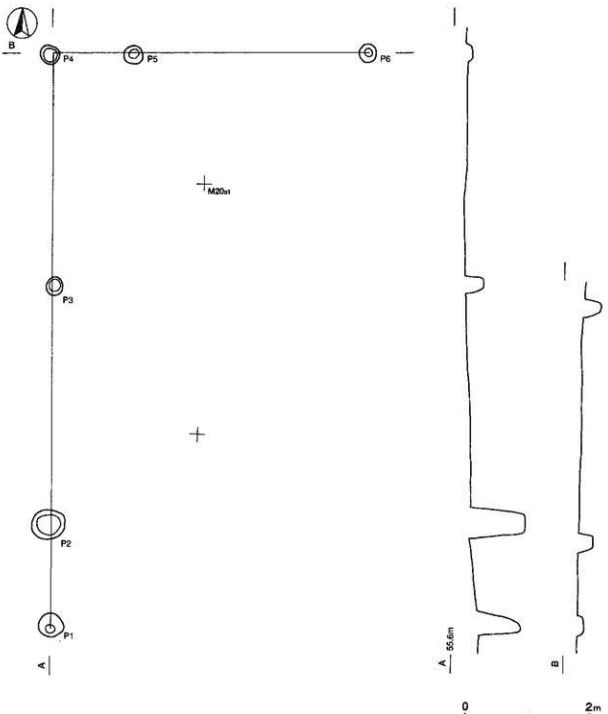
〔8〕 柵跡

第４号柵跡（第388図）

位置　調査区東部のＬ19j0区に位置し、東に傾斜する斜面の裾部に立地している。

重複関係　第６号地下式壙を掘り込んでいる。

規模と形状　Ｐ１～Ｐ６が確認され，柱穴と考えられる。長さ14.2m，柱間は1.4～3.8mで，方向はＮ－２°－Ｗを指し，Ｌ19j0区付近でＮ－86°－Ｅへ屈曲している。柱穴の規模は長径0.28～0.54m，短径0.28～0.48mの円形である。断面形は逆台形で，深さは10～92cmである。



第388図　第４号柵跡実測図